

本日演說討論方法

附集會條例類纂

三宅虎太校閱
木瀧清類編纂

演說之部

東京書肆

甘泉堂
柳井心堂

發兌

日本演說討論方法序

我邦ノ演說討論會ハ明治六年ノ頃ヨリ始マリ近時漸ク其勢力ヲ得ントスルニ至レリ然レモ此事タルヤ未ダ日淺クシテ僅々タル學者辯士ガ此レニ從事スルニ過ギズシテ吾黨悉ク之レニ從事シ能ハザルハ誠ニ遺憾ニ堪ヘザル所ナリ抑モ演說討論ノ事タル政治法律文學宗教風土人情何クレトナク各自意見ノアル所ヲ演ベテ之レヲ他人ニ傳ヘ共ニ世運ノ開達事物ノ改良ヲ促シ又互ニ持論思想ヲ口ニシテ其正理ヲ究ム故ニ泰西人ハ夙トニ此ノ二者ヲ以テ人智開進ノ最大良器

トシ常ニ之レヲ學ブヲ情タラズ看ルベシ泰西諸國
ト我邦ト開化ノ遲速アルヲ吾黨嘗テ憂ヘテ曰ク泰
西人ハ概テ物ヲ利用スルノ道ヲ知り我邦人ハ物ヲ利
用スルノ道ヲ知ラズ否其道ヲ知ラザルニアラズシテ
之ヲ知ルモ行ハザルカ故ニ遂ニ知ラザルニ陷ルハ豈
悲シカラズヤト思フベシ彼レモ人ナリ我モ亦人ナリ
彼レハ三寸ノ舌頭能ク千言萬語ヲ演ベ千古ノ陋弊ヲ
破却シテ頗ル人權ヲ擴張セシ蹟ヲ見ルナリ夫レ眞ニ
然リ而シテ彼レノ舌頭ト我ノ舌頭ト何レニ異ナル所
アリテ彼レノ如クナシ能ハザルヤ是レ他ナシ我邦未

ダ彼レガ如ク二者ノ法充分ニ開ケザルガ爲メノミ既
ニ先覺ノ士ハ之ヲ察シテ此二者ニ從事シ自己ノ舌頭
ヲ利用スルニ致々タルヲ以テ稍ヤ今日ノ景況ニ及ベ
リ然レモ衆人ハ其利器アリテ之ヲ利用セズ徒ラニ他
人ノ演說討論ヲ聽クヲノミナシテ此ノ僅々タル數辯
士ニ舌頭利用ノ權ヲ放任シテ敢ヘテ意ニ介セサルハ
所謂彼ノ泰西諸國人ト我邦人ト物ノ利用ヲ知ルト知
ラザルトニ憂ヒアルガ如シ今ヤ我邦國會開設ノ期モ
既ニ定マリ官民專ラ其準備中ナリ他日國會議堂ニ代
議士トナリ國事ヲ論スルノ時ニ於テハ此二者最モ緊

要ニアラズヤ果シテ言ノ如クンバ之レガ方法ヲ知リ
テ之ヲ實地ニ研究スルハ無益ノ業ニアラズシテ有益
欠ク可カラサルノ業タルベシ看者幸ニ之レヲ察シ此
書ヲ以テ自己ノ利器ヲ利用スルノ軌範トスルアラバ
編者ノ此舉モ亦空シカラズシテ其結果ヤ功績アルベ
シト信ズルナリ

明治十五年三月上浣

木瀧清類識

日本演說討論方法目錄

上卷 演說之部 [演說會場之圖]

- 第一條 演說者ニ必要ナル箇條ノ總論
- 第一 學問
- 第二 剛強ノ心
- 第三 記憶力
- 第四 音聲
- 第二條 演說ノ學ビ方
- 第三條 演說ノ主意ヲ定ムル事
- 第四條 演說者體容ノ事
- 第五條 演說者音聲ノ事
- 第六條 演說中ノ注意
- 第七條 手ノ動カシ方
- 第八條 足ノ踏ミ方

- 第九條 演說ノ仕方
 - 第一 學術演說ノ例
 - 第二 政談演說ノ例
 - 第三 全意味分解ノ例
 - 第四 全開戰演說ノ例
 - 第五 全和議演說ノ例
 - 第六 起業勸誘演說ノ例
 - 第七 席上演說ノ例
 - 第八 全答辭ノ例
- 下卷 討論之部〔討論會場之圖〕
- 第十條 討論會ノ目的
- 第十一條 討論會ノ組立方

- 第十二條 討論ノ名稱並ニ諸規則ノ事
- 第十三條 通常會臨時會
- 第十四條 討論順序方法
 - 第一 嚶鳴社討論ノ例
 - 第二 國友社討論ノ例
 - 第三 立誠會討論ノ例
- 附錄
- 東京代言組合總會議事錄
- 遼頭
- 集會條例類纂

以上目錄終

演說會場之圖



例言

一 該書ハ演說討論ヲ學ハントスル者ノ爲メ編纂スルモノニシテ上下二卷ニテ終ル上卷ニハ演說ノ方法ト其實例トヲ掲ケ下卷ニハ討論ノ方法ト其實例トヲ掲ケ實地上容易ニ之ヲ試ミルヲ得セシメントス

一 書中掲グル演說討論及附錄東京代言人組合ノ議事録ハ唯參考トナスベキモノニシテ其主旨ヲモ斯クナセト云フコアラズ

一 捲頭ニ集會條例ト右ニ關スル伺指令及刑法中演說ニ關スル條ヲ載セタリ是レ演說會討論會ニ關スル者ノ一日モ欠クベカラザルモノ故ニ之ヲ載ス宜ク熟讀アリテ之レヲ奉スルヲ要ス

明治十五年三月

編者誌

○集會條例類纂
 第一條 政治ニ
 關スル事項ヲ講
 談論スル爲メ
 公衆ヲ集ムル者
 ハ開會三日前ニ
 講談論議スル人
 ノ姓名住所會同
 ノ場所年月日ヲ
 詳記シ其會主又
 ハ會長幹事等ヨ
 リ管轄警察署ヘ
 届出ヲ其認可ヲ
 受ク可シ
 ○宮城縣ヨリ
 内務省ヘ伺
 集會條例第
 一條中政治
 ニ關スル事
 項ヲ講談論
 議スル爲メ
 云々ト有之
 右政治トハ

日本演說討論方法上卷

演說之部

三宅虎太 拔閱
 木瀧清 類編纂

第一條 演說者ニ必要ナル箇條ノ總論
 演說者ニ必要ナルモ
 ハ其數夥多アリテ一朝ニ盡シ難
 最モ必要欠ク可カラザルモノ一
 二ヲ舉グレバ左ノ如シ

第一學問 學問ノ演說者ニ必要ナリトスルモノハ他ナ
 シ茲ニ其理ヲ述ベンニ一演說者アリテ演說壇上ニ登
 リ演說センニ其演說ヤ音聲清雅無濁ニシテ堂々論述
 スルアルモ其論ニカナク
 ラニ清音雅調ヲ聽クノミ
 ニソ豈ニヨク聽衆ヲシテ感動セシムルコトアラシヤ特

海ノ内外ナ
問ハス渾テ
各國政体上
ニ亘ル儀カ
又ハ單ニ日
本政体ニノ
可前段伺
○長崎縣ヨリ
法制部へ質問
第一條
條例第一條
ニ政治ニ關
スル事項ト
アルハ現ニ
施行シアル
所ノ政法或
ハ各府縣ニ
テ制定シタ
ル現今施政
其他外國政
政法ト雖モ

リ其演說ノ聽衆ニ感動ヲ與フルハ天文地理、性理、歴史
學ニ長ズル者ガ演說ノ際物ニ事ニ一々其學知スル所
ヲ引用例證シテ充分ニ說キ盡サバ其說ク所明瞭確實
他ノ音聲ノミニテ學問ナキ徒ノ比ニアラザルナリ故
ニ最モ之ヲ要スルナリ

第二剛強ノ心 演說者ニ剛強ノ心ヲ欠クハ假令自己
ノ思想充分アルモ聽衆ニ向テ之ヲ吐露スルコト得ズ
所謂オシレガクルコアリ故ニ最モ之ヲ要スルナリ

第三記憶力 演說者ニ記憶力ナキハ已レガ演ベント
スルモノヲ忘レ良例ヲ引キ來リテ論述セント期シタ
ルモ其壇上ニアリハヤ之ヲ忘レテ案出スル能ハズシ
テ其演說ノ目途ヲ違フコト類アレハナリ是レ演說者

引用シ來リ
テ當ニ我國
ニ施行スヘ
シト說ツカ
如キモノヲ
指シタルニ
テ單ニ外國
ノ政法本邦
ノ古政ヲ講
スル等ハ此
政治守外ト
相心得可然
哉
○回答 其解
ノ通リ
○岡山縣ヨリ
法制部へ質問
第一條
論議ノ事項
云々ト有之
右事項トハ
如何ナル見
解ヲ下スヘ

ニ記憶力ノ最モ必要ナル所以ナリ

第四音聲 凡ソ演說者以上ノ三ツヲ具備セバ茲ニ音聲
ノ必要ヲ覺ユ抑モ演說者ガ以上ノ三者ヲ具備スルモ
音聲ヲ以テスルニアラザレバ說ヲ聽衆ニ聽カシムル
ノ便ナシ是レ其必要ナル所以ナリ

第二條 演說ノ學ビ方

演說者タラント欲セバ常ニ他人ノ演說ヲ聽キ及ヒ多ク
演說ノ筆記ヲ讀ミ毎日怠ラズ二三回發音ヲ習學スベシ
(其發音ノ度ハ音聲ノ條ヲ見テ知ルベシ)而シテ己レガ演
ベント欲スル所ヲ筆記シテ閑室等ノ壁ニ向ヒ獨リ直立
或ハ直坐シテ筆記ヲ見テ順ニ演ベ立ツベシ如此スルコ
再三再四ニ己レト稍ヤ筆記ノ意ニ違ハザル演說ヲナ

キ哉或ハ之
チ論議ノ大
体普通ノ標
カノ如キ旨
題ト解スル
趣又ハ其論
議全體文ノ
考案ト解シ
可然哉
○回答 標題
又ハ考案ニ
拘ハラス其
事項ヲ解シ
得ルニ止ル
○石川縣ヨリ
法制部へ質問
第一條ノ場
合ニ於テ會
主又ハ會長
等ヨリ届出
ル書面講談
論議ノ事項
トアルハ題

シ得ルヲチ覺知セバ筆記ナシニ之ヲナシ試ミ意ノ如ク
ナラハ最早事足ルベシ
第三條 演説ノ主意ヲ定ムル事
凡ソ何ニ限ラズ一ノ演説ヲナサントスルキハ先ヅ其演
説セントスル處ノ主意ヲ定メサル可カラズ主意ノ定マ
ラサル演説ハ其説ク所何ノ点ナルヤ聽衆ガ聽キ取ルニ
苦シミ又已レモ主意ノ定マラサル演説ハナシ能ハサル
一最モ知リ易キ理ナリ故ニ最初ヨリ其主意ヲ定メ其説
カントスル所ノ思想ヲ熟シ後ヲ預メ之ヲ聽衆ニ告グベ
シ
第四條 演説者體容ノ事
演説者ハ其體容ヲ正フスル一最モ緊要トス其體容整ハ

目ノミチ云
フ哉又ハ其
趣意ヲ詳説
セシムル哉
○回答 題目
ト趣意トニ
拘ハラス其
事項ヲ解シ
得ルニ止ル
○静岡縣ヨリ
法制部へ質問
第一條第二
條ニ關スル
事項ト有之
ハ講談論議
スル事項趣
意概畧ヲ記
載爲届出候
儀ト相心得
可然哉又ハ
單ニ標題ノ
致候儀ニ候

ズ或ハ頭首ヲ傾ケ或ハ頭首ヲ上下スル一ニ度ナキキハ
聽衆ノ輕侮ヲ受クルヤ必セリ聽衆ノ輕侮ヲ受クルキハ
其説ク所ノ千言万語一モ聽者ヲ感服セシムル一能ハス
シテ遂ニ無益ニ屬スルナリ故ニ其體容ヲ正フシ直立シ
テ以テ卑シキ體ニ流レサルヲ緊要ナリ
第五條 演説者音聲ノ事
演説者ニ音聲ノ要用ナルハ言フ迄モナキ處ナレモ其音
聲ノ調子ヲ美妙ニシ喜怒哀樂正邪善惡其説クモノニ付
音聲ノ變化使分ケナカルベカラス譬ハ喜フ可キ一ヲ
言フニハ左モ喜ハシゲニ言ヒナシ又怒レル一ヲ言フニ
ハ左モ怒レルガ如クシ其使用度ニ適スル様注意スベシ
如斯ナルキハ必ス聽衆ヲ感動セシメ爲メニ喝采ヲ受ク

○哉
 ○回答 第一
 條ニ於テ届
 出ツヘキ講
 談論ノ事
 項ハ其趣意
 概テ止ル
 第二條ノ屈
 出ニ於テ不
 分明ノ事
 ラハ更ニ尋
 問スヘシ
 ○岡山縣ヨリ
 法制部ヘ質問
 此條例ニ政
 治ニ關スル
 事項トアル
 ハ日本帝國
 ノ政治上ニ
 止ラズ政治
 内外ノ政治
 ニ關スル事

ルニ至ルベシ若シ之レニ反スルキハ徒ラニ聴衆ヲシテ
 倦怠ノ情ヲ惹起スニ至ルカ又嘲笑ヲ受ク故ニ最モ茲ニ
 注意ヲ要スル處ナリ然レモ餘リニ之ヲ力メテ落語家ニ
 類スルコトアラサル様注意セサル可カラズ之ヲ要スルニ
 只音聲ヲ美妙ニシテ物ニ因テ音聲ニ長短高抵遲速壯快
 活潑激怒銳意傲慢憂愁哀訴怨恨嘲弄不滿感服尊敬信任
 娛樂満足等ノ情ヲ音聲ヲ自在ニ變化使用シテ示ス一
 大緊要ト知ルベシ而シテ通常演說中ノ音聲ハ高カラズ
 低クカラサル様中ヲ取リテ演ベ立ツベシト雖モ其主眼
 ニ至リテハ特ニ聲ヲ高クシカヲ入ル、チ可トス
 第六條 演說中ノ注意
 演說中特ニ注意スベキモノハ心胸ヲ泰然ニシ物ニ觸ル

項ヲモ講談
 論議スル主
 義ナル哉
 國事政治ニ
 談論スルニ
 非スシテ專
 ラ講學又ハ
 知識ヲ弘ム
 ル爲メニ演
 說若クハ論
 議スル者ハ
 此集會條例
 ニハ關セサ
 ルモノト心
 得可然哉
 ○回答 其見
 解ヲ以テ允
 當トス
 但シ前項
 外國ノ事
 項ニ關スル
 事項ハ此
 限ニアラ

、モ恐怖スルナクシテ言語ハ本題ノ外ニ走ラサル様ト
 演說ノ冗長言語ノ鄙野猥褻舉動ノ敬禮ヲ欠クト目ヲ上
 ニノミ注グカ又ハ下ヘノミ注ガサル様ト水ノ飲ミ方ヲ
 繁クナサ、ル様ニ注意スベシ演說ニ習レザル者ハ兎
 角右等三四ノ弊アリテ見苦ルシ深ク慎ムベシ
 第七條 手ノ動カシ方
 演說者ハ敢テ手ヲ動カス可ラス其之レヲ動カスニハ自
 然ノ方ナカル可ラス而シテ此方タル演說者自ラ聴衆ニ如
 何ナル方ヲ以テセバ感動ヲ増サシムルカヲ思考シ事物
 ニ付キ種々様々ナル物体ノ手眞似ヲナスコト譬ヘハ人ヲ
 招クニハ招ク手付キチナシ人ヲ逐フニハ逐ヒ出ス手付
 キチナシ方圓ヲ說クニハ方圓ノ手付キヲナスガ如クシ

○埼玉縣ヨリ
 法制部へ質問
 第一條政治
 項ヲ講談論
 議スル云々
 トアリ然レ
 ハ農工藝等
 ノ如キ其技
 術ヲ練磨ス
 ル目的ヲ以
 テ公衆ヲ集
 ムルモノハ
 固ヨリ其目
 的ヲ異ニス
 ルニ付該條
 例外ト見做
 スヘキモノ
 ナルヤ
 同條中講談
 論議ノ事項
 ナ届出認可

ベシ而シテ常ニハ多ク胸部ニ双手ヲ置ク可トス又事
 物ニ因テ活潑ナルヲ説クニハ双手ヲ間斷ナク動カス
 ナ可トス其他ニハ粗暴ニ手ヲ動カス可カラズ總テ手ヲ
 動カスキハ手ヲ動カスニ從ツテ眼ヲ其手先キニ注クヲ
 以テ法トス然レモ又或場合ニ因テハ之レヲ欠クニアラ
 サレバ形容シ能ハサルヲアルヘシ斯ルキニハ之レヲ欠
 シモ不可ナキナリ左レド聽衆ニ對シ無禮ナル手付キチ
 ナス可カラス

第八條 足ノ踏ミ方
 演說者壇場ニアツテ兩足ノ踏方ニ注意シ堅固嚴正ニナ
 サレハ其説ク處ノ説モ正確ヲ得サルニ至ルヘシ何ト
 ナレハ演說者ニシテ兩足ハ恰モ家屋ノ基礎ノ如シ基礎

○回答前項
 ハ其見解ヲ
 以テ允當ト
 ス後項ハ題
 目ヲ摘録ニ
 ハラス其事
 項ノ主意ヲ
 解シ得ルニ
 止ル
 第二條 政治ニ
 關スル事項ヲ講

固カラサレバ家屋自ラ不堅固ナルハ勢ノ正ニ然ル所ナ
 リ故ニ壇ニ登ルヤ先ヅ兩足ノ踏ミ方ニ注意シ其踏方ヲ
 變スルニモ急遽過ナキ様ナスヘシ若シ其舉止過チア
 リテ「テーブル」ニ手ヲツキ之ヲ顛覆スル如キコアラハ必
 ス聽衆ノ輕蔑ヲ受クルニ至ラシ深ク茲ニ注意スヘシ

第九條 演說ノ仕方
 演說ノ仕方ハ通例諸君ヨ諸君ヨ云々ト言ヒ出シ聽衆ヲ
 喚起スベシ是レ多ク注意ヲ増スニ足ル又最初ヨリ本題
 ナ言フ者アリ又嗚呼諸君ヨト言ヒ出スアリ又譬ヘテ設
 ケ或ハ例ヲ引キ來ツテ後チ本題ニ入ルモノアリ又席上
 演說祝詞等其法一ナラス因テ今本邦有名ノ辯士二三ノ
 演說筆記ヲ左ニ掲ゲテ之レガ適例ヲ示スベシ演說ヲ學

談論議スル爲メ
 結社スル者ハ結
 社前其社名則
 會議及社員名
 簿ヲ管轄警察署
 ニ届出テ其認可
 ヲ受ク可シ其社
 則チ改正シ及ヒ
 社員ノ出入アリ
 タルトキ此届出
 タルヘシ此届出
 チ爲スニヨリ警
 察署ヨリ尋問ス
 ルヲアレハ社中
 ノ事ハ何事タリ
 トモ之レニ答辨
 スヘシ
 ○長崎縣ヨリ
 法制部へ質問
 第二條ニ政
 治ニ關スル
 事項ヲ講談

ハントスル者幸ニ之ヲ熟讀玩味シテ實地ニ之レヲ試ミ
 ラレヨ

○第一學術演說ノ例演說ノ主義ヲ論ス

中村正直演說

今日ハ東京第一中學即チ此所ニ於テ始メテ演說會ヲ催
 ウサレベキ旨ニテ我ハソノ教員ヨリ招カレ何ゾ一席ノ
 話說ヲナスベキ由チ囑セラレタリ
 凡ソ物ハ始メアレハ必ズソノ繼續關係アルコトナレハ演
 說會コノ後モ續テアルヘキコト思フ故ニ演說ノ主義ヲ
 言ハント欲ス
 凡ソ論說トイフモノハ思想ヨリ發スルモノナリ心中ニ
 思想スルコト口外ニ發ス思想ハ一己ノ中チ出テス談說

論議スル爲メ
 結社スル者ハ結
 社前其社名則
 會議及社員名
 簿ヲ管轄警察署
 ニ届出テ其認可
 ヲ受ク可シ其社
 則チ改正シ及ヒ
 社員ノ出入アリ
 タルトキ此届出
 タルヘシ此届出
 チ爲スニヨリ警
 察署ヨリ尋問ス
 ルヲアレハ社中
 ノ事ハ何事タリ
 トモ之レニ答辨
 スヘシ
 ○長崎縣ヨリ
 法制部へ質問
 第二條ニ政
 治ニ關スル
 事項ヲ講談

ハ他人ノ前ニ演ス演說ハ他人ノ前即チ廣人稠衆ニ向ヒ
 己カ思想ヲ十分ニ發シ自己ノ唇ヨリ聲音言語ヲ出シ他
 人ノ耳根ニ徹シ心理ニ入り他人チシテ己カ談說ヲ理會
 セシメント欲スル者ナリソノ甚シキニ至テハ他人チシ
 テ吾カ說ニ感服シ聽衆ヲシテ吾ト同シキ意見トナラシ
 メンコト期スルモノナリ
 カク論シテ見ルトキハ演說ハ言語ノ敷衍擴張セルモノ
 ニシテ人ト我トノ間ニ關係ヲ有テル者ナリ我ニ意見ナ
 シ思想ナク及ヒ我ニ意見アリトモ思想アリトモ自分ニ
 陰カニ隠ストカ或ハ自分ノ中ニ止マリ他人ニ話シ聞セ
 タキト思ハサレハ演說トイフモノハ之レナキナリ由是
 觀レ之ハ演說ハ要シテ之ヲ言フニ我カ意思ヲ伸ベ他人ニ

之ヘク哉
 ○回答 條例
 ノ限ニアラ
 ス但其舉動
 民心ニ妨害
 アルト視察
 スル片ハ明
 治十一年第
 二十九號達
 ニ依リ處分
 スヘキモノ
 トス
 ○石川縣ヨリ
 法制部へ質問
 第二條ノ場
 合ニ於テ結
 社ノ許可ヲ
 得タルモノ
 公衆ヲ集メ
 其社員ノミ
 講談論議ス
 ル片ト雖モ
 其都度必ス

被ムヲシメントスルヨリ生ス前後ヲ論スレハソノ動力
 ハ我ヨリ發スルナリ他人ノ心意ヲ鑿カシムルニ非ス我
 自ラ思想議論ヲ世人即チ聽衆ニ言ヒ顯ハシ以テ我カ心
 意ヲ快ウスルナリ譬ヘハ旨キ物自己ニ食スル計ニテ事
 足ラスト思フニ由テ我カ家内ノ人ニモ分チ與ヘ隣家ヤ
 親類ニモ分送セントスルナリ結句人ニモ旨キ物ヲ食ハ
 セテ以テ吾カ心意ヲ鑿カシメ自ラ満足スルヲ求ムルニ
 外ナラサルノミ
 コノ他人ニモ旨キ物ヲ食ハセシト思ヒ分送スル如クコ
 ノ自ラ旨シトシ自ラ喜ブ意見議論ヲ他人ノ前ニ演述ス
 ルハ其心虛ナリヤ實ナリヤ其事假ナリヤ真ナリヤ其意
 偽ナリヤ誠ナリヤ余曰ク實ナリ真ナリ而シ誠ナリ

警察官監臨
 儀ナル哉
 ○説明 警察
 官ノ見込ニ
 任セ必スシ
 モ監臨視察
 スルニ及ハ
 ス
 但シ結社
 ノ者他ノ
 公衆ヲ集
 ムル片ハ
 更ニ第一
 條ノ手續
 チナサシ
 ムルハ勿
 論ト雖モ
 監臨視察
 スルハ本
 文ノ通り
 ○愛知縣ヨリ
 法制部へ質問

易ニ曰ク修辭立其誠トイフハコレナリソノ詞ヲ金玉ニ
 シソノ文ヲ錦繡ニスルトモ誠ナキノ言辭ハコレヲ剪採
 ノ花ニ譬フ美觀アレトモ一時ニ炫耀セルノミ毫モ生
 氣ナシ光色ナシ芬香ナシ故ニ一席ノ話タリトモ單言隻
 辭ナリトモ務メテ胸中ニ思フホコロソ實心底ニ存スル
 トコロソ眞口頭ニ言ハント欲スルトコロソ誠ヨリ出ル
 コト期セサルヘカラス誠トイフモノハ自然ニ外ニ見ハ
 ルハモノナリ何ホド隱サントシテモ隱シオラサレヌモ
 ノナリ火星カ爆テ綿ノ中ニ入ル如ク初ハ見ヘサントモ
 暫ラクスル際ニキナ真クナツテ忽チ火ノアルトコロソ
 露顯スルガ如シ夫レ隱スコサヘ出來ヌハ誠ナリコソ誠
 チ立テコソ誠ヲ存シコソ誠ヲ蓄ハヘサテ言辭ニ發スレ

甲地居住ノ者乙地某社ニ加入シタル所轄ノ警署ニハ別段届出ニ及ハス候哉
 ○説明 其見解ノ通リ
 ○兵庫縣ヨリ警視局へ質問
 結社前届出ヲ爲ス可キ人名記載ナシト雖モ發起人又ハ社長ヨリ届出サスヘキ乎
 ○答 然リ
 社則チ改正シ及ヒ社員ノ出入チ届

ハ豈ニ天ヲモ鬼神ヲモ動かサ、ランヤ
 易ニ又言有レ物而行有レ恆トアリ有レ物トハ言語ニ實事實物ノアルコト言フナリ偽ハリ飾リテ何モ真味ノナキヲ戒メテカクハ言レシモノト覺ユ
 右ノ如ク論シ來ルト演說ハ六ヶ敷モノニテ妄リニ出來ヌ様ニ見ユレドモ決シテ然ラスタゞ演說ハ何デモ我カ思フトコロノ實ヲ外ニ言出スヲ主義トナスヘシトイフ
 ノミ狐ヲ黒トイフナカレ烏ヲ白トイフナカレ鹿ヲ指シテ馬ト爲スナカレ議論ノ調子ニ乗シテ平生ノ說ヲ變スル勿レ心ニ是トシ口ニ亦是トイフ心ニ非トスレハ口ニ亦非トイフカクスレハ演說ハ忠信ヲ道達スル器具トナルニ庶幾カルヘシ然リト雖モコ、ニ着眼スヘキコアリ

出ルハ社長ヨリ届出サスヘキ乎
 ○答 然リ
 國會願望又ハ建白等チ目的トシ又ハ結社集會スルハ政體上ノ講談論議ニアラサハチ以テ集會條例ニ依ラスシテ可然乎果シテ然レハ政體上ノ講談論議ニアラストハ徒ニ名義ノミニテ其實政體上ノ利害得失ヲ閣テ國會

我ニ一是非アリ彼ニ一是非アリコノ渺茫タル世上ハ真理ノ大海ナリ我カ一己ノ說ヲノミ是トシテ妄リニ他人チ非トスベカラズ但シ今日我等ノ見識ハ是トスルトコロチ認メサルヘカラス故ニ一學校ニ居ルトモ一社會ニ列員タルトモソノ時ソノ處ニ際シ利害是非公私曲直ト兩ニ形ハレ出ルトキハ細心ニ思慮シ事況ノ顛末ヲ察シ自己ノ良心ニ原ツキ認實スルトコロノ考按ヲ立テ十分ニ論辨ヲ爲スナリ或ハ後日ニ再考シテ是非ヲ誤ルトモ其時ニ至リ改ルチ憚ル勿レハ可ナリカクスレハ決シテ吾自己チ欺クノ罪ニ非ス良心ニモ愧サルナリ良心ニ愧サレハ天地神明ニモ愧サルナリ故ニ曰ク論說ハ務メテ胸中ノ實ヲ吐クヘシコレチソノ主義トナス演說ハ動力

請願又ハ建
議等ヲ爲ス
政シキ起因
ナシハ定體
上ハ講談論
議ニアラサ
ルナシ然レ
モハ結社ス
ルハ條例第
二條ハ一時
集會スルモ
一ノ條例第
一ノ條ヲ守
セシムヘキ
手矢張名義
ノミニ依テ
之レヲ檢制
スヘカサ
ル平
○答
望或ハ建
等ヲ爲サ
下ニ結社又

ノ機ヲ己ヨリ發スルモノナリ故ニ己ヨリ他ヲ廻轉スヘ
シ他人ニ徇カヒ之カ爲ニ廻轉セラレベカラズ
以上ハ中村敬宇先生カ曾テ演說セラレシ所ノ筆記ニ
シ能ク演說ノ主義ヲ明示セリ因テ演說ヲ學ハントス
ル者先ツ之ヲ學術演說ノ例トシ見做サスシテ讀ミ
了ラバ自ラ演說ノ方法ヲ熟知スルコ便ナルベシ
○第二政談演說ノ例(國政論) 沼間守一演說
諸君ヨ吾々ガ棲息スル地球上ハ別チテ之ヲ五大洲ト爲
ス而シテ其上ニ星羅スル所ノ邦國ハ指以テ屈スル事能
ハスト雖モ而モ多數各國ノ中ニ就テ歐羅巴ノ諸邦及北
米ノ合衆國ハ文明ノ光開化ノ輝各國ノ表頭ニ發灼シテ
國運ノ進否他ニ比シテ格段ノ相違ヲ見ルナリ今夫レ此

ハ集會シテ
講談論議ス
ル者其目的
ニ關スルヲ
以テ本例ヲ
遵奉セサル
可ラサルハ
勿論ト考フ
第三條 講談論
議ノ事項講談論
議ノ日ノ定期
及ヒ會日ノ其定
期ヲ列會日ノ三
日前ニ警察署ニ
届出テ認可ヲ受
クルハ附後ノ
例會ハ届出ニ及
ハスト雖モ之ヲ
變更スルトキハ
第一條ノ手續ヲ
爲スベシ

諸國ハ何レノ時代ニ當リテ文化ノ種子ヲ播布シタル者
ナル乎試ミニ世界ノ千年以前ヲ回想セヨ彼等ハ果シテ
今日ノ文明開化ヲ具ヘタル乎余ヲ以テ之ヲ見レハ此時
代ニ於テハ國運ノ度各國或ハ小差ナキニ非ズト雖モ蓋
シ相共ニ劣ラス讓ラズ所謂兄タリ難ク弟タリ難キノ有
様ヲ以テ未開ノ社會ニ併立シテ互ニ勢力ノ擴張ニ怠タ
ラザリシ也彼西洋諸國ガ一千五百年前ニ當リテヤ宗旨
ノ戰爭ハ卒歐ニ波及シテ腕力ノ手段暫クモ間斷ナク搏
撃呑噬ノ殺風景恰カモ我日本ノ保元平治及ヒ元龜天正
ノ戰亂ニ比ス可キ者アリシ今日吾々ヲシテ此時代ヲ評
セシメバ晴レ渡リタルノ良夜ニ天上ヲ仰視スルト一般
ナルナカラシカ夫レ九天萬里ニ點ノ雲ナク數多ノ星宿

○警視局ヨリ
 法制部へ問答
 集會條例第
 三條ニ講談
 論議ノ事項
 云々トアリ
 右事項トハ
 講談論議ノ
 題目ニ候哉
 若クハ草案
 ニ候哉又同
 條中ニ定期
 アルモノ云
 ヲトアリ假
 令社員ノミ
 ノ集會ト難
 モ其事項ヲ
 變更スルキ
 ハ認可ヲ得
 ハキ儀ニ候
 哉
 右ノ廉々詳
 細御示教有

光ヲ争フテ互ニ相讓ラス或ハ形ニ大ト小トアレハ光ニ
 淡ト濃トアルカ如キ豈宛然トシテ當時ノ形勢ヲ寫シ出ス
 者ニ非ズヤ然ルニ何ゾ計ラン歐米ノ國歩進行ノ速カナ
 ル文化ノ光輝俄然トシテ近代ニ照射シ豹變ノ勢吾々ヲ
 シテ愕然タラシメ以テ今日ノ邦國ヲ作り出スニ及ベリ
 蓋シ其初メニ當リテ之ヲ推考スルニ歐米ノ文化ハ東方
 ノ國ヨリ輸入シタル者ニシテ亞細亞ハ之レガ萌芽ヲ與
 ヘタルニ異ナラズ斯ノ如キハ既往ノ證跡ニ照鑑シテ争
 フベカラサル者アルナリ今ヤ却テ彼レガ文化ノ父母タ
 ル亞細亞ノ諸國ハ依然トシテ活動ノ勢力ナク只々微々
 タル星光ヲ争フノ時ニ當リ歐米ノ明月俄カニ東方ニ出
 現スルニ及デアハレ衆星ハ其光ヲ失ヒ彼レ高ク中天ニ

之度此段及
 御問合候也
 ○同答前項
 ハ題目又ハ
 草案ニ拘ハ
 ラス其事項
 ナ解シ得ル
 ニ止ル後項
 ハ見解ヲ
 以テ允當ト
 ス
 第四條 管轄警
 察署ハ第一條第
 二條第三條ノ
 出テニ於テ國
 ニ妨害アリト
 ムルキハ之ヲ認
 可セサルヘシ
 ○長崎縣ヨリ
 法制部へ質問
 第三款
 第四條ニ管
 轄警察署ハ

輝キテ亞細亞諸州ノ如キ殆ント有レドモ無キガ如キノ
 有様トハ成リ果テタリ豈ニ痛嘆スベキニ非ズヤ人若シ
 余ヲ以テ西癖ニ酔フ者ト爲サハ是レ大ナル誣言ト云フ
 ベシ歐米文化ノ灼々タル焉ゾ之ヲ賞セザルヲ得ンヤ亞
 細亞ノ國勢微々トシテ振ハサル豈之ヲ嘆セザル可ケン
 ヤ歐米ノ文化ヲ見テ而カモ欣羨スル所ナク只々自國ノ
 偏愛ニ陷サラハ則チ頑固ト呼バンノミ余ハ今歐洲商況
 ノ一端ニ就テ開陳スル所アラントス諸君試ミ見ヨ彼
 英國ノ如キ金利ノ低價ハ豈驚ク可キニ非ズヤ通常ニ朱
 或ハ三朱ノ間ヲ上下シテ而シテ之ガ借主タル者甚多カ
 ラザルナリ貸主豈利足ノ昇騰ヲ欲セザランヤ然レトモ
 之ヲ貴フスレバー一ノ債主ナキヲ奈何セシ彼國人ノ情況

云々國安ニ
妨害アリト
認ムルハ
之ヲ認可セ
サルヘシト
有之就テハ
當ニ警察官
ニ於テ表面
正的ニ其妨
害ヲ見サル
モ實々口我
國體國政ヲ
汚損シ人心
ヲ迷惑スル
モノアリト
見認ル時ハ
認可セス或
ハ退去ヲ命
シ可申果シ
テ然ラハ不
認可又ハ退
去ヲ命シテ
ル後ニ於テ

チ察スルニ貸主タル者ハ殆ンド貨幣ノ饒多ニ苦シミ之ヲ守リテ遂ニ銷朽ヲ憂フルガ如シ是故ニ利足ハ極メテ低キチ厭ハズ偶々債主ノ求メニ應シ喜ンデ之ニ貸シ渡スナリ綽々トシテ餘裕ノ有様金利ノ低價ハ以テ歐洲商業ノ隆盛トスルニ足ルベシ抑モ彼等ハ如何シテ斯ノ如キ隆盛ヲ致シタル者ナル乎蓋シ彼等ハ常ニ奇巧ナル器械ヲ使用シ此器械ニ依リテ以テ商利ノ運轉ヲ爲スナリ今夫レ一聲ノ瀛笛浪ヲ蹴立テ、西ニ馳セ東ニ走り自由自在ノ働キチ以テ利ノアル所之レ追フ斯ノ如キノ器械アルガ故ニ商業ノ敏捷ハ期セズシテ之ヲ得ル事ヲ得ベク人民終ニ富饒ニ苦ンデ低利貸付ノ結果アルニ至レリ豈又盛ナラズヤ更ニ進ンデ工業ノ形況ハ如何ナルカ諸

集會社員ヨ
リ其理由チ
伺出ルモ別
段辨明指令
ニ及ハサル
儀ニ候哉
○答ニ其見解
ノ通リ
○千葉縣ヨリ
法制度ハ質問
第四條國安
ニ妨害アリ
ト認ムルキ
ハ之ヲ認可
セサルヘシ
ト有之候處
右ハ最初第
一條第二條
第三條ノ手
續ヲ爲スニ
事項ノ題目
ノミヲ記載
届出ルモ右

君ヨ試ニ倫敦ノ市街ヲ徘徊セヨ諸君ハ必ズ家々ノ屋上ヨリ噴出スルノ黒烟ヲ見ルナラン其烟リノ威焰ハ倫敦ノ市街ヲ晦冥ナラシメントスルヲ知ルナラン而シテ彼製作場ハ一日ニ何千挺ノ鉄砲ヲ鍛フベク此製造場ハ一日ニ何百反ノ織物ヲ織リ出ス可シ其巧妙ナルニ至リテハ綵文縦横光澤目ヲ眩シ油畫カ將々天造物カ手摸シテ初テ其人造ノ織物タルヲ知ル者ナリ陶器ノ如キ亦然ラザルハ無シ工業ノ隆盛斯ノ如シ然レハ兵略上ノ有様ハ如何ナルヤ數多ノ戰艦近海ニ羅列シ其中ノ或ル艦々ハ警鐘一聲二十八時間ニシテ英ノ四周ヲ取り固メントス又佛國ヲ見ヨ常ニ七八十万ノ軍兵ヲ蓄フルニ非ズヤ余ガ今輕々ニ八十万ノ軍兵ト云フ時ハ左程驚クニハ足

判別難相成
 ニ付其事項
 ノ旨趣ヲ一
 ヲ説論ニ記
 載届出サセ
 タル后國安
 ニ妨害アル
 ヤ否ヲ審査
 ノ上認可候
 儀ト相心得
 可然哉
 ○説明題目
 右論説書ニ
 拘ハラス其
 事ヲ解シ得
 ヘキモノニ
 就キ審査ス
 ルモノトス
 第五條 警察署
 ヨリ正服ヲ着
 タル警察官ヲ會
 場ニ派遣シ其認
 可ノ証ヲ検査シ

ラザルカ如クナレモ抑モ此ノ八十萬ノ軍兵ハ如何シテ
 之ヲ養ヒ得ルヤ佛國人民多分ノ租稅ヲ割愛シテ專ラ
 此費途ニ充テザルベカラズ佛ヲシテ貧弱ノ國タラシム
 レバ何ガ故ニ斯ノ如キ餘裕アリ以テ少ナカラザル八十
 萬ノ軍兵ニ飽食セシムルヲ得ンヤ假令ハ今吾々が夜盜
 ノ爲メニ警備ヲ蓄ハン平吾々千圓ノ稼ギヲ爲サバ其中
 十圓ハ之ガ費途ニ向ケザル可カラザルナリ然ルニ若シ
 其畜養充分ナラズシテ食飽マテ與フル事能ハスンハ吾
 々ノ畜養ハ他ノ爲メニ廢ニ伏セラレ到底夜警ニハ覺束
 ナカル可シ今彼佛國八十萬ノ軍兵ハ悉ク肥滿長大ニシ
 テ填然ノ鼓聲スハト云ハハ躍リ出サントスル者ナリ諸
 君ハ此ノ一事ニ就テモ佛國ノ勢盛ヲト知スルニ足ル可

會場ヲ監視セシ
 ムルヲアルベシ
 ○千葉縣ヨリ
 法制部へ質問
 第五條會場
 ヲ監視セシ
 ムル事ト有
 之候處右ハ
 開會中毎日
 警察官ニ於
 テ始終監視
 爲致修テハ
 僅少ノ官員
 ニテ部内敷
 ケ所ノ開會
 アルニ當リ
 テハ差支有
 之ニ付時々
 會場ヲ監視
 ノ爲メ派遣
 セシムルモ
 差支無之筋
 ニ候哉

シ又更ニ一步ヲ進メテ政治上ノ潮勢ヲ見ヨ英傑シヨ
 プライノ如キ俊秀グラツトストーンノ如キ先キニ死シ
 タル保守黨ノビイコンスフギルドノ如キ飛鳥モ落ツル
 ノ勢力ヲ以テ互ニ相反對シ相補益シテ以テ國權ノ擴張
 ニ怠ラズ之ヲ他邦ノ二三有司ガ因循固息ノ政治ヲ行フ
 ニ比較スレバ其差モ亦大ナリト謂フ可シ諸君ヨ之ニ依
 テ見レバ英佛ノ明月東山ニ上リテ衆星皆光ヲ失ヒタル
 ニアラズヤ
 今ヨリ余ハ我日本國ノ現狀ニ就テ論述スル所アラント
 ス諸君ヨ我國ノ商業ハ果シテ隆盛ト云フ可キ乎歐米ニ
 對敵シテ能ク其權衡ヲ保ツ事ヲ得ル乎試ミニ見ヨ今日
 百圓ノ物品ヲ購求シテ明朝之ヲ店頭ニ陳列シ安閑以テ

○說明 其見
 解ヲ以テ允
 當トス
 ○石川縣ヨリ
 法制部へ質問
 第五條ニ正
 服トアルハ
 明治八年一
 月百九十四
 號公達ノ制
 服ト心得可
 然哉果シテ
 然ラハ通常
 會場ニ監臨
 視察スルモ
 ト雖モ必ス
 該正服ヲ着
 スル儀ナル
 ヤ
 ○說明 其見
 解ヲ以テ允
 當トス
 ○埼玉縣ヨリ

立チ寄ルノ客ヲ待ツ客來レハ之ヲ嚮キ客至ラザレハ之
 ナ賣ラズ損ト得トハ自然ニ任セテ敢テ之ヲ疑ハザルナ
 リ而シテ其賣鬻以テ得ル所ノ利益モ亦紅爐上ノ白雪固
 ヨリ言フニ足ラザル而已此等商人常ニ人ニ誇ツテ曰ク
 我能ク本方ニ掛合ヒ品物ヲ低ク買ヒ却テ之ヲ高價ニ賣
 却シ以テ利益ヲ其中間ニ占ムト實ニ氣ノ毒千万ノ考案
 ナラズヤ此物ノ本方ハ我が商賣ノ資本ナリ買入ハ我ノ
 得意ナリ然ルチ却テ本方ヲ踏倒シ買方ヲ喘着シテ得タ
 リ顔スルハ抑モ如何ナル商法ツヤ人或ハ我國ノ商賈豈
 スノ如キニ止マランヤ活潑敏捷一步ヲ外人ニ讓ラザル
 者蓋之レ無キニ非ズト謂フ者アルベシ多數ノ商人中ニ
 ハ斯ノ如キモアル可シ然レモ彼銀行ノ如キ或ハ金貨シ

法制部へ質問
 第五條警察
 署ヨリ正服
 ヲ着シタル
 警察官ヲ派
 遣シトアル
 ハ其正服只
 徽章アル制
 服ノ謂ナル
 ヤ將タ他ニ
 正服ト指稱
 スヘキモノ
 アルヤ
 ○說明 徽章
 アル制服ヲ
 指シタルナ
 第六條 派出ノ
 警察官ハ認可
 証ヲ關示セサル
 講談論議ノ屈辱
 ニ揭ケサル事項
 ニ亘ルキ又ハ公

ト云ヘル者ノ行爲ニ就テ之ヲ露出スレバ種々様々ナル
 醜惡卑劣ヲ現ハシ吾々ヲシテ嘆息ニ堪ヘザラシムル者
 アル也常ニ公債ノ証書ヲ買入レ二重ノ利子ヲ以テ私ノ
 小益ヲ營スル銀行ハ其本職ニ背戾セザルチ得可キ手而
 シテ百五十万圓ノ資本ヲ有スル銀行ハ日本帝國今日ノ
 最大タルニ非ズヤ誠ニ憫レナル次第ト謂フベキ也又隣
 テ利足ノ形況ヲ察セヨ一割二割ハ世間ノ通常ナリ高利
 態クニ堪ヘタリト雖モ而モ其源因ヲ尋ヌレバ蓋シ資本
 不足ニシテ債主共數ノ夥多ナルガ爲メナラザルハナシ
 夫レ利足ノ騰貴ハ我國資本ノ不充備ヨリ生ズル者ナリ
 トスレバ商業ノ振ハザルハ一目ノ下ニ瞭然タルベキニ
 アラズヤ蓋シ我國商賈ノ行爲ハ純然タル博奕ニ異ナル

衆ノ安寧ニ妨害
アリト認ムルハ
及ヒ集會ニ臨ム
ヲ得サル者ニ退
去ヲ命ジテ從ハ
サルハ全會ヲ
解散セシムヘシ
○内務省ヨリ
法部ニ質問
第六條中集
會ニ臨ムヲ
得サルモノ
ニ退去ヲ命
ジテ之ニ從
ハサルハ
其會主會長
等ニ退去セ
シムヘキコ
ト命ジ會主
等之ニ從ハ
サルハ全會
ヲ解散セシ
ムルノ儀歟

ナキナリ試ミニ彼等ニ向ヒテ商業ノ方便ヲ問ハン乎彼
必ズ言ハントス易キニ買ヒ高キニ賣ルハ商業ノ方便ナ
リ是故ニ損得ノ正鵠ハ一ニ之ヲ天運ニ放擲シ風雨ヲ
見寒暑ヲ察シ萬一ノ利益ヲ危險ニ托ス於是乎一敗眠覺
ムルノ後隣臍ノ悔ヲ愚痴ニ鳴ラシテ曰ク嗚呼彼ノ時ハ
十圓ノ相場ヨテ買方ハ渴望ノ至リナリキ余ハ何爲グ之
ヲ賣ラザリシト其愚豈笑フ可キニアラズヤ商業ハ斯ル
虚空ノ考ヲ以テ爲ス可キ者ニ非ズ抑モ商買ノ職業タル
ヤ彼此東西ノ流通ヲ開キ彼レニ足ラザル者ハ此ノ餘裕
ヲ以テ補ヒ此ニ備ハラザル者ハ彼ノ殘贏ヲ以テ之ヲ佐
ケ社會ヲ擧ゲテ好都合タラシメ以テ其彼此ノ運送賃ヲ
取リテ之ヲ商人ノ所有ト爲スナリ而シテ其運送ノ場合ニ

又ハ直ニ臨
會スルヲ得
サルモノニ
退去ヲ命ジ
テ其者之ニ
從ハサルニ
於テハ全會
ヲ解散セシ
ムル儀歟
○說明前段
ノ見解ヲ以
テ允當トス
○石川縣ヨリ
法部ニ質問
第六條ニ警
察官トアル
ハ單ニ警部
巡査ヲ指ス
モノニテ其
他行政官司
法官郡區吏
警察用係諸
雇ノ如キハ

於テ或ハ牛馬ノ背ヲ用ヰルガ如ク其傳達速カナラザレ
ハ之ガ賃錢モ隨テ多分ヲ加フル者ナルガ故ニ海ハ舟載
以テ相傳ヘ陸ハ車載以テ相送り務メテ其運送費ヲ輕薄
ナラシムルカ如キ蓋シ商買ノ本分ト云フベキナリ世ノ
人常コ士族ヲ笑ヒ士族ノ商業ト云ヘハ一ニ以テ之ヲ罵
リ己レ以テ商業ノ得意ヲ鳴スモ翻テ彼等ノ内情ヲ討察
スレバ其家中ニ存在スル所ノ帳簿ハ或ハ當坐帳トカ或
ハ金銀出入帳トカ些細ナル計算ヲ記録スルノミ其身代
ノ多寡損得ヲサヘ自ラ之ヲ知ラサルナリ蓋シ封建制度
ノ解体ハ覇府モ政權ヲ失ヒテ狼狽タレバ士族ノ流離又
何グ怪シムコ足ラソヤ余ハ商況ニ就テ猶意見ノ開陳ス
ベキ者ハ頗ル多々ニシテ一席ノ演壇到底之ヲ尽ス事能

此限ニアラサルヤ
 ○説明 警部
 補以上チ指
 稱スルモノ
 トス
 但シ巡査
 ハ警察官
 ニ準スヘ
 キ儀ト思
 考ス
 ○埼玉縣ヨリ
 法制部へ質問
 第六條講談
 論議ノ屆書
 ニ掲ケサル
 事項ニ亘ル
 キハ全ク他
 項ニ亘ルノ
 謂コシテ本
 説チ敷衍辨
 論シ或ハ比
 喩枝葉ニ及

ハザルガ故ニ直ニ工業ノ情况ニ移リテ論述スル所アル
 可シ諸君ニ工業ノ有様ハ果シ如何ナルヤ常ニ吾々ガ目
 ニ觸レ耳ニ聞ク所ニシテ新奇巧妙ノ器械織物ガ日本ノ
 國ニ産出シ我人民ノ手ニ造ラレタル者幾許ノ多キアリ
 トスルヤ今余ガ對向スル所ノ机上ニ存置アル此「コツプ」
 ハ日本ノ國內ニ於テ産生シタル者ナルヤ何人ノ發明ニ
 出デタル者ナルヤ日本人ハ此些細ナル「コツプ」モ而モ
 之ヲ舶載ニ仰グニ非ズヤ其他織物ノ如キニ至リテモ悉
 シ然ラザルハナキナリ而シテ又舶載ノ物品ハ彼歐洲ニ
 於テ殆ソド瓦礫視シ塵芥視シ彼レガ使用ニ洩レタル所
 ニシテ彼レガ奇巧ヲ尽シ妙絶ヲ現ハシタルノ器械或ハ
 織物ニ至リテハ到底貧人多キ我日本ニ適セズ瓦礫塵芥

フ等ノ謂ニ
 アラサルヘ
 シ果シテ然
 ル哉
 同條中集會
 ニ臨ムヲ得
 テ去テ命シ
 テ云々集會
 ニ臨ムヲ得
 サルモノト
 ハ會員トナ
 ルヲ得サル
 ノ謂歟若シ
 臨ヲ以テ傍
 聴トナスハ
 一ノ傍聴
 者ニ退去ヲ
 命シテ之ニ
 從ハサルハ
 ハ全會ヲ解
 散スルノ趣
 意ナルヤ

却テ邦人ノ日用ヲ便スルナリ余嘗テ或洋人ニ向テ舶來
 品ヲ質シタルニ己レ其本國ニ在リナガラ尙ホ且ツ私レ
 此品知らずト答ヘタリ其故如何ト云フニ微々タル物品
 彼レ平生ニ目ヲ着ケザルヲ以テナリ予嘗テ英ノ倫敦ニ
 アリシ時寢マキニ唐棧木綿ヲ纏ヘリ一貴女アリ此唐棧
 ナ珍ラシガリ撫テツ摸リツ日本ノ國産ナルカト問フ余
 訝カリ對ヘテ曰ク否ナ貴國ノ商人ガ持來ル者ナリト婦
 人愕然タリ是レ他ニ非ズ唐棧木綿ノ如キ倫敦子女ノ擯
 斥シテ眼ニダモ觸レザルガ故ナリ豈驚ク可キニ非ズヤ
 工業ノ形狀概ス斯ノ如シ去レバ政事上ノ潮勢ハ如何ナ
 ルヤヲ尋テノ手諸君ニ隨分残念ニ堪ヘザルノ政跡モ頗
 ル夥多ナルニハアラズヤ我政府ガ一專一業ヲ行フニ當

○說明 前項
ハ其見解ノ
通り後項ハ
會員ト傍聽
トヲ問ハス
總テ會場ニ
臨ムコトヲ
得サル儀トス
若シ其者臨
會スルハ
之ヲ退去セ
シムヘキ旨
會主會長等
ニ命シ會主
會長等其命
ニ從ハサル
ハハ會ヲ
解散セシム
ヘシ

リ其度毎ニ吾々ヲソ彼ノ事ハ之ヲ英人ニ處分セシメハ
果シテ如何ナル幸福ヲ與フベキカ那ノ物ハ之ヲ佛人ニ
措置セシメバ果シテ如何ナル利益ヲ現ハス可キカトノ
想像ヲ吾々ノ胸中ニ發生セシムルハ蓋シ一ニシテ足ラ
ザルベシ加之金力ハ吾々ヲシテ不満足ヲ感ゼシメ兵備
ハ吾々ヲシテ不完全ヲ嘆セシム然ルニ近ゴロ余ノ大ニ
解スベカラザル者ハ我日本人民ガ一般ニ常ニ隣接ノ支
那國ヲ易ドル事是ナリ夫レ歐米ハ富國強兵吾々ノ大ニ
畏怖スル所ナレトモ彼レハ廣漠タル大洋ヲ隔テ遙々ノ距
離ヲ有スル者ナレバ縱令ハ我國ガ隙ヲ英國ニ開キ干戈
相接スルニ至ラン平英國ハ必ズ十五万人内外ノ兵士ヲ
向ケサルヲ得サルベシ尤モ兵力ノアル所金力ノ存スル

シムヘシト
有之ハ當日
ノ集會ヲ解
散セシムル
儀歟將テ該
會ノ認可ヲ
取消スノ意
ニシテ尙ホ
其認可日ノ
餘リアルモ
再會セシム
ルコト差止
ムル儀ニ候
哉

○說明 後項
ノ解見ヲ以
テ允當トス
第七條 政治ニ
關スル事項ヲ講
談論議スル集會
ニ陸海軍人常備
ニ豫備後備ノ名籍
ニ在ル者警察官

所加フルニ彼レハ精銳ナル器械ヲ具フレバ勝敗ノ數ハ
瞬間時ニ判定スベケレトモ更ニ十五年間ノ駐屯兵ヲ日本
各地ニ配置セザルヲ得ズ其費用亦費ラレズ且社會ニハ
鈞合ナル者アリテ英ガ日本ニ來攻スレハ魯ハ必ズ之ヲ
傍觀セザルヘシ魯ガ日本ヲ進撃スレバ英ハ決シテ局外
ノ中立ヲ保タザル可ク互ニ支轄牽制スル所アルガ故ニ
歐米ノ畏ルベキモ鈞合ノ失セザラン限りハ日本ノ亡滅
ハ蓋シ憂フルニ足ラザルベシ固ヨリ余ハ日本ノ存立ヲ
鈞合ノ力ニ托スルニハ非ザレトモ理ヲ以テ之ヲ論ズレバ
又斯ノ如キノミソハ兎モ角モ諸君試ミニ清國ノ現狀ヲ
察セヨ土壤ハ亞細亞ノ過半ヲ占メ三百万ノ兵士ヲ平日
ニ養ヒ得ルノ財産ヲ有セリ一旦自由ノ風吹キ來リテ宿

官立公立私立學
校ノ教員生徒農
工藝ノ見習生ハ
之ニ臨會シ又ハ
其社ニ加入スル
コトヲ得ズ
○大坂府ヨリ
法制部へ質問
第七條ニ臨
會シ又其社
ニ加入云々
トアリ臨會
トハ傍聽ス
ルコトヲモ出
來サルコトナ
ルヤ
○説明 御意
見ノ通り
○岡山縣ヨリ
法制部へ質
問第七條末
行中臨會シ
云々ト有之

夢全ク醒覺スルニ至レバ日本ノ帝國ハ豈危險ナラズヤ
余ハ清國ノ夢ヲ覺ス二十年ヲ出デザルヲ知ルナリ然ラ
バ則我日本人民ハ一致結合ノ盡力ヲ以テ商工ノ專業ヲ
振興シテ日本ノ金力ヲ養成シ餘財以テ充分ノ兵士ヲ蓄
育スルハ豈今日ノ急務ニアラズヤ然レドモ余輩ハ玆ニ
又一言辨ゼザルベカラザル者アルナリ仮令能ク勤キ稼
グノ人ト雖モ盜賊每晚侵入シテ其貯蓄ヲ奪ハヤ如何シ
テ身代ヲ維持スルヲ得ンヤ万一政治ノ仕組ガ人民ヲシ
テ財産ノ不完固ヲ感ゼシムル殆ンド之ニ類スル者アル
カ若シ果シテ之アリトスレバ吾々ハ一日モ早ク此政治
ヲ改良セサルベカラザル也然ラザレバ人民ガ辛苦精勵
シテ稼ギ溜メタル財産モ時々ニ來ツテ之ヲ奪ヒ去ラバ

臨會トハ其
會主會員其
他集會ニ關
涉スヘキ者
トナルコト
得サルコト
ハ不苦儀コ
ハ心得可然哉
○説明 集會
ニ關涉スル
ト聽客トチ
不問都テ會
場ニ臨ムヲ
得サルモ
トス
○内務省ヨリ
法制部へ質問
第七條中警
察官ハ警
視部巡査
官名職名
アルモノナ

國ノ實力ハ如何シテ之ヲ養フヲ得ンヤ抑モ亞細亞地方
ノ常情トシテ政府ハ有司ヲ信スルノ厚キ彼レハ(云々ト
云ヒ力士取組ノ一節アレト故アリ零ス)固有ノ價格ヲ現
ハスノ時斷シテナシトモ申サレズ是ニ於テ手我人民ハ
去レバコソ某會社ノ直輸出ハ吾々ヲ眩惑スルノ器械ナ
リシカ某地方ノ御拂下ゲハ吾々ヲ迷誤ヒシムルノ城堡
ナリシカヲ悟覺セシムルニ至ルベシ諸君ヨリ斯ル有様ナ
ルヲ以テ國民ノ角力場即國會開設ハ片時モ早ク吾々ノ
熱望スル所ニ非ズヤ或ハ多數日本人ノ中ニハ頻リニ國
會ヲ擯斥シテ其開設ヲ沮害スルノ人物モアラン此徒ノ
如キハ國智ヲ開設シ直チニ自カラノ食ヲ絶チ己レノ商
線ノ斷縁ナレバ情實ニ至リテ國會開設ヲ喜ブコト能ハザ

指シ警視屬
御用係雇ノ
者ハ包含セ
サル歟
同條中農業
工藝ノ見習
生トハ官立
ノ該學校又
ハ試験場等
ニ在ルモノ
ヲ云フ歟
○説明前項
ハ警視以下
警部以上ヲ
指稱スルモ
トス
但シ巡查
ハ警察官
ニ準シ可
然儀ト思
考ス
後項ハ其
見解ヲ以

ルベシ然レハ此卑屈輩ノ私黨ハ至ツテ少數ノ事ナレバ
吾々ハ決テ畏ルコ足ラザルナリ又吾々人民ノ社會ニ於
テ國會其者ノ譯モ分ラズ至愚至昧ノ人々モ固ヨリ之ナ
キニ非ズト雖ヒ斯ノ如キハ吾々一同ノ勉強ヲ以テ相共
ニ導キ誨ヘ以テ彼レガ知識ヲ開發セシムベキノミ然リ
而シテ吾々熱望ノ國會ヲ立テ設ケ一致結合ノ力ヲ以テ
國權ノ擴張ニ怠ラズンハ東方漸ク白フシテ太陽ノ曙光
海表ニ金蛇ヲ逸セハ歐米ノ明月忽チニシテ其光輝ヲ失
フノ時アラソシテ愉快ナラズヤ諸君勉旃

○第三、全例(輿論)ノ意味
末廣重恭演說

諸君ヨ諸君ハ口ヲ開ク毎トニ輿論ノ勢力ハ此ノ如ク輿
論ノ功用ハ如何ント稱道セリ然レハ諸君ハ果シテ輿論

テ允當ト
○千葉縣ヨリ
法制部へ質問
第七條集會
ニハ陸海軍
人常備豫備
後備ノ名籍
ニ在ル者警
察官々立公
立私立學校
ノ教員生徒
ノ農業工藝
ノ見習生ハ之
ヲ得サルコ
ニ候處其臨
會トアルハ
該會場中へ
臨席聽聞致
候儀ハ相成
ラサル儀ニ
候哉又ハ會

ト云フ文字ノ意味ヲ解釋シ得ルカ輿論ノ意味ヲ簡單ニ
說キ明セハ國民ノ多數ノ意見ヨリ成立スル議論ト云フ
ナリ今日我が國民ハ三千五百万人ノ多キニ上ボレリ
然レハ貧富ヲ分クズ賢愚ヲ論ゼズ三千五百万人ノ同意
ヲ得タルモノヲ指シテ輿論ト言フカ如何ナル議論ト雖
モ全國ヲ舉ケ之ガ一致ヲ求ムルハ輒ク望ムベカラザル
ノコトナリ余ハ輿論ノ必ラズ此ノ如キ者ニ非ザルヲ知ル
ナリ然レハ國民ガ過半数以上ノ同意ヲ得タル時ニ於テ
之ニ下タスニ輿論ノ名ヲ以テスベキカ是レ亦必ラズシ
モ然ラザルナリ然レハ十人以上百人以上將タ万人以上
ノ同意ヲ得タルハ輿論ト言フベキカ是レ亦必ラズシモ
然ラザルナリ故ニ此ノ如ク上ヨリ說キ下ヨリ說クモ輿

場ニ臨ミ自
ラ論議スル
等ノ事ハ不
相成儀ニ候
哉
○説明 聴聞
ト議論トテ
問ハス都テ
會場ニ臨ム
ヲ得サルモ
ノトス
○石川縣ヨリ
法制部へ質問
第七條 農業
工藝ノ見習
生トアルハ
商法講習所
ノ見習生ヲ
モ總稱スル
モノナルヤ
全條之ニ臨
會シトアル
ハ客員トナ

論ナル者ハ遂ニ其ノ性質ノ在ル所ヲ辨知スル能ハズ其
ノ性質スラ之ヲ辨知セズ何ツ其ノ勢力ト功用ノ如何ン
ヲ論ズルニ暇アラシヤ余ハ一國ノ輿論ナル者ヲ説明ス
ルカ爲メ先ツ一家ノコトニ就イテ之ヲ比喩セシ
諸君ヨ諸君ニシテ久濶ニ朋友ノ許ヲ訪ヒタル時ニハ必
ラズ左ノ如キ挨拶ヲ受ケルナラン御家内中ハ誰殿様も
御機嫌よろしう御坐りませすかト然ルトキニ諸君ハ謝シ
テ曰ハシ難有御坐りませす家内中孰れも堅勝又御坐りま
するト然ルニ傍人ヨリ君ノ子供ハ現ニ大病ニ罹レリ何
ヲ以テ家内ニ事故ナキト言フヤト詰ラレタランニ彼レ
ハ一年ニモ滿タザル小兒ナレハ之ヲ家内ノ部分ニ入レ
スト謂ハシムレハ誰カ之ヲ以テ適當ナル言語ナリト爲

リテ講談論
議スルヲ云
フ儀ニテ其
會場ニ至リ
聴問スルコ
トモ得サル
哉
○説明 前項
ハ法ニ明文
ナキニヨリ
規則第七條
ノ限ニアラ
ズ後項ハ客
員ト聽問ト
テ會席ニ臨
ムヲ得サル
モノトス
○神奈川縣ヨ
リ法制部へ質
問 第七條 中農

ス者有シヤ何トナレハ此ノ場合ニ於テ家内ト言フハ老
人ト無ク小兒トナク一家ヲ組織スル者ヲ舉グルノ辭ナ
レハ也然レモ家内ナル文字ハ時ニ因テ其ノ示ス所ヲ異
ニセリ試ミニ思ヘ諸君ハ己レノ子息ノ爲ニ新婦ヲ娶ラ
ンガ爲メニ媒妁ニ托シ之ヲ其ノ父母ニ申込ニ其ノ父母
ヨリ御家内中御一同に娘は不束ある事を御承知の上おの
差上まやしうト返答アリ諸君ハ篤と家内中へも相談を致
しましたが孰れも申分の御座りませんト言フニ前ノ論理ヲ
推シ之ヲ詰ル者有リ君ハ家内中ニ意見ナキト謂フ然レ
ハ中風ニ罹ツテ心經ヲ失ヒタル老婆モ昨年生レタル赤坊
ニモ一々相談ヲ爲セシカト問ハシムレハ諸君ハ之ヲ以テ
牽強不當ノ言語ナリト思惟スルニ相違ナシ何トナレハ

業工藝ノ見
習生トアル
ハ何等ノ者
ヲ指シ候哉
○説明官立
私立ノ農工
學校又ハ製
作所試験場
等ニ在ル者
ヲ云フ
○高知縣ヨリ
法制部へ質問
第五條第六
條ニ掲ゲタ
ル警察官ハ
警察以下ト
信シ候得共
第七條ノ警
察官ニ到リ
テハ少ク疑
ヒナキ能ハ
ス然モ既ニ
警察官トノ

此ノ場合ニ於テ家内ト言フハ一家ノ智識アリ分別アル者ヲ指スノ言語ナレハ也然レハ同ク國民ノ文字ニテモ時アツテ普ク一國人民ノ全數ヲ指シ時アツテ單ニ其ノ智識アリ分別アル者ノミヲ示ス事アルヲ知ルヘキナリ故ニ余ハ試ミニ諸君ニ向フテ英國人民ハ如何ナル地位ニ在ルヤヲ問ヘハ諸君ハ必ラス曰ハントス智識ニ長シ商賈ニ巧ミナル人民ナリト然レハ倫敦橋畔ノ乞食ノ如キ「ウエールス」ノ石炭山ニ勞作スル坑夫ノ如キ何ソ之ヲ稱シテ智識アル人民ナリト謂フヲ得ンヤ然レハ通例ニ英國人ト言ヘハ專ラ其ノ中等社會ヲ指スニ在ルヲ知ルベシ故ニ之ニ準シテ英國ノ人民ノ意即チ輿論ナル者ハ其ノ智識アリ財産アル中等社會ヨリ成立スルヲ斷言ス

○説明官立
私立ノ農工
學校又ハ製
作所試験場
等ニ在ル者
ヲ云フ
○高知縣ヨリ
法制部へ質問
第五條第六
條ニ掲ゲタ
ル警察官ハ
警察以下ト
信シ候得共
第七條ノ警
察官ニ到リ
テハ少ク疑
ヒナキ能ハ
ス然モ既ニ
警察官トノ

ヘキナリ今日我が邦人ハ朝鮮人ヲノ頭愚ナリ固陋ナリト云フト雖也現ニ今年我が邦ニ來朝セシ通信使ノ一行ノ如キ其ノ智識ナリ學問ナリ英國ノ石炭坑ニ勞役スル人夫ニ勝ルヤ萬々ナリ然ルニ朝鮮國民ガ未開ノ名ヲ受クル者ハ其ノ中等社會ヲ指シ未タ開明ノ風潮ニ浸漸セザル爲メニ出ルニ非ズヤ夫レ然リ英國ニ貧民多ク愚人多キニモセヨ文明國タルヲ失ハズ朝鮮ニ學者アリ識者アルモ之ヲ稱シ開化ノ國土ト謂フヘカラズ然レハ其ノ國民ノ名稱ヲ領受シ國論ノ實形ヲ組織スル者ハ專ラ中等社會ニ在ルヤ斷々手トシテ疑ヲ容レザルナリ現ニ我が邦ニ於テモ開進ヲ喜ヒ歐米ノ智識ヲ採取スル者ハ僅カニ國民ノ一小部分ニ止マレリ夫ノ車ヲ挽キ薪ヲ負フ

ニ在ル者警
察官々立公
立私立學校
ノ教員生徒
農工藝ノ
見習生ハ之
ニ臨會シ又
ハ其社ニ加
入スルヲ得
ストアリ然
レハ之ニ明
示セサル他
ノ官吏及ヒ
進官吏ハ限
外ナルヤ
○説明其見
解ノ通り
○愛知縣ヨリ
法制部へ質問
第七條ニ之
ニ臨會云
々右臨會ト
ハ其會員ト

ノ勞役者ト糞桶ヲ擔フテ田疇ニ耕作スル水呑ミ百姓ノ
談スル所ヲ聞ケ彼レ今日ニ於テ常ニ封建ノ舊時ヲ慕ヒ
開進ノ政治ヲ敵視スルニ非ズヤ然ルニ論者ハ維新以來
政府ガ開進ヲ誘導スル政治ヲ以テ必ラズシモ輿論ニ背
馳スルト爲サズ下等人民ノ意見ニ從フテ政治ノ方向ヲ
左右スルヲ冀望セザル者ハ即チ下等社會ハ一國ノ政
治ニ與カルヲ得ズシテ公議輿論ハ中等社會ヨリ成立シ
人民ノ多數ヲ以テ之ヲ決定スベカラズト爲スニ因レバ
ナリ余ハ是ニ至リテ輿論ナル者ノ性質區域ハ已ニ明々
白々ナリト信スルナリ
然レハ今日我が邦ニ於テ輿論ハ如何ナル点ニ傾向スル
ヤ諸君ノ知ラレ、ガ如ク本年二三月以來各地方ニ於テ

ナルノ儀ニ
シテ聽衆ノ
トニハ有之
○問敷哉
ト傍聽トチ
ト會場ニ臨ム
ト得サルモ
第八條ノトス
關スル事項ヲ講
談論スル爲メ
其旨趣ヲ廣告シ
又ハ委員若クハ
文書ヲ散シテ公
衆ヲ誘導シ又ハ
他ノ社ト連結シ
及ビ通信往復ス
ルヲ得ス
○神奈川縣ヨ
リ法制部へ質問

多キハ數万少キハ數百人ノ結合ヲ爲シテ國會ノ設立ヲ
政府ニ請願シ又ハ献言スルモノ續々相接スルニ至レリ
而シテ此ノ國會黨ハ菓子財産アリ教育アル中等社會ヨ
リ成立セリ前段ノ論理法ヲ推シテ之ヲ究ムルニ國會ノ
開設ハ眞成ナル我が邦ノ輿論ニ非ズシテ何ソヤ然ルニ
玆ニ奇怪ナル官權論者アリ曰ク今日國會ノ設立ヲ政府
ニ請願シ献言スル者ハ誠ニ夥多ナリ然レモ其ノ總計ヲ
舉クレハ十乃至二十万人ニシテ全國人口百分ノ一ニ
タモ及ハス何ソ之ヲ認メテ國民ノ意見ナリト斷言スベ
ケンヤト嗚呼此ノ人ヤ何ソ其ノ國民ノ名目ニ拘泥シテ
國民ノ性質ヲ辨セザル此ノ如クナルヤ苟モ此人ニ向ヒ
今日我が國民ノ過半ハ皆十封建ノ舊時ヲ慕ヒ開進ノ主

集會條例中
 他ノ社ト連
 結スル能ハ
 サルハ勿論
 ノ儀ニ候得
 共若シ愛ニ
 一社ト結シ
 而シテ此ケ
 支社ヲ設ケ
 即チ何社支
 社ト稱シ社
 員ヲ結シ講
 談論議スル
 ニ本社員并
 相往來シ講
 談論議スル
 筋ニ可無之
 哉但シ支社
 結社届ノ

義ニ服セス何ツ輿論ニ從フテ政治ノ方向ヲ變セサルト
 問ハシムレハ彼レ必ラス曰ハントス財產ナク教育ナキ
 下等人民ノ意見ハ社會ノ輿論ニ與カルヲ得サルナリト
 彼レ一方ニ於テハ人民ノ多數ヲ以テ輿論ノ區域ヲ定ム
 ルヲ嫌ヒナカラ一方ニ於テハ其ノ少數ヲ口實トシテ中
 等社會ヨリ生出スル意見ヲ擯斥セントス此ノ如クナレ
 ハ孰レノ邦國ニテモ孰レノ時世ニテモ遂ニ公議輿論ヲ
 ルモノヲ見ル能ハサラントスルナリ然レモ余ハ姑ク一
 歩ヲ此ノ官權論者ニ譲リ國會ヲ請願シ猷言スル者ハ少
 數人民ヨリ出ルヲ以テ眞成ノ輿論ニ非サルト爲サシコ
 今日輿論ヲ代理シ輿論ノ反照トモ稱スベキ新聞紙演說
 會等ハ如何ナル有様ヲ爲スヤ我東京府下ヲ始メ各地方

○
 不精神ニ依
 相成儀トリ
 條ノ末文ノ
 項本例第八
 回答右兩
 得可然哉心
 無之儀ト心
 ナ以テ差支
 ノ明文ナキ
 條例中禁止
 結トナルモ
 ノ各社一團
 リ終ニ全國
 ノ社員トナ
 戊等ノ數ト
 ナリ又丙丁
 テ乙社員ト
 甲社員ニシ
 モノナリ
 届出タル
 ナ記載シ
 員ノ人名
 ノ節本社

ニ至ルマテ新聞紙ノ數ハ百ヲ以テ數ヘ演說討論ノ會ヲ
 開クモノ所トシテ有テサルナシ然ルニ甲モ曰ク國會開ク
 ヘシ乙モ曰ク國會開クヘシト異口同音ニ國會開設ヲ主張
 シ而シテ世人ハ國會論ニ非ザレハ其ノ新聞ヲ讀マズ國
 會論ニ非ザレハ其ノ演說ヲ聞カザルニ至レリ以テ社會
 輿論ノ歸着スル所ヲ知ルベキニ非ズヤ然レモ官權論者
 ハ亦曰ハントス新聞記者ナリ演說者ナリ皆ナ世間ノ流
 行ヲ趨フテ利益ヲ營ミ喝采ヲ求ムルニ過ギズ何ツ之ヲ
 以テ輿論ト爲スニ足ランヤト余ハ斷シテ今日ノ記者演
 說者ハ己レニ定見ナク流行ニ從フテ自ラ變移スルモノ
 ニ非ザルヲ知ルナリ然レモ一步ヲ讓リ此ノ論者ノ言ヲ
 シテ其ノ當ヲ得セシムレハ益ス社會輿論ノ歸着スル所

少ノ關係アル所爲ハ總テ本條ニ依ルヘキ主義ナルヤ
 ○説明其見當トス
 ○高知縣ヨリ法制部へ質問第二條ニ依リ結社タル者ニ於テ分社若シハ支社等ノ名義ヲ設ケ各地ニ分置致度旨届出ル者アルモ既ニ會場ヲ殊ニアル上ハ法律上ニ於テ之ヲ格別ノ

カ將タ如何ナル場合ニ照會シテ始メテ戰爭ヲ開クベキカ吾儕今試ミニ其ノ時機ト場合トヲ講究セシ然レモ吾儕ハ之ヲ論ズルノ前ニ於テ先ヅ兵ノ効用ト戰ノ目的ヲ究知セサルベカラザルヲ知ル然レモ夫ノ兵ヤ戰ヤ固ヨリ強剛ノ者タリ何ツ小刀若クハ「メス」ヲ以テ能ク之ヲ分解割シ得ル所ナランヤ故ニ吾儕ハ此ニ一挺ノ出刃庖丁ト一氷ノ菜切り庖丁ヲ擔ギ出シテ以テ兵ト戰ノ性質ヲ解剖セントス否此ノ二箇ノ庖丁ヲ以テ他ノ的例ニ供セザルベカラザル也
 此ニ一人ノ盜賊アリ黒キ頭巾ニテ其ノ面ヲ覆ヒ手ニ「ガン」トウ提灯ヲ持テ土藏ノ前ニ佇立シ四邊注視スルヲ數回ナリ良アツテ其ノ腰ニ挟ミタル出刃庖丁ヲ把リ出タシ

者ト見做シ第八條他ノ社ト連結スルヲ得サル歟果シテ然ラハ會場ヲ各地ニ分置サルモ又分社ト其實チ同フスルニ付之ヲ認可セテ會場ハ一社ニケル所ニ限ル者ト解釋シ可然哉
 ○説明其見當トス
 ○高知縣ヨリ法制部へ質問第八條其旨

テ嚴重ナル土藏ノ扉ヲ切破リマシマト首尾ヨク庫中ノ財物ヲ盜ミ得テ仕合ハセ好シト打笑ミ身ヲ一躍シテ見越ノ松ニ攀登リ遂ニ跡白浪ト遁ケ失ヒタリト假想セヨ嗚呼彼ノ盜賊ノ財物ヲ奪ヒ得タルハ全ク出刃庖丁アルガ爲メニ非ズヤ然ラバ則出刃庖丁ハ物ヲ盜ムカ爲メニ人ノ倉庫ヲ切破ルノ道具ナルカ又熊公八公ノ社會ニ於テハ動モスレバ夫婦喧嘩ノ際ニ於テ臺所ノ出刃庖丁ヲ取來ツテ以テ山神ノ頭ヲ傷ツルコトアリ之ヲ以テ出刃庖丁ハ人ヲ傷クルカ爲メニ作リタル者ナリトスヘキカ吾儕ハ諸君ガ必ズ此ノ二説ヲ賛成セザルヲ信ズル也諸君又試ミニ一人ノ御姫様アリト思考セヨ年紀稍ヤク十三四許リ其ノ髪ハ則チおちこニシテ銀ノヒラ／＼シタル櫻ノ簪ヲ

趣ヲ廣告シ
 云々其旨趣
 トハ其説ノ
 旨趣ニシテ
 其演説スヘ
 キ題號ハ之
 ニ包含セサ
 ルモノナル
 ヤ
 ○説明
 ト雖モ廣告
 スルヲ得サ
 ルモノトス
 ○愛知縣ヨリ
 法部へ質問
 第八條ニ其
 旨趣ヲ廣告
 シ云々右旨
 趣トハ其會
 ナ開キ社ヲ
 結フ旨趣
 ヲ指シタル
 儀ニ候哉

差シ其衣ハ則チ裾摸樣ノ振袖ニシテ赤キ鶏ヲ縫ヒタリ
 而シテ此ノ御姫様ハ益モナク臺所へ出掛ケテ徒ヲ爲
 シ不幸ニモ誤ツテ其ノ小指ヲ傷ツケタリ依テ彼ノ意苦
 地ナキ御姫様ハ泣キ聲ヲ出シテ乳母ヲ呼ンテ乳母ヤ大
 變ダワタシハ指ヲ切ツタヨホンニ菜ツ切庖丁ハ惡ルイ物
 ダネトト曰ハシムレハ諸君ハ之ヲ聞テ果シ菜ツ切ノ惡
 キ者ナルヲ信シ以テ御姫様ニ左袒セラル、カ吾儕ハ決
 シ諸君ガ「ヒヤ々々」ト言ハレザルヲ信ズル也然ラバ則チ
 出刃庖丁ノ功用ハ果シ何ソヤ魚ヲ切り鳥ヲ料理シテ御
 馳走ヲ拵ヘルニ在リ而シ菜ツ切庖丁ハ人家ニ備フルノ
 目的ハ亦大根胡羅旬ヲ切テ総菜ヲ作ルニ外ナラサルナ
 リ然ルニ之レヲ目シテ物ヲ盜ミ人ヲ傷ツケル道具ナリ

○説明
 項ノ旨趣ヲ
 云フ
 ○愛知縣ヨリ
 法部へ質問
 第八條ニ其
 旨趣ヲ廣告
 シ云々右旨
 趣トハ其會
 ナ開キ社ヲ
 結フ旨趣
 ヲ指シタル
 儀ニ候哉

トシ將チ指ヲ切ル所ノ惡イ物ナリト謂フハ之ガ効用目
 的ヲ辨ゼザルノ太甚シキ者ニ非ズ何ソヤ
 諸君耳ヲ欽テ、今ノ好戰論者ノ言フ所ヲ聽ケ彼論者ハ
 設ニ兵ヲ以テ他ヲ壓倒スルノ器械ト爲シ戰ヲ以テ他ヲ
 侵略スルノ目的ナリトスルニ非ヤ又世ノ非戰論者ノ説
 シ所ヲ見ヨ彼論者ハ戰ヲ以テ國ヲ害スル惡物ナリト爲
 シ兵ヲ以テ乘庶ノ不幸ヲ來スノ器械トスルニアラズヤ
 抑モ此ハ論者ハ豈ニ夫ノ盜賊ト御姫様ガ出刃庖丁ト
 菜切庖丁ト於ケルニ異ナル無カラシカ夫レ兵ヲ養フハ
 實ニ我レニ抗スル者ヲ殺スニ在リテ戰ヲ開クハ我不利
 不幸ヲ避クルニ在リ而シ殺スベキ人ヲ殺スト殺スベカ
 ラザル人ヲ殺ストハ唯タ之ヲ用ユルノ人ニアリテ兵ノ

ノ本例第八
 條ノ未文ノ
 精神ニ依リ
 不相成儀ト
 思考ス
 ○警視局ヨリ
 法部へ質問
 集會條例ニ
 通信復ス
 ルト得ハ
 トアリ右ハ
 甲ノ社ト乙
 ノ社ト通信
 復スルチ
 得サルノ旨
 意コシテ同
 社中ノ通信
 往復ハ制外
 ナル哉例ヒ
 ハ講談論議
 スル爲メ集
 會狀ヲ發シ
 又雜誌雜

關知スル所ニ非ザルナリ然ルニ開戰論者ハ兵ヲ以テ腕
 カニ大關係アル者ト思惟スルニ因リ他ノ強弱ヲ量ツテ
 若シ其ノ威力ノ薄弱ナルヲ觀察センカ其ノ如何ナル時
 機ト如何ナル場合トヲ問ハズ妄リニ兵ヲ起セ戰ヲ開ケ
 ト言ヒ腕力ハ道理ヲ造ルト云フ暴言ヲ尊奉ノ動モスレ
 ハ腕力々々ト叫ビ條理如何ンヲ捨テ、省リミズ又他ノ
 腕力大ニ我ニ過クルアレバ徒ラニ悸々ト爲メニ道理
 ヲ妨害スルチ省リミズ是レ豈ニ兵ノ性質ト戰ノ目的ト
 ヲ誤ル者ニ非スノ何ツヤ而シテ非戰論者ハ不幸ニモ世界
 諸國ニ腕力論者ノ多キヲ視テ痛歎スルノ余リ識ラズ知
 ラズ併セテ兵ヲ疾ニ戰ヲ嫌フニ至レリ吾儕豈ニ兵ト戰
 トノ爲メニ其ノ冤罪ヲ訴ヘザルチ得ンヤ

報其社ニテ
 者等チ社員
 へ遞送スル
 又同條中ニ
 他ノ社ト連
 結云々トア
 リ右ハ他ノ
 支社ヲ設ク
 ルコトヲ得
 サル趣意ナ
 リト聞ケリ
 果シテ然ラ
 ハ一府縣管
 轄内ト雖モ
 之ヲ設クル
 コトヲ許サ
 ル乎
 ○説明兩項
 ノトモ其見
 解

嗚呼出刃庖丁ノ功用ト菜切り庖丁ノ本分ヲ誤ル者ハ夫
 ノ盜賊ト御姫様ナリ兵ノ性質ト戰ノ目的ヲ誤ル者ハ今
 ノ好戰論者ト非戰論者ナリ論者知ラズヤ戰ハ無キ道理
 ナ造ルニ非ズシテ有ル道理ヲ妨害スル無法ノ國ヲ伐ツ
 者ナリ兵ハ國ノ幸福ヲ害スル兇器ニ非ズシテ邦ノ不幸
 不利ヲ免カルニ良器ナリ若シ夫レ戰ハ無キ道理ヲ造
 ルノ器械ナリト謂ハソカ然ラバ則チ出刃庖丁ハ無
 キ財產ヲ造ルノ器械ナリト謂フモ亦不可ナル無キナリ
 又兵ハ兇器ナリトノ言ヲ以テ適當トセンカ然レバ則チ
 切り庖丁ハ指切道具ナリト言フモ亦不當ニ非ザルベキ
 ナリ
 夫レ兵ノ性質單ニ人ヲ殺スニ在リ而シテ之ヲ適當ナル

○兵庫縣ヨリ
 警視局へ質問
 第八條其趣
 何月何日
 演説會ヲ開
 及ヒ其部類
 ナル乎果シ
 由然レハ自
 家顛覆論等
 ノ如キ演説
 演説題ヲ廣
 告スルハ勿
 論其旨趣ヲ
 廣告スルモ
 ノト可見認
 乎
 ○答 其所ニ

所ニ用ユルト否トハ實ニ人ニ在リ嗚呼夫ノ兵ハ殺スベ
 キ人ヲ殺ス爲メナルカ將タ殺スベカラサル人ヲ殺ス爲
 メナルカ凡ソ人間世界ニ於テ物ヲ作ルノ目的ハ全ク人
 ノ便利幸福ヲ計ルカ爲メニ外ナラザレバ其ノ殺スベカ
 ラザル無幸ノ民ヲ殺スニ非ズシテ殺スベキ無法ノ國民
 ヲ殺スニ在ルヤ知ルヘキノミ而シテ其ノ殺スベキト否
 トヲ判スルハ亦道理ノ處分ニ依ルニ在ルノミ然ラハ則
 テ道理ノ許サ、ル場合ニ於テ始メテ戰ヲ開キ他ノ強テ
 我が道理ヲ妨害セントスルノ時機ニ於テ正ニ干戈ヲ動
 カサハ庶幾ハク兵ノ性質本分ヲ誤ルヲナカラシカ
 今回琉球論ノ再燃ニ際シ或ハ曰ク失敬ナルヲヤン
 坊主ヨ速ニ腕力ヲ奮ツテ之カ膽玉ヲ押潰スベシト或ク

於テ演説會
 張出シ又ハ
 觸レ歩クハ
 差支ナキト
 考フ論題ヲ
 廣告スルハ
 本例ノ許サ
 本例ノ許サ
 社員ヲ發シ
 テ公衆ヲ誘
 導スルハ假
 令委員タル
 ノ証憑ナシ
 ト雖モ委員
 ト認定スヘ
 キ乎
 ○答 然リ
 社員ノ内自
 ラ遊説シテ
 公衆ヲ誘導
 スルノミニ
 テ其社員ヲ

曰ク始終剛果ヲ以テ嚴談シ彼レ若シ充分ニ我カ言ヲ聽
 カズンハ兵力ヲ以テ之ニ迫レト而シテ或ル論者ハ意氣
 凜然大聲疾呼シテ曰ク我レヲ以テ支那ニ較ブルニ戰艦
 陸兵大ニ勝ル所アリ斷然戰ヲ開ヒテ以テ之ヲ伐ツベシ
 獨リ此レノミナラス魯西亞ニシテ朝鮮ヲ占據セントセ
 ハ亦直チニ兵ヲ舉テ之ヲ追拂フベシ是レ國是ヲ以テ政
 略ト同一視シ東洋平和亞細亞一致ノ政略ヲ忘レ東洋ノ
 風説ヲ傳聞シテ直ニ眼ヲ瞋ラシタル者ナリ夫レ我邦ノ
 政略ハ成ル可ク支那ト和親シ英魯ニ逆ハザルヲ目的ト
 シ百方紛紜ヲ解テ平和一致ヲ求ムベキ今日ニ於テ驟ニ
 開戰々々ト唱フハ政略ト國是ヲ混雜シタル者ニシテ
 吾儕謹ンテ之ニ呈スルニ空威張論者ノ尊稱ヲ以テセザ

發遣セシモ
ルニアラサ
ル旨陳述ス
ルモ是亦委
員ト認定ス
ヘキ乎
○答 然リ
連結トハ甲
社員ト乙社
員ト相會同
スルチ云フ
乎果シテ然
ラハ他ヨリ
之ヲ見ルモ
社事國事等
ヲ談スルチ
看破シ得サ
ルハ各自
ノ交際ト看
做サハルチ
得ス如此ハ
事未害萌ラ
見サレハ條

ルベカラズ是他ナシ彼レガ兵ノ性質効用ヲ察セザルニ
坐スルノミ試ミニ思ヘ今日ハ未タ清魯ヨリ全ク我カ國
ノ道理ヲ妨害シタルニ非サル也即チ今日ハ干戈ヲ動カ
スノ時機ニ非ザル也又他ノ論者ハ兵ヲ忌ミ戰ヲ惡ムヤ
甚シク假令ヒ大ニ琉球ヲ割與スルモ支那ト干戈ヲ交ニ
ベカラズト爲シ又万一魯國ニシレザレフ港ヲ占有スル
モ我邦ノ兵ハ迎モ魯ニ敵スベカラズ止々傍觀坐視スヘ
シト云フ噫此ノ論者ハ我邦政略ノ在ル所ヲ識ツテ而シ
テ國是ノ如何ノヲ知ラサルカ一旦明ラカニ我版圖ト歸
シテ已ニ廢藩置縣ヲ行ヒタル琉球ヲ以テ故ナク他ニ割
與スルハ是レ我邦ノ体面ヲ汚シ我カ國ノ權利ヲ害スル
ノ甚クシキ者ナリ已ニ我邦ノ体面ヲ汚ス我邦ノ最大ノ

例檢束ノ限
リニアラサ
ル乎
○答 然リ
他ノ社トハ
信往復トハ
甲社ヨリ乙
社ニ對シテ
名ヲ以テ通
信往復スル
モノニ限ル
乎果シテ然
ルキハ甲社
員ヨリ乙社
員ニ一個ノ
姓名ノミチ
以テ通信往
復スルモノ
ハ條例ノ檢
束シ能ハサ
ルモ手ハサ
○答 甲社員
ヨリ乙社員

不幸ニ非スト爲ヘキカ已ニ我カ國權ヲ害ス我邦ノ最大
ノ不利ニ非スト謂フベカラザルナリ苟モ他ノ怒ヲ畏レ
テ我カ領地ヲ割與スルカ如キハ我邦ノ最大不幸最大不
利ナリ若シ夫レ此ノ場合ニ至レハ已ニ政略ノ區域ヲ離
レテ國是ヲ斷行セサルベカラザルノ時機ナリ此ニ至ッ
テ兵ヲ起スハ是此ノ最大不幸ト不利トチ免カレハカ爲
メナリ是時ニ當リ之ヲ用ユルノ兵ヲ以テ兇器ト爲シ之
カ爲メニ開クノ戰ヲ以テ忌嫌スベキ者トセハ國權モ放
棄スベク國利モ進歩セズシテ可ナラン是レ政略ヲ以テ
國是ヲ混雜シタル者ニテ止々歩兵ノ性質本分ヲ識ラザ
ルコ坐スルノミ而シテ魯國ト朝鮮トノ關係ノ如キハ實ニ
我邦將來ノ發達ヲ害シ將々幾ノド獨立ヲ失フニ至ルノ

ニ通信往復
 大ル者假令
 其姓名ヲ以
 テスト雖モ
 荷モ該社ノ
 事務ニ關係
 アルモノハ
 本例ニ依リ
 處置スル者
 ト考フ
 ○長崎縣ヨリ
 法制部へ質問
 第五款
 第八條ニ他
 ノ社ト連結
 シ及ヒ通信
 往復スル者
 得スト有之
 然ルニ某社
 會ノ員アリ
 彼此舊來知
 音ナルヲ以
 テ各自己ノ

憂ヲ生スル者ナルガ故ニ之ニ逆ハザルノ政畧ヲ守ル場
 合ニ非ズノ道理許ザル時機ニ至ラバ止ムヲ得ズ干戈
 ナ動カシテ國利民福即チ我が大日本帝國ノ獨立繁榮ヲ
 永久ニ維持スルガ爲メニ吾人ノ性命ヲ犠牲ニ供スルハ
 即チ當然ノ事ナリトスヘキノミ何ア傍觀脚蹠スヘケン
 ヤ故ニ吾儕ハ非戰論者其人チ目シテ失敬ナガラ噫病論
 者ナリト斷言セサルヲ得ザルナリ嗚呼支那ニ對シテハ
 成ルベク之ト親和シテ東洋ノ一致連合ヲ求ムルノ政略
 ヲ固守シ魯國ニ向ツテハ百方之ニ逆ハサルヲ務メ其ノ
 吞噬ヲ免カル、ノ政略ヲ固守セサルベカラズ而カモ政
 略固守ノ極点ニ達シ己ニ國是ノ分界ニ迫ラバ斷シテ開
 戰ノ國是ヲ定ムル可ナリ是レ則チ干戈ヲ動カスノ時機ナ

名面ニテ普
 通ノ書信ヲ
 交換シ其土
 地々々ノ近
 況ヲ報道ス
 ルカ爲メ集
 會等ヲ記載
 スル等ハ固
 ヲリ不問ノ
 義ト存候得
 共之ヲ不問
 トスルハハ
 通信往復ヲ
 禁スルノ効
 ナキモノハ
 如シ果シテ
 然ラハ共ニ
 社員會員タ
 リ且其結團
 ノ方法規約
 ノ是非ヲ議
 スルカ如キ
 ハ縱令各自

リ若シ此際ニ當リ猶脚蹠スルハ怯者ナリ宜シク其ノ罪
 九チ切ルベシ國ニシテ因循スル者アラバ弱國ナリ寧
 初メヨリ兵ヲ養ハザルニ若カサルナリ吾儕ノ所說斯ク
 ノ如シ試ミニ意見ヲ述ヘテ之ヲ諸君ニ質ス
 ○第五、和議演說ノ例(征臺ノ和議) 福澤諭吉演說
 下ヲ見レハ限ナシ上ヲ見レハ限ナシ一身ノ私ヲ論スル
 ニハ足ルヲ知ルノ金言忘ル可ラズト雖モ國家文明ノ大
 計ニ於テハ苟モ満足スルコトアル可ラズ此度支那ト和議
 ノ一條我政府ノ勉勵ニ由リ遂ニ支那ヲシテ五十万テ
 ルノ償金ヲ拂ハシムルニ至タルハ國ノタメニ祝スベシ
 征臺出師ノ其日ヨリ今日マテノ成行ヲ見レバ我ハ十分
 ノ勝ニテ支那ハ十分ノ敗ナリ我今日ノ有様ヲ以テ支那

自己ノ名ヲ以テテモ第十五條處分ノ手續ヲ答ヘキヤ
 ○答ノ假令各自ノ名ヲ以テテ通信往復スルモ團結ノ方法規約等ヲ問答スルカ如キハ條例第八條未文ノ精神ニ依リ相ナラサル儀トシテ考ス
 第九條政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル爲メ屋外ニ於テ公衆ヲ集會スルヲ得

ハ有様ニ比較スレバ誰カ意氣揚々ヲザル者アラシ余輩モ亦其揚々中ノ人ナリ
 然リト雖ヒ事ノ成敗ハ其結局ヲ以テ斷ス可ラス事ノ前ニ源因ヲ事ノ後ニ余波アリ之ヲ思ハザル可ラス今般ノ一事ニ就テ其源因ハ出師ノ日ニ生シタルニ非ズ遙々其前日ニ在ルヲ明カレ其源因ノ内情ハ我人民ヲ得テ知ル所ニ非サレバ之ヲ論セス今後ニ生スヘキ余波モ鬼神ニ非サレバ之ヲ知ル者ナシ況ヤ余輩ノ鄙見何ヲ以テ之ヲ臆測スルヲ得ンヤ
 故ヨ余輩ハ和議ノ電報ヲ得タル其當日ハ有様ヲ以テ之ヲ論セン抑モ此度ノ一條ヲ日本ト支那トノ間ノ事ナレバ其利害得失ニ至テハ別ニ之ニ關スル者アリ即チ其ヨ

○岡山縣ヨリ
 法部ニ質問
 第九條ニハ特別ノ罰例アリ本條ニ違犯ノ者有之ニ於テハ違令等ニモ問フニキ儀ニ候
 ○説明書之ヲ解散セシムルニ止ル
 ○石川縣ヨリ
 法部ニ質問
 第九條屋外ニ於テ公衆ヲ集會スルヲ得ルハ路トアルハ路上ニ立テ講談スルカ如

レニ關スル者ト云何シヤ西洋諸國是以ナリ蓋シ西洋ノ人民直ニ日支和議之議ニ關スルニ非ズ兩國ノ政府以間ニ立入タル外國人ノ議論忠告等ハ先ツ無キモトシテ商賣上ノ事ヲ以テ之ニ關スルヲ我征臺出師之後ハ日本ニテモ支那ニテモ互ニ武備ヲ整ヘ双方ニテ買入タル船艦武器ヲ代金ハ莫太ナルヲナリ而シテ其船艦武器ハ悉皆西洋諸國ノ商人ヨリ買入タルモノナレバ西洋人ノ物ヲ賣主ナリ日本支那ト其買主ナリ故ニ此度ノ事ニ付キ和議ハ日支双方ノ關係ナリ物ノ賣買ニ付テハ別ニ一個ノ西洋諸國ナル者若加テ三方ノ關係ト云フサルヲ得ズヤ
 既ニ此三方ノ關係アリバ此事終始未チ論スルニモ三個

得ストハ聽
衆ヲ集ムル
ヲ得サル義
ニテ結社員
ノミ屋外ニ
集會スルハ
差支ナキ手
○答然リ
第十條第一條
ノ認可ヲ受ケ
シテ集會ヲ催
モノ會主ハ二
以上二十圓以
ノ罰金若クハ十
一日以上三ヶ月
以下ノ禁獄ニ處
シ其會席ヲ貸シ
テ其者並ニ會長
幹事及其議談論
者ハ各二圓以上
二十圓以下ノ罰
金ニ處シ第三條
ノ規程ヲ犯シタ

ナカルヘシ是レ余輩ヲ知ル所ニ非サレモ支那ノ有様ハ
想ヒ視ルヘシ西人ノ狡猾ナルハ平時モ恐ルヘシ況ヤ兵
端將ニ開カントスルノ際ニ當リ買主ノ狼狽何ソ其品ヲ視
ルニ違アラシ足何ソ其價ヲ問フニ違アラン元ヲ見タル商賈
ナレハ愛兒ハ玩具ソ店頭ニ連レタル如シ直段ハ賣主
ノ勝手次第ナリ此度日本ト支那トニ賣込ニ又約條シ
ル品物ノ代金ヲ凡ソ三百万圓ト積リ平均三割ノ口銭大
レハ其利益九十方圓ナリ我國ノ得タル償金ヨリモ多
故ニ云ク下ヲ見レハ限ナシ支那ノ有様ヲ見レハ誠ニ憐
ムベシ一人ト一人トノ爭鬪ニテ此度ノ勝利ヲ取リ此度
ノ面目ヲ得タルコナレハ最早申分ナクシテ正ニ足ルハ
知ルヘキノ時ナレモ國ノ文明ノ大計ヲ考レテ未ダ満足

ル者モ亦本條ニ
依ル
第十一條第二
條ノ規程ニ背キ
社則名簿或ハ改
則社員ノ出入ヲ
定期ニ於テ警察
署ニ届出ス又ハ
尋問スル所ノ事
項問答セサルハ
ハ社長ハ二圓以
上二十圓以下ノ
罰金ニ處シ偽作
ノ社則或ハ名簿
ヲ届出テ或ハ尋
問ヲ得テ偽答ス
ルハ社長ハ右罰
金ノ外尙十一月
以上三ヶ月以下
ノ禁獄ニ處ス
○石川縣ヨリ
法制部へ質問
第十一條ノ

ス可ラス上ヲ見レハ限ナシトハ此事ナリ西洋人ガ他
爭論ヲ傍觀シテ其間ニ臨時ノ利益ヲ占メ爭論無事ニ治
レハ又平生ノ貿易ヲ以テ不相替利益ヲ得ルカ如キハ得
ノ得ナル者ト云フベシ在昔亞米利加合衆國ノ獨立シテ
ル後歐羅巴ニナホレオンノ騷亂アリシキ合衆國ハ眞ニ
局外中立シテ國內ノ物産ヲ勵マシ其物ヲ歐洲ニ輸入シ
テ大利ヲ得タリトノ事アリ其事情ハ此度ノ事ニ異ナレ
モ他國ノ事變ニ由テ利ヲ得ルノ趣意ハ畧相似タリ西人
ノ内心ヲ測ルニ彼輩ハ向後モ常ニ亞細亞ニ諸國ニ不和
爭鬪ヲ起ルヲ祈ルコトナラン實ニ口惜シキ始末ナラズ
ヤ
何卒此後ハ我日本コトモ假令モ西洋諸國ノ乱ハ由テ臨

場合ニ於テ
届出タル社
則若クハ社
員名簿ニ相
違アルハ事
誤謬ニ係ル
モノハ處罰
ノ限ニアラ
サル哉
○説明 實際
ノ形狀ニヨ
リ豫メ定ム
ヘキモノニ
アラズ
第十二條 第五
條ノ規則ニ
背キ
派出ノ警察
官ノ
臨席ヲ肯セ
サル
キ會主會長
及ヒ
社長幹事ハ
各五
圓以上五十
圓以下ノ罰
金若クハ一
ヶ月以上一
ヶ

時ノ利益ヲ得ルコトナキモ我亞細亞洲ノ事變ニ由テ彼輩
ニ利ヲ與フルコトナキヤウニ用心アリタキコトナリ我國産
ノ槍劍甲冑ヲ以テ戦争ノ出來ル世ノ中ナレハ兎モ角モ
ナレハ戦争ノ具ヲ西洋ヨリ買入ル、場合ニハ戰敗ノ外
ニ錢ノ勘定ナルモノヲ加ヘテ勘考セザル可ラズ
抑モ戦争ハ國ノ榮辱ノ關スル所國權ノ由テ盛衰ヲ致ス
所ナレハ一概ニ錢ノ損徳ノミヲ云フ可ラズ或ハ此度支
那ノ勝利ニ由テ我國民ノ氣風ヲ一變シ始テ内外ノ別ヲ
明ニシテナシヨナリチ國體ノ基ヲ固クシ此ノ國權ノ余
カチ以テ西洋諸國トノ交際上ニ及ホシ譽ヘハ近日條約
改正ノ期ニ至テ裁判ノ權ヲモ我ニ取リ稅則ノ權ヲモ我
ニ取リ居留地ノ規則モ保護稅ノ仕組モ我日本政府ノ一

年以下ノ禁獄ニ
處シ其警察官ヨ
リ演說者ノ姓名
ヲ尋問スルコト
ニ答ヘス又ハ偽
名ヲ答ヘタル者
ハ同罪ニ處シ再
犯ニ當ル者ハ十
圓以上百圓以下
ノ罰金若クハ二
ヶ月以上二ヶ年
以下ノ禁獄ニ處
ス
第十三條 派出
ノ警察官ヨリ解
散ヲ命シタル後
尙退散セサル者
ハ二圓以上二十
圓以下ノ罰金若
クハ十一日以上
六ヶ月以下ノ禁
獄ニ處ス
○内務省ヨリ

セシトスルノ大議論ニ及タルハモ西洋諸國ト屹立シ
テ毫モ彼ニ假スコトナシ一チ與フレハ又隨テ一チ取リ右
ニ失スレハ左ニ奪ヒ恰モ支那ノ政府ニ對スルガ如ク公
明正大ナル談判ヲ遂ルコトヲ得ハ最早我國ニ於テ遺憾ア
ルコトナシ眞ニ此盛大ノ勢ニ達スルヲ見込アレンハ何物ヲ
カ惜ムコ足ラン何事ヲカ願ルコト爲ソ何ソ些々タル金
ノ損得ヲ論スルニ及ハンヤ全日本國ノ人民ハ拍手快ト
稱スヘキナリ
右ハ今後ノ成行ヲ想像シテ國ノ幸福ヲ企望シ今ノ有様
ニ満足セズミテ上ノ上ヲ見タル論ナリ然レト雖モ未來
ノ事ハ鬼神ニ非サレハ知ル者ナシ況ヤ其事モ漸ク以テ
セザレハ行ハル可ラサルニ於テチヤ唯人心ノ成行ヲ待

法制部へ質問
 第十三條中
 派出ノ警察
 官ヨリ解散
 ヲ命シタル
 後尙退散セ
 サル者トア
 ル退散ハ會
 主等ノ其命
 ニ從ハサル
 キハ直チニ
 臨會スルチ
 得サル者ニ
 退去ヲ命シ
 其退去セサ
 ルハハニツ
 ニ掛リタル
 儀ナル哉
 ○説明 其見
 解ヲ以テ允
 當トス
 ○埼玉縣ヨリ
 法制部へ質問

ツンニ結局今ノ我國難ハ外國交際ニ在リ今ノ我勁敵
 陰ニ西洋諸國ニ在リ然カモ其敵ハ兵馬ノ敵ニ非ス
 商賣ノ敵ナリ武力ノ敵ニ非スニテ智力ノ敵ナリ此智戰
 ノ勝敗ハ今後我人民ノ勉強如何ニ在ル
 ○第六起業演說ノ例(鐵道築造勸說)
 諸君ヨ今吾輩ガ不肖チ願ニテ諸君ニ一言ヲ呈セント欲
 スル者ハ他ナシ越前虎杖ヨ能州七尾ニ至ル五十余里
 程ノ間ニ北陸道鐵道線路ヲ築造セシムル事ナリ
 抑モ吾輩ガ今日東京ヨリ此ニ來リテ諸君ニ謁スルモ
 固ヨリ偶然ノ事ニアラズ井上鐵道局長夙ニ吾輩ガ鐵道
 事業ニ心ヲ委ネ會テ始メテ横濱東京ノ間ニ鐵道線路ヲ

第十三條解
 散ヲ命シタ
 ル後尙退散
 セサルモ
 ハ二圓以上
 ノ罰金云々
 トアリ其解
 散ヲ命シ尙
 退散セサレ
 ハ衆多ノ傍
 聴人各自ニ
 罰スル歟將
 ヲ會主會長
 幹事等ニ止
 ル趣意ナル
 ○説明 會主
 會長及ヒ幹
 事等ト傍聴
 人ト問ハス
 解散ヲ命シ
 タル後尙退

敷カレシトスルヲ議スルヤ奮テ家産ヲ傾テ海運埋メ
 岡ヲ均ラシ官ニ奉シ其竣功與テ力アリ猶進テ東
 京青森ノ間凡ソ三百里程ニ之ヲ延長シ以テ北海道ニ連
 絡セシヨテ發起シ明治四年以還三ツモ工部省へ建議
 屢々華族會館へ開申シ其建築ヲ冀圖熟望セシモ時期暫
 ラク來ラズ荏苒歲月ヲ經過セシ中本年春初遂ニ政府特
 別ノ保護ト華族諸氏等ノ奮起トヲ以テ吾輩ガ素思ナリ
 東京青森間鐵道築造ヲ議シ決定セラレ吾輩ガ亦其發
 起人ニ班ニ列スルニ至リシヲ稱贊ス則チ目下長濱敦賀
 間ニ建築アル鐵道工事ノ閱覽ヲ促シテ以テ其繼
 隨フテ東京ヲ發シ神戸ヨリ直チニ大津ト出テ長濱ヨリ
 新築鐵道線路ニ沿フテ敦賀ニ至カシガ其敦賀ニシテ止

散セサルモ
ノヲ罰スヘ
キモノトス
第十四條 第七
條ノ制限ヲ犯シ
タル者主會長
及ヒ社長幹事ハ
二圓以上二十圓
以下ノ罰金若シ
ハ十一月以上三
ヶ月以下ノ禁獄
ニ處シ其他情狀
ノ重キ者アラハ
其社ヲ解散セシ
ム其制限ヲ犯シ
テ入社シ又ハ臨
會スル者ハ二圓
以上二十圓以下
ノ罰金ニ處ス
○培玉縣ヨリ
法部へ質問
第十四條ニ
其制限ヲ犯

マルヲ歎シ慨然トシテ越前加賀等ノ有志諸君ニ見ミヘ
此線路ヲシテ七尾ニマテ延長セシメテ勸説セント
想起セシニ因ルナリ之ヲ聞ク越前加賀能登越中ノ土壤
タル所謂天府ノ國ニソ凡ソ百ノ植物裁ユルトシテ實ラ
サル莫ク米ニ宜シク麥ニ宜シク桑ニ宜シク茶ニ宜シク
加之ナラス山ニ巨材アリ海ニ大魚アリ市々村々到ル所
家殷ソコ人足リ其富饒海内ニ冠タリト今吾輩親シク來
リテ之ヲ檢スルニ果シテ其言ノ如ク一モ吾輩ヲ欺カズ
然レトモ獨リ嵯峨タル山脈江越ノ境界ニ横ハリ恰モ越
加以北ヲ齋ギリテ一小僻土ト爲シ開化ノ風吹ヒテ江州
ニ至ルモ越加以北ノ人士之ヲ知ラス文明ノ滋雨降リテ
江州ヲ潤ホスモ越加以北ノ人士之ヲ知ラス長ク春夜ノ

シテ入社シ
又ハ臨會ス
ルモノハ二
圓以上二十
圓以下ノ罰
金ニ處スト
アリ第七條
ニアル臨會
傍聴者トナ
ス者ハ之ヲ
退散セシメ
タルノミナ
ラヌ又本條
ノ罰ヲ科ス
ルノ趣意ナ
ルヲ明シ
○說明 其見
第十五條 第八
條ノ制限ヲ犯シ
タル者主會長
及ヒ社長幹事ハ
五圓以上五十圓

懶眠ニ沈ミ國家ノ安危ニ措ヒテ問ハサルニ似タルノ觀
アルヲ如何センヤ諸君ハ記セシヤ魯國ノ帝家ニテ代々
祖帝彼德大帝ノ遺詔ヲ傳ヘテ敢テ今日ニ忘レズ常ニ翼
ヲ東洋ニ振ヒ猛威ヲ亞細亞ニ逞フセントセリ而シテ東洋
艦隊ヲ碇泊スル浦潮斯德港ハ兩越加能四洲ガ一衣帶水
ヲ隔テタル直北ニ在リ一朝事アルニ臨シテハ朝ヲ終ヘ
スシテ魯國ノ艦隊加賀越前ノ沖ニ來リ浮ミ得ルコト是
時ニ當リ鐵道ノ以テ京坂ノ地東海道ノ土ニ連絡スルア
レハ援兵須臾ニ東京名古屋ヨリ大坂廣島ヨリ馳セ來リ
糗米食鹽皆西ヨリ東ヨリ運輸スルノ便利アリト雖ヒ木
ノ芽峠ニ障キヲレ椿井峠ニ隔テラレ人肩馬背五十余里
ヲ緩歩シ僅ニ達スルカ如キ今日ノ不便ナラハ諸君ハ何

印セシメ又ハ恐喝威力ヲ以テ同盟入社セシムルノ類ナル哉

○説明一項ハ後段ノ見解ヲ以テ允當トス

二項三項ハ其見解ヲ以テ允當トス

第十六條ニ制定スル所ノ集會ハ此限ニテラス

○刑法第三百五十八條第一項公然ノ演説ヲ以テ人ヲ誹毀シタル者ハ十一月以上三月以下ノ重禁

チ纏モノアリ盡シ一ヶ年四十錢ヲ募集シ得ベキニアラザレハ此徒ハ必ラスシモ之ヲ算入セス依リテ越前加賀能登越中ニ三百年來君臨シテ此二百万人民ト君臣ノ因ミテ結ヒタル華族前田三家越前松平家有馬土井間部小笠原ノ諸家及ヒ加賀越前岡家ノ重臣タリシ諸氏若シハ別院ヲ福井金澤富山等ニ設ケテ巨萬ノ信徒ヲ教化スル兩本願寺興正寺等ノ寺院ニ數十棟乃至數千棟ヲ負擔セラル、ニ於テハ實ニ此金額ヲ滿タスハ容易ノ事ナルノミ是レ此等大家ガ空シク夥多ノ金圓ヲ棄ルニアラス一方ニ向テハ國民ノ上流ニ位シテ國家ニ擔フコロノ義務ヲ盡シ且ツ三百年來北土ニ君トナリ民トナリタル舊誼ニ報フノ美德ヲ有シ一方ニ向テハ永久滾々トシテ

銅ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

○司法省御雇佛國人ボアンナ

政談社又ハ其テ誹毀ニシテ於他ノ會社ニ於テ假令其社員ハ假令其社員外ノ者出席セサルキト雖日

本刑法第三百五十八條第一項ヲ適用スヘキ者ト思考スル刑

法ニ於テ犯罪ノ一元素ト爲ス所ノ公然ト云フ事ハ其事

實ヲ見聞スル者多人數アルトハ皆公然ト

盡キサル源泉即チ堅固タル不動産ヲ所持スルノ實利ヲ有スルナリ此等大家焉ンツ奮フテ此ニ力ヲ盡サレサルノ理アラシヤ

君請フ聞ケ吾輩ハ既ニ鐵道建築費出入ノ概算ヲ終ヘタルハ更ニ進ンテ兩越加能四州人民ガ鐵道アルヨリシテ蒙ムルトコロノ直接ノ利益ヲ説カン第一ニハ此等四州ノ人民ガ製造耕耘者若クハ製造耕耘者ヨリ買入レタル諸産物ハ鐵道運輸ノ便利アリ脆弱危フムヘキ和船ニ托シテ巨海大洋ヲ航海シ或ハ人肩馬背以テ峻山峻嶺ノ長途ヲ運輸スルノ不便ヲ除クヲ以テ諸國へ輸出スルニ意外高價ニ販賣スルヲ得ベク製造耕耘ニ必需ナル諸器械若クハ諸國著名ノ諸物産亦タ鐵道運輸ノ便利アルガ爲

云フヘキモノ
ナリ尤モ罪犯
ノ一家族若シ
ハ朋友ノ懇親
會ハ別段ナリ
二三ノ親友ヲ
會シテ懇話ス
ル所ノ席ニ於
テ誹毀ニ涉ル
モ未タ公然ノ
誹毀ト云フ可
ラスト雖其會
席ニ集ルモノ
多人數ニシテ
格別深交ナキ
モノニシテ例
ヘハ延邊館ノ
會場ノ如キニ
至テハ公然ノ
誹毀ト云フベ
キナリ殊ニ席
上演祝詞等
ノ如キ高聲ヲ
發スルキハ勿

メニ迂遠ナル費用ヲ運賃ニ費ヤサス意外廉價ニ購買ス
ルヲ得ヘシ第二ニハ此等四州ノ産出地ニ在リテハ其夥
多ナルガ爲メ左マテ有用ノモノト爲ラス之ヲ諸國ニ輸
出シタランニハ或ハ喝采ヲ博スベカラサルニアラサル
モ運賃ヲ加ヘテハ利ヲ見サルヲ以テ殆ント無價トシテ
願ミサリシ物品ガ鐵道開ケテヨリ運輸ノ勞稍ク省ケ運
賃ヲ扣除スルモ猶ホ輸出シテ利アルニ依リ忽チ一種有
價ノ産物ト爲リ意外ニ巨益ヲ與フルニ至ルニ甚カラス
第三ニハ嚴冬沍寒四州ヲ擧ケテ積雪ニ埋メテ山ニ樵
スル能ハス圃ニ耕ヤス能ハス束手坐食食戸ノ丁壯男女
チシテ此時期暫ラク去リテ京坂無雪ノ地ニ出稼ギシ春
風暖ヲ送リテ積雪融解スルノ日ヲ待チ歸リ來ラシメハ

論ナリ尤モ其
時ノ狀情ヲ詳
カニシテ鑑別
スルヲ要ス然
レモ政談會ニ
於テハ假令私
會ト稱スルモ
刑法上ニ於テ
公然ト爲スベ
キヲ疑ナシ
〔附録〕東京代
組合總會議事
明治十四年三
月十五日吉
町ノ共存同衆
館ニ開ク
會第壹會
會長 和
起案者 林一
高梨哲四郎
午後五時開會
諸員各々席ニ着
キ議堂殆ト蕭然

内ニシテハ徒費スルトコロノ食糧ヲ餘マシ外ニシテハ
出稼ギ得テ携ヘ歸リタル備金ヲ貯フ此他直接ノ利益ヲ
枚擧スルニ於テハ固ヨリ一夕ノ演說能ク盡シ得ベキニ
非ズ將々間接ノ利益即チ中央首府ナル東京繁華大都會
ナル大坂等ト往來ヲ便ニシ通信ヲ便ニスルヨリ開化文
明ヲ直輸入シ四州人民ガ長ク沈ミタル春夜ノ懶眼ヲ攪
破シ浩潑敢爲ノ氣象精神ヲ喚起スルノ利益ニ至リテハ
當サニ前條說シトコロノ接直ノ利益ニ倍蓰スベシ苟モ
四州ニ在リテ上流ノ紳士君子ト呼ハル、ノ人々此大業
アル事業ヲ樂テ、願ミズ互ニ相讓リ相退キ誰レ々々ハ
我レヨリ上流ノ人々ナルニ未タ之ニ從事セズ我レ焉ン
ク先ノシテ之ヲ爲サンヤ誰レ々々ハ我ヨリ大家ノ人々

タリ
會長(林)曰ク今
會ニ於テハ前會
ニ於テ高梨君ヨ
リ建議ニ係ル第
一號議案ヨリ討
論セントス然ル
ニ先チ諸員ニ問
ハシト欲スルモ
ノアリ夫ハ他ニ
アラス先ツ該議
案ヲシテ書記ニ
朗讀セシメ而シ
論議スル平將タ
此ノ如クスレハ
甚時間モ要スレ
ハ直チニ討議ス
ル歟ノ一問是ナ
リ
四十一審(嶋)曰
ク余ハ本議案ヲ
討議スルニ先テ

ナルニ未タ之レニ從事セズ我焉ンツ先ンジテ之ヲ爲サ
ンヤト唯袖手傍觀因循苟且惟レ安ンセントスルガ如キ
ニ於テハ獨リ社會吾人ノ義務ヲ盡サバノミナラズ實
ニ社會ノ罪人タルヲ免カレザルナリ云々
○第七席上演說ノ例板垣君ヲ迎フ

沼間守一演說

頭ヲ回セバ今ヲ距ル十三年前舊幕府伏見ノ一戰ニ利ヲ
失ヒ前將軍自ラ東台ニ幽シテ以テ其罪ヲ待ナシヨリ旗
下八万ノ貌貅モ其武ヲ用フル所ナク王師ノ嚮フ所猶草
之ニ風ヲ加フルカ如ク甲山ノ險阻函嶺ノ要害モ以テ寸
兵隻騎ヲ扼スルニ足ラス三百年來霸府ヲ東方ニ占メタ
ル江戸城モ西軍未ダ手ヲ濡サルニ忽チ其有ニ歸スルノ

建議セサル可ラ
サル者アリ依テ
本議ヲ遮リ茲ニ
一言セント欲セ
ハ希クハ賢明ナ
ル會長ノ決斷ヲ
以テ速ニ衆議ニ
モテ望ム所ハ他
ニアラズ諸君モ
既ニ承了スル所
ナラシキ者カ一
日ノ新聞紙社説
欄内ニ於テ健訟
ノ弊々代言社會
ヲ罵詈訾謔シタ
ル件ニ附テノ所
分ナリ夫レ荷モ
代言人ノ職タル
ヤ果シテ如何ソ
ヤ即チ貴重ナル

勢ヒナリキ此時ニ當リ既ニ没スルノ落日ヲ中央ニ挽回
シ正ニ倒ルノ大廈ナ一方ニ支持セントスルノ實力ヲ
張リテ東北ニ連合セシ所ノモノハ會津、米澤、庄内、長岡、天
童、二本松、白河、棚倉、仙臺等ノ藩々ニ會津侯實ニ之ガ牛
耳ニ莅ニ若松ノ一城ハ恰モ東方各藩命脈ノ歸スル所ニ
シテ其起伏輸贏進退動作ハ皆以テ彼此兩軍ノ注目スル
所トナリ遂ニ天下ノ輕重ヲ舉ケテ以テ茲ニ委スルニ至
レリ此ニ於テヤ西軍ノ意ヲ此衝ニ注クヤ最モ密ニ以爲
ク若松ニ我手ニ落チナハ東北亦顧ル所ナシト當時最
モ強悍銳猛ヲ以テ天下ニ聞ヘタル薩土兩藩ノ壯兵ヲ撰
ミテ以テ會津ニ向ハシメ直ニ白川ヲ拔キ進メテ若松ヲ
陷ントス而シテ會津米澤庄内等ノ壯士善ク戰ヒ善ク防

人民ノ權利ヲ保
護仲張セシムル
ノ任タルヘシ然
ルニ日報記者ハ
今ノ代官人二三
ヲ除ノ外ハ名ヲ
良民ニ借リ云々
ト實ニ失敬千萬
ノ言ト云フヘシ
故ニ余輩ノ建議
ハ日報記者ヲ讒
謗ノ廉ヲ以テ之
レヲ法衙ニ告訴
セントスルノ意
ニ外ナラス謹テ
之レヲ會長閣下
ニ建議ス
三十二番(中島)
日ク會長ヨリ既
ニ本案ノ朗讀ス
ルヤ否ヤノ下問
アレハ先ツ之レ
ヨリ決テ取リ而

キ未タ遽カニ進ム能ハサルナリ此時ニ當リテ接戦ノ場
面タル若松方コソ實ニ戦争ノ主点トナリ白川ノ方面ハ
恰モ兩軍ノ輸贏ヲ決スル要地タルノ勢ヲ現シ甲ハ銳ニ
之ヲ抜カントシ乙ハ偏ヘニ之ヲ退ケテ以テ白川城ヲ克
復セントスルノ決戦ナレバ死傷野ニ積ミ流血杵ヲ漂ス
モ互ニ一歩ヲ退ク色ナク叫喚修羅ノ闘狀ハ實ニ何レノ
日ニ果ツベキヤナトシ能ハザリキ此ニ土軍ニ一參軍ア
リ唯一線ヲ固守シテ敵ノ銳鋒ニ當リ空シク我兵ヲ損ス
ルハ軍器ノ得タルモノニ非ストナシ乃チ白川ノ方面ヲ
擧グテ薩軍ニ委シ自ラ精銳ノ兵士ヲ率キテ其ノ運動ノ
線ヲ轉シ直ニ棚倉三春ヲ實過シ次テ二本松ヲ陷レタリ
而シテ尋常ノ將帥ナラシムハ彼ノ雲井龍雄ガ詩以テ之

シテ右四十一番
(島)ノ建議ニ及
ハシト望ム
四十一番(島)曰
ク三十二番(中
島)ノ説モ亦
理ナキニアラス
ト雖凡ソ物ハ
急ナルヲ前ニシ
テ緩ナルヲ後ニ
スルハ自然ノ道
理ナレハ余輩ノ
建議ヨリ前ニ決
アラシムヲ望ム
九番(田島)急ニ
前ニシ緩ニ後ニ
スルハ固ヨリ物
ノ順序ナリ故ニ
余亦四十一番
(島)ノ説ヲ賛成
ス
會長(林)曰ク急
ニ前ニシテ緩ニ

チ罵リ風聲鶴唳肝膽落ト云ヒシガ如ク懦弱婦女子ニ類
スル仙藩ニ向ヒテ先ヅ一撃ヲ試ムベキニ左ハアラズシ
テ進テ將軍山ノ絶險ヲ超ヘ彼ノ源延尉ガ鷓越ノ逆落シ
ニ類スル銳鋒ヲ以テ直ニ若松城ニ迫リシヲ以テ白川ニ
在ル所ノ各藩ノ兵士ハ其藩々ノ連絡ヲ失ヒ殊ニ米澤ノ
如キハ勢ノ維持スベカラザルヲ知り自他諸藩ヲ游説シ
テ降チ西軍ノ陣門ニ請フニ至レルハ孫子ガ所謂圓石ヲ
千仞ノ壑ニ轉ハスガ如ク若松城遂ニ陥リ奥羽乃チ此ニ
平定ス而シテ此奇策ヲ以テ天下ノ大勢ヲ定メシ所ノ參
軍ハ果ノ何人ナランヤト問フニ今我々ガ此席ニ招待セ
シ所ノ坂垣退助君即チ是レナリ嗚呼世殊ニ時異ナリ若
松ノ城今焉クニカアル英雄遂ニ武ヲ用フルノ秋ニアラ

後ニスルハ固ヨ
 リ物ノ順序ナル
 ハ疑ナシ然リト
 雖モ余ヨリ義ニ
 諸員ニ計リタル
 朝議タルヤ否ヤ
 ノ決ヲ取ルモ多
 分ノ時間ヲ要ス
 ヘキニモアラサ
 レハ先ツ之レヨ
 リ決ヲ取ルアラ
 シトス。○朝議
 ナ要スル方ニ同
 意ノ者ハ起立セ
 ヲ○起立スル者
 過半數○依テ之
 レニ決ス
 次ニ四十一番
 (島)ノ建議ニ係
 ル日報記者ヲ訴
 フルヤ否ヤノ討
 議ヲ本案ノ前ニ
 スルヤ將タ後ニ

ザルナリ然レドモ板垣君ハ如何ニ時世ヲ達観サル、ヤ
 我々自由ノ論場ニ立チ其論理ノ勝チ一世ニ得凱歌ヲ天
 下ニ奏セント欲スルハ板垣君ヨ彼ノ薩土兩藩ニ撰抜サ
 レタル壯士カ白川ヲ抜キテ進ミ以テ若松城ニ肉迫セン
 ト企タル時ト果シテ其勢ヲ同ウセシトノ考接テ下サル
 、ヤ同シカラズトセラル、ヤ否々我々ハ斷シテ其勢ヲ
 同ウセリト明言セントス抑モ道理ノ干戈言論ノ旗鼓ハ
 彼ノ人造器械ノ比ニアラス自由ノ砲射ハ士官ガ發スル
 所ノ彈丸ニ異ナレリ而シテ我々カ比シテ以テ若松城ト
 スル所ノ反對論者ノ論理ハ壁薄ク海淺ク糧食未ダ饒ナ
 ラズ兵甲未ダ精カラズ而シテ其連合應援スル所ノモノ
 モ亦極メテ僅少ナレバ恰モ孤城落日ノ姿トナリ降テ論

ナルヤノ決ヲ取
 ラントス。○本案
 討議ノ前ニ議セ
 シトスル方ニ同
 意ノ者ハ起立セ
 ヲ○起立スル者
 過半數○依テ前
 ニ討議スル方ニ
 決ス
 會長(林)忽チ四
 十一番(島)ニ命
 シテ之ヲ説明セ
 シム四十番
 (島)曰ク余ハ前
 建議ノ時ニ際シ
 其告訴セサルヘ
 カラサルヲ陳述
 シタルハ今亦茲
 ニ再言スルヲ要
 スルト雖モ前言
 ノ足ラサル所ヲ
 補言シテ而シテ
 諸君ノ賛成アラ

陣ニ請フハ日ヲ期シテ待ツベク彼ノ會藩ガ東北ニ雄視
 セシトハ雲壤ノ差管ナラズト雖モ敵手自ラ經營スル所
 アルベケレバ未ダ必シモ之ヲ侮ル可ラザルナリ然ラバ
 則チ今日ノ勢ヲ以テ彼ノ薩土兩軍カ白川ノ方面ニ當ル
 ノ時ニ比シ現今ノ論場ハ之カ輸贏ヲ決スルノ要地ト云
 フモ大差アラザルベシ切ニ板垣君ニ望ム時勢既ニ此ノ
 如シ君ハ宜シク道理ノ干戈ヲ執リ言論ノ旗鼓ヲ張り自
 山ノ彈丸ヲ蓄ヘ天下ノ後生ヲ率フル猶ホ土軍ノ壯兵ヲ
 率フル如ク直ニ反對論者カ據ル所ノ戰爭ノ主点ニ向ヒ
 テ進マレノコトヲ而シテ又嚶鳴社諸君ヨ向ツテハ彼ノ
 白川ノ衝ニ方リテ土兵ト共ニ勇名ヲ轟カセシ薩藩ノ兵
 兒ノ如ク同シク若松城ニ向ヒテ進マンコトヲ企望ス勉

ソコヲ望ムヘキ
ナリ夫今我日本
國ニ於テハ新聞
ニ種々アリ或ハ
社會ニ向テ非常
ノ勢力ヲ有スル
者アリ又然ラサ
ルアリ尤モ更ニ
社會ニ勢力ヲ有
セサル小新聞有
冊子ニ於テハ或
ハ之ヲ見外ニ措
クモアルヘシ
ト雖モ今余々ヲ
讒謗罵詈シタル
所ノ新聞ノ如何
ナル者ナルヤト
云フニ即チ我國
社會ニ於テ新聞
中ノ巨擘トモ云
ヒ又大ニ其勢力
ヲ有スル東京日
々新聞其記者ハ

ヨヤ諸君
○第八全答辭ノ例變應ヲ謝ス 板垣退助演說
予結髮ヨリ職ヲ弓馬ノ間ニ奉シ維新ノ際舊藩諸士ノ助
ニ依リ勝敗ヲ陣前ニ決セシコト數回ナリ其間一城ヲ拔
キ一壘ヲ破リシ時心私カニ快ト呼ビシコトナキニアラ
ザルナリ維新ノ亂戡定シ同僚諸士ノ後ニ從ツテ職ニ朝
班ニ例セシ時心私カニ快トセシコトナキニアラザルナ
リ然レドモ今夕諸君ノ招キニ應シ一堂ノ中ニ會スルノ
快樂ニ比スレバ彼ノ陣前ノ功ノ却ツテ心ニ羞ヅルコト
アリ蓋シ維新汗馬ノ勞ハ創業ナリ我社會ノ景福ヲ將來
ニ宏ニスルハ守成ハ難シ今滿堂ノ諸君ヲ見ルニ皆後來
ニ望ミアルノ士ナリ此諸君ト共ニコトヲ爲サハ三代ノ

福地源一郎ナリ
然テハ則チ今ニ
シテ之レヲ見外
ニ措テ其非チ責
メズンハ忽チ世
人ノ信スル處ト
ナリ余々代言ノ
榮譽ハ一朝地ニ
墜チ亦如何トモ
至ラカザルニ
至ラカザルニ
望ム處ハ一讒謗
ノ科ハ宜シク刑
事ニ訴フヘシ
又余々榮譽ノ損
害ハ一民事裁判
所ニ請求シテ而
シテ飽マテ彼レ
ノ非チ悟ラシメ
余々榮譽ヲ恢復
セントスルニア
ルナリ諸君以テ
如何トナス

治未ダ獨リ美チ後世ニ放マ、ニスルニ足ラザルベシ英
米ノ自由未ダ羨ムニ足ラザルニ至ルベシ而ルニ人生ノ
歡樂ニ二種アリ此ノ紅燈連串シテ檯ニ珊瑚ヲ連ネ銀燭
堂ヲ照シテ四壁水精ヲ凝シ杯酒ヲ盈シ盤肴ヲ盛ル者ハ
是レ有形ノ樂ナリ高才有識ノ士濟々堂ニ滿ツル者ハ是
レ有形ノ樂ナリ有形ノ樂ハ口腹ヲ喜ス者ナリ無形ノ樂
ハ心志ヲ喜ス者ナリ口腹ノ樂ハ歡一夕ニ盡キ心志ノ樂
ハ歡夕ヲ經テ多シ予諸君ノ招キニ應シ宴ニ此席ニ會ス
口腹ノ樂ハ今夕ヲ以テ豫メ謝ス心志ノ樂ハ予永年忘ル
、勿ラシ謹ンテ諸君ノ芳意ヲ謝ス

日本演說討論方法上卷演說部終

九番(田島)曰
 只今四十一番論
 者即十島君ハ法
 術ニ向テ日報記
 者ヲ告訴セサル
 ヘカラストテ陳
 々其理由ヲ陳述
 セラレタリト雖
 反余ハ大ニ論者
 ト曰ク日々新聞
 ハ新聞中ノ巨擘
 ナル者ナリ福地
 源一郎ハ社會ニ
 勢力ヲ有スル者
 ナリ云々ト之レ
 寔ニ管見ト云フ
 巨擘ニ假令新聞
 有識ナキト雖ハ
 其實ナキト決
 シテ社會ノ信ス
 ンキ理アルカ
 ル

(Faint vertical text columns, likely bleed-through from the reverse side of the page)

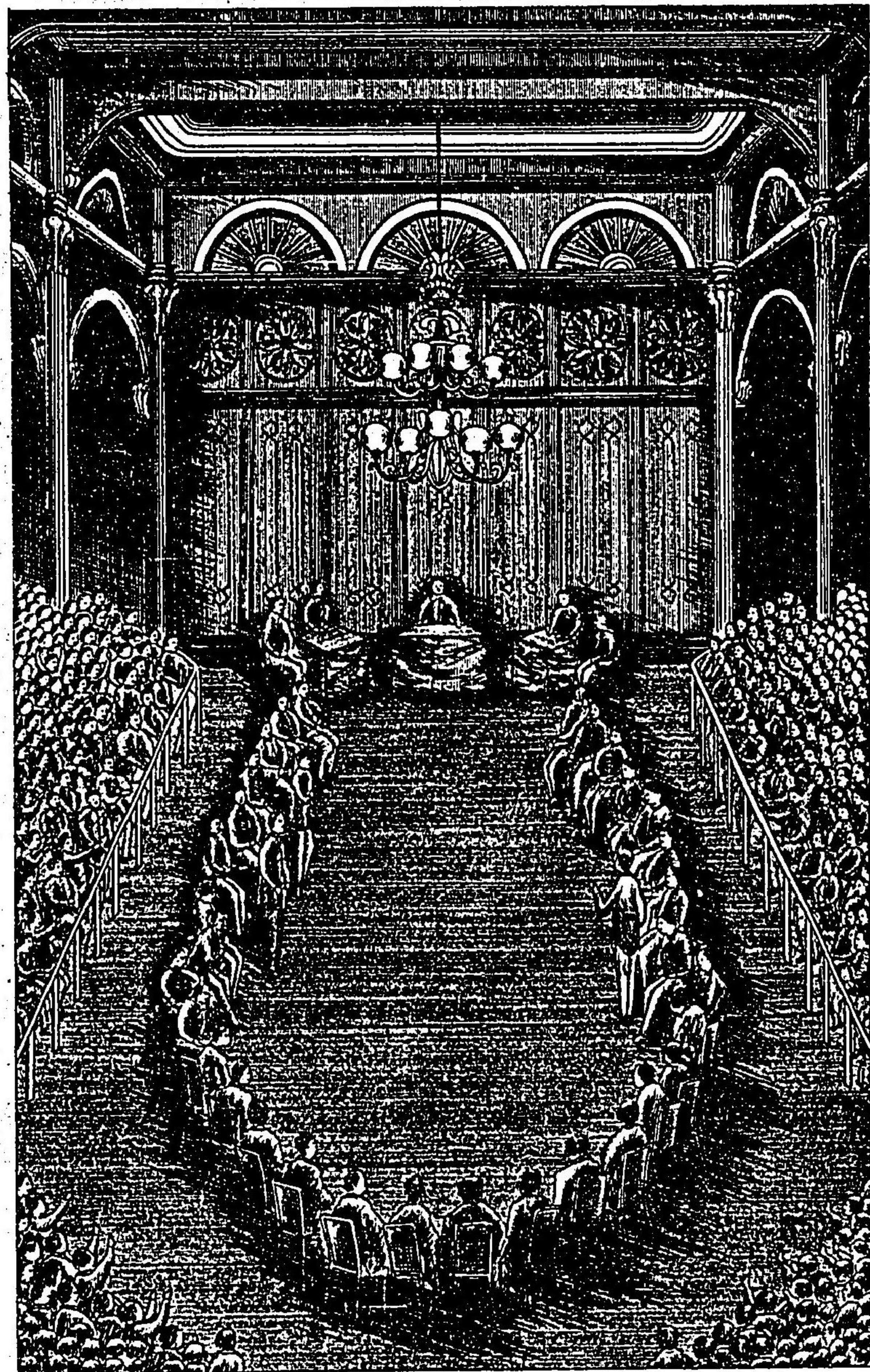
三宅虎太校閱
 木瀧清類編纂
 討論之部

本日演說討論方法

附集會條例類纂

東京書肆
 甘泉堂
 柳井心堂
 發兌

圖之場會論討



ナリ況ンヤ福地
 ノ如キハ法律ノ
 如何ニ付テハ更
 〇之レヲ知ラズ
 恰モ童子ノ見ニ
 異ナラザルヲヤ
 然而シテ余々代
 言人ニハ政府ヨ
 リ布下セラレタ
 ル所ノ代言規則
 ナル者アリテ其
 悪キ所爲ヲ制ス
 ル者アリ然ルニ
 此規則ニ因リテ
 記者ノ如キ人ア
 ルヲ見サレハ他
 ニアルノ理ナシ
 然レハ此ノ如キ
 日報記者ノ空言
 ニ動サレテ或ハ
 告訴スル等ノ如
 キハ甚ダ以テ大
 人氣シキト云

日本演說討論方法下卷

討論之部

三宅虎太校閱
 木瀧清類編纂

第十條 討論會ノ目的

討論會ハ同志一堂ニ會合シテ其討論セントスル問題ヲ
 設ケテ之レニ向ツテ各其議論ノアル所ヲ演ベ其事物ノ
 眞理ヲ討究スルヲ目的トス

第十一條 討論會ノ組立方

討論會ヲ開カントスルモノハ其會合ニ至便ナル場所ヲ
 撰ビテ會員ヲ集合シ而シテ該所ニ於テ各員列席ノ後チ其
 主唱者席ヲ立テ衆員ニ向ヒ議長若シハ會頭一人ヲ選
 舉センコトヲ請ヒ衆ノ見込ヲ以テ其中ノ一人ヲ名指シ若

フヘキ哉余ハ此
ノ如キ空言更ニ
意ニ介セサルナ
リ故コ原案ニ反
對ナリ
四十一番(島)曰
ク只今九番(田
島)諸君ハ福地
ハ法律ニ付テハ
童子ノ見識ナリ
トカ或ハ何トカ
蚊トカ頻リニ攻
撃セラレタリト
雖モ亦ハ決シテ
福地ノ實際ノ學
識如何ヲ述ヘタ
ルコアラサルナ
リ實際ハ成程假
リニ福地ハ不學
ナリ不才ナリト
スルト雖モ現今
社會ノ信用ニ於
テハ決シテ然ラ

シクハ投票ヲ用ヒ其多數ヲ以テ其人ヲシテ議長ト定メ
其席ニ就カシメ而シテ後書記其他必要ノ諸役員ヲ同ク
衆議ヲ以テ定ムルヲ普通一般ノ常法ナリ
第十二條 討論會ノ名稱並ニ諸規則ノ事
討論會ニハ社名(若シクハ會名)ナカルヘカラス因ツテ先
ツ之レヲ議定シ而シテ後其組合盟約ヲ共議シ討論規則
並ニ討論會ニ必要ナル諸件ヲ討議確定スベシ
第十三條 通常會臨時會
討論會ヲ通常會臨時會ノ二ツニ分チ毎月何日(若シクハ
毎年何月何日)ト一定シタル會ヲ通常會トシ會員ガ臨時
ニ會合スル場合ヲ臨時會ト名クベシ
第十四條 討論ノ順序方法

ス彼レガ言フ處
ハ世ノ頻リニ信
スル所ナリ故ニ
前言ヲ發シタル
所以ナレハ此レ
等ニ少シク注意
アリテ而シテ論
ヲレシテ望ム
三十番(木村)余
ハ本論者ヲ贊成
スヘシ何トナレ
ハ之レヲ見外ニ
措テ而シテ更ニ
其非ヲ責ムルコ
勿リセハ余々ノ
名譽ハ將ニ地ニ
墜テ又如何トモ
スヘカラサレハ
ナリ成程九番
(田島)論者ノ云
フカ如ク福地ノ
一空言余々ニ於
テハ敢テ其迷フ

通常臨時會トモ先ヅ議長ハ各員ノ席ヲ整ハシメ己レハ
議長席ニ就キ書記ヲシテ會員ノ建議若クシハ問題(総テ
會議ニ於テ出ス所ノ事件ヲ建議ト云ヒ之ヲ會中ニ下シ
テ其取捨ヲ問フキハ問題ト云フ)ヲ朗讀セシメ議長ヨリ
發議者ヲ呼ビテ本論ノ説明ヲナサシムベシ其説明了ル
チ待ツテ會員中ノ贊成者ハ直チニ議長ト呼ビ起立シ議
長ニ向テ其旨趣ヲ述ベ立ツルナリ右了ツテ反對論者ア
レバ同ク議長ト呼ビ起立シテ其反對ナル自己ノ論旨ヲ
述ブ(論者直チニ會員ニ向ヒ辭ヲ懸クヘカラス而シテ議
長ハ會員ノ議長ト呼ビ起立スルアレバ其人ノ名ヲ回呼
シ其論者ハ誰ナルヤヲ衆員ニ知ラシムベシ若シ同時ニ
數員起立スルコトアルキハ其中一人ノ名ヲ呼ビ其者ヲシ

處ナシト雖也愚夫愚夫ニ至リテハ決シテ然ラス則チ本論者モ既ニ陳述セシカ如ク日報記者ノ福地ト云ヘハ世人ノ偏ク知リテ而シテ信テ措ク處タリ然ラハ則チ譬令一片ノ空言ト雖モ世人ヲ眩惑セシムルヤ實ニ大ナリト云フヘシ然而シテ余々ノ職タルヤ抑如何ナル者ヤ即チ何民人ノ權理ヲシテ飽迄伸張セシムルコアルナルヘシ果シテ然ルハ本論者ノ舉ヤ一ハ以テ余々ノ榮

テ發言ヲ許スベシ又議長ニ於テ之ヲ論セントスルハ議長席ヲ副議長若シ副議長ナキハ他ノ會員ニ譲リ會員ノ席ニ直リテ之ヲ討論スヘシ又發議者ニ於テ衆會員ニ向テ答辨ヲ要スル場合ニハ之ヲナスベシ斯クノ如ク甲論シ乙駁シ而シテ各員ノ討議稍ヤ盡キタル比議長ハ自ラ各員ノ論旨幾派ニ分カル、ヤヲ判定シ其要点ヲ舉ゲテ賛成ノ方ハ起立アレ若シクハ舉手アレント云ヒテ決テ衆員ニ取ルベシ(若シ一回ノ集會ニテ討論ノ了ラサルモノハ次會何日ニ開クヘキ旨ヲ議長ヨリ會員ニ述ベテ閉會スルモ妨ケナシトス)或ハ近時東京各社ニテハ傍聽者ヲシテ之レヲナサシムルヲ多シ今東京各社ノ討論筆記ヲ左ニ掲ク看者ヨク之ヲ讀ミ了ラハ尙實地ニ行ハル、所

舉テ恢復シニハ以テ此等愚民ノ迂路ヲ遮ル者ニシテ定ニ美快ナル事ト云フヘキナリ故ニ余々本論者ヲ贊成スル所以ナリ(高梨)四十二番(高梨)曰ク余モ亦本論者ヲ贊成スル一人ナリ然ルニ諸員中或ハ之レニ反對スル人ナキニ等ノ人ハ己レノ榮譽ヲ地ニ墜去ラシトスルモ更ニ意ニ介セズト云フ論者ナレハ余輩ノ敢テ論スルヲ好マサル人ナリ然

ヲ知ラレベシ但シ總テ論述スル時ハ體容音聲其他討論ニ適用スルモノ上卷演說ノ部ニ既ニ多キヲ以テ別ニ茲ニ贅セズ故ニ宜シク適用スルヲ要ス

○第九(君主ニ特赦ノ權ヲ與フルノ可否)櫻鳴社討論余發議者草間時福氏曰余ハ君主ニ特赦權ヲ與スルハ是知ラズル者ナリ情此特赦權ヲ君主ニ與フルハ必要ヲ知ラントモハ先ッ現時社會ニ此特赦權ノ必要ナルヲ知ラザル可ク然ラハ何故ニ特赦權ヲ今日ニ必要トスルカト云ヘハ第一現時法律ハ不完全ナルヲ第二裁判ニ錯誤スルヲ是レナリ既ニ法律不完全ニシテ裁判ニ錯誤スルヲ免レズシハ必ズ他ニ之ヲ補充救正スルノ法ナカレ可ク不就中其國ノ法律苛酷ニシテ尙ホ死罪ハ

レ如ク或ハ本論者
 或ハ民事ト其訴
 ナ確定スルコト
 好マズ故ニ「余
 ハ福地ニ向テ宜
 シク談判ヲ開ク
 ヘシト修正シテ
 而シテ論スル所
 アランコト望ム
 聊カ愚衷陳テス
 ルコト如斯
 四十五番(大岡)
 曰ク余ハ本論ニ
 大反對ナリ夫レ
 日報記者ノ彼説
 タルヤ余黨論者
 ノ既ニ論辨セシ
 カ如ク實ニ其淺
 見ト且ツ新紙ニ
 掲載スルノ説ナ
 キトニ因リ不得
 止ヨリ出テタル

刑ヲ存スル國ニ於テハ特赦ハ特ニ必要ナル制度ナリ
 何トナレハ死者再ヒ活ク可ラス若シ裁判一タヒ其當
 ナ失セハ社會ニ冤罪ノ死人ヲ生スレバナリ此場合ニ
 於テ特赦ノ制度アルニ非サレハ何ヲ以テ冤死ヲ救フ
 ナ得シ諸君ト雖トモ今日ノ法律ハ善美ヲ尽セリ裁判
 ノ制度ニ欲點ナシ裁判官ハ悉ク完具ノ人ニシテ錯誤
 ノ恐レナシト云ハサルヘシ既ニ此弊害アルヲ許セハ
 社會ニ特赦權ヲ存シ之レヲ救正補充スルノ必要ハ明
 ナリ而シテ此特赦權ハ何人ニ與フヘキヤト云フニ余
 ハ君主ニ與フルヲ以テ最モ至當ニシテ且ツ便利アル
 モノトス然レモ制限ナクシテ之ヲ與フト云フニ非
 ス假令ハ下院ヨリノ彈劾コハ之ヲ用テ可ラス君主ノ

所ノ空言ニソ即
 中其根據トスル
 所ノ「ナ」ボレナ
 シ「言」ヲ誤解
 センヨリ遂ニ圖
 ラス此ノ如キ妄
 説ニ陷リタル者
 ナレハ其心何至リ
 テ憐ム可ク何ソ
 ト云フベシ何ソ
 之レニ告テ眞面
 目ノ告訴等ヲ爲
 スト要セシヤ之
 レ所謂大人氣ナ
 キノ所爲ト云フ
 可ナリ然レ本
 論者ニ一歩ヲ讓
 リテ果シテ然ル
 可トセン歟然ル
 害ハ余ハ却テ其
 想像ノ増加スル
 ナリ何トナレハ

特赦セントスルトキハ其コレヲ特赦スル所以ヲ明ニ
 シテ内閣ノ同意ヲ得ル等ノ制限ヲ置クカ如キ是ナリ
 斯ノ如クセハ法律ノ不完全ヲ救ヒ裁判ノ錯誤ヲ補充
 シテ社會ニ正理ノ行ハル、ヲ致スヘシト信ス
 志摩萬次郎氏曰ク本論者ハ法律ノ不完全ナルヲ以テ君
 主ニ特赦權ヲ與フル云々ト論スレドモ余ハ未ダ其説
 ニ服スル能ハズ試ニ社會ノ形狀ヲ注視セヨ萬般ノ事
 悉ク不完全ナリト言ハサルヲ得ス社會萬般ノ事既ニ
 不完全ニシテ獨リ完全ヲ法律ニ望ムハ是レ千年河清
 ナ俟ツト一般到底其目的ヲ達シ得ルノ日ナカルヘシ然
 ルヲ之ヲ是レ察セスノ瑣細ノ瑕玷アリトテ畏怖スヘ
 キ莫大ノ權力ヲ君主ニ與ヘナハ君主或ハ此權ヲ誤用

今日報記者ヲ告
 訴シテ罰金
 ハ二十圓ノ罰金
 ナルコトモ
 如何ナル困難
 アルハ決シテ甚
 多分ノ困難無
 ナ知ル而シテ且
 センカ然ルハ
 世人ハ忽チ其訟
 訴ニ着眼シテ遂
 遍シテ世人ノ知
 所トナリ未タ日
 報ノ社説ヲ讀マ
 サル者モ却テ之
 レヲ知ル途ニ入
 毎ニ之レヲ暗誦
 スルニ至ル無テ
 得ンガ果シ然ル
 キハ所謂ル毛テ
 吹テ傷ヲ要ムル

シテ死罪ニ處スヘキ者ヲ放免スルガ如キ專斷ニ流ル
 ハノ恐レナシトモ言フ可ラス故ニ余ハ特赦權ヲ君主
 ニ與フルハ只ニ害アルヲ視テ未タ其利アルヲ發見ス
 ルヲ能ハサルナリ
 青木匡氏曰余ハ本論ヲ贊成スヘシ只今反對論者志摩君
 ハ社會萬般ノ事悉ク不完全ヲ免レザルヲ以テ本論ヲ
 駁撃スルノ武器トセラレシモ是レ甚タ勢力ナキ論旨
 ナリ何トナレハ社會萬般ノ事若シ不完全ナラハ須ラ
 ク之ヲ改良シテ漸次完美ノ点ニ向ハシムルコソ至當
 ナレ曷ソ其不完全ハ自然免カル可ラサル者ナリト言
 ツテ之ヲ拋棄シ去ルヘキノ理アラシヤ然ラハ則チ法
 律ニ不完全アリ裁判ニ錯誤アルヲ免カレサレハ君主

ノ類ナレハ余ハ
 斷テ非ナリト駁
 シ去ラシ而已況
 シヤ日報記者一
 己ノ說ナルヲヤ
 四十二番(高梨)
 日シ只今四十五
 番(大岡)論者ハ
 喋々余輩等ノ說
 ノ非ナルヲ駁撃
 セラレタリト雖
 モ恐シハ論者ノ
 誤解セシ所アラ
 シ歟ヲ疑ハサル
 ナ得サルナリ四
 十五番論者ハ曰
 シ彼說タルヤ其
 淺見ヨリ出テル
 ナリ又ナボレ
 テン言ヲ誤
 解シタルナリ及
 未段ニ至リテ

ニ特赦權ヲ與ヘテ其不完全ト錯誤トヲ補充スルハ最
 モ適當ヲ得タルモノト言ハサル可ラス是ニ至テ志摩
 君ノ說ハ既ニ敗滅シタリト信ス故ニ是レヨリ更ニ一
 歩ヲ進メテ本論ヲ確カメンニ彼ノ國事犯罪ノ如キハ
 通例ノ犯罪ト異ナリテ其外面上ヨリ見レハ政府ヲ顛
 覆シ政法ヲ紊亂シテ己レノ希望ヲ政治上ニ達セン
 スルニ在レハ其措置ハ甚タ惡ムヘキノ似タレトモ其
 精神ハ一國同胞ヲ塗炭ノ中ヨリ救出シテ救済ルニ在
 リ然レトモ國事犯罪ヲ刑法ニ問フノ定メアル以上ハ一
 應ハ之ヲ罰セサルヲ得サル者ナレバ時ノ政府ハ其法
 律ニ據テ之ヲ處分スヘシト雖トモ既ニ其精神ヲ全ク
 惡意ヨリ出テサルコト知ラハ君主ノ特赦權ヲ以テ之

日報記者一個ノ
說ナルヲヤト論
者ハ何ソソレ本
ヲ棄テ、末ヲ論
スルノ甚矣シキ
ヤ余等今日彼レ
ヲ訴ヘント欲ス
ルヤ決シテ彼レ
ノ精神ニマテ立
入ラサルナリ尤
モ彼レノ論スル
處ハ己レノ持説
持論ニアラズ只
余等ヲ罵詈譏諷
シタルニ過キザ
ルナリ既ニ余等
ヲ罵詈譏諷シタ
リトセハ焉ソ之
レヲ黙々ニ附ス
ヘケンヤ矧ンヤ
余レニ代言規則
ナル者アツテ既
ニ品行ナ正ス者

チ宥免シテ可ナリ是レ余ガ本論ヲ賛成スル所以ナリ
高梨哲四郎氏曰本論ヲ駁サンニハ先ツ其本據ヲ定ムル
ヲ必要トス而シテ今マ本論者カ本據ヲ尋ヌルニ第一
ニ法律ノ不完全第二ニ裁判ノ錯誤其第三ハ一ト度死
スル者ハ復タ回復ス可カラス之レ特赦ヲ必要トス云
々ノ三項ニ過ギズ夫レ犯罪者ヲ死刑ニ處スルノ慎マ
サルヘカザザルハ本論者ノ言ノ如シ而シテ法律ノ不
完全裁判ノ錯誤ハ時ニ或ハ無キニシモ非ザルニシト
雖ドモ何故ニ君主ニ特赦權ヲ與フレハ此等ノ缺点ヲ
醫スルニ足ルカ其論者ハ病ヲ見テ其原ヲ探ラズ藥ニ
視テ其効用ヲ知ラス何故ニ疾ム者アレハ其何症タル
ヲ問ハズ之ニ茯苓ヲ勸メント欲スル者ナリ且ツ夫レ

アルナヤ然ルチ
一新聞記者ニ此
ノ如キ譏諷ヲ受
ケ榮譽將ニ地ニ
墜シトシテ而テ
之レカ非チ臣サ
スシテ可ナラシ
ヤ之レ余等ノ告
訴スルノ論アル
所以ナリ大岡君
ヨ君ニシテ之レ
ヲ論セシトセハ
宜シク茲ニ注目
スル所アレ
九番(田島)曰ク
凡ソ事ハ只理ノ
一方ニ而已偏ソ
論スヘカラス之
レヲ論セシトシテ
其ハ先ツ宜シク
其實際モ熟考シ
テ而シテ後論スヘ
キナリ余輩思フ

特赦ノ權ヲ君主ニ與ヘ其制限ヲ判然ナラザルトキハ
國王適マ之ヲ濫用スルアルモ亦之ヲ如何トモ爲ス
コ能ハズ遂ニ之ガ爲メ國會ガ制定シタル法律ヲ無
コスルニ至ルヘシ故ニ君主ニ如此權力ヲ與フルトキ
ハ規律亂レ制度破レテ國民皆黯澹タル慘狀ニ陥ル
モ計ルヘカラス又タ青木君ハ國事犯ハ刑法ニ於テ問
フ可ラザルガ如ク矣論セラレシカ果シテ然ラバ何ツ
特赦ヲ待テ其ノ目的ヲ達センヤ初メヨリ刑法中ニ國
事犯者ヲ罰スルノ條目ヲ掲ゲズシテ可ナルヘキナリ
角田眞平氏曰特赦行テ君主ニ與ラルハ余カ平生ノ持論
ナリ此特赦ヲ行フト行ハザルトハ則チ其ノ赦免ヲ受
クヘキ罪犯者ガ一生ヲ苦楚ノ内ニ消遣スルカ或ハ其

警令日報記者ハ
 諸君ノ云フカ如
 少或ハ誤謬シ或
 ハ罵詈雑言シモ
 トセンニ之レヲ
 論スル必ス其原
 因ヲキキ保スヘ
 カテサキルマハ
 代言人中百ニ一
 万ニ二ハ日報記
 者其火ナキヲ証
 如キハカサラン
 フハ告訴中此レ
 若シ人ヲサテ彼
 如キナラバハ其
 トナラシムル所
 慚愧果シテ如何
 シヤ勉メテ己レ
 ヲ守ラズルヲ黙
 スルヲ勝レルヲ
 如カザルヲ論

苦域ヲ脱却スルカシ場合ナレハ此特赦權ヲ君主ニ與
 フルヤ否ヤハ實ニ困難ナル一論題ナリ而シテ其事ヲ
 理論上ヨリハ寧ロ實際止ヨリ論究スルハ必要トモ若
 シ單ニ理論上ヨリ而已推論シ來ルハ其ハ高梨君ノ
 如ク只ク特赦ヲ與フルコト不都合ナル箇所發見
 シ爲ニ實益ヲ失スルに至ルヲ恐ラ免然然即而
 シテ此ノ權力ヲ君主ヨリ與ヘテ適當ニ制限ヲ置キ君主
 ノ獨斷ヲ以テ此特赦ヲ爲シテ其内閣ヲ決議ニ依
 テ之ヲ執行スルコトハ決然決意反對論者ノ思フ如
 キ濫用ノ弊ニ陥ラサシムル會ニ於テハ其ハ無
 草間時福氏曰反對論者志摩君ノ議論ハ已テ我同論者青
 木君ノ爲メ特擊破サレタリ高梨君ノ如キハ尙ホ

者乞フ再思
 三十二番(中島)
 曰ク余モ亦本論
 者即チ島君ニ贊
 成者ノ一人ナリ
 其贊成スルノ所
 以ハ既ニ本論者
 高明辨アリ並ニ
 高梨君ノ快舌モ
 不レハ余等ノ殊
 更ニ愛ニ贊辨シ
 要セザレバ只反
 對論者ノ誤謬ヲ
 正スヲ以テ職ト
 爲シ而已反對論
 者田島君曰ク百
 報記者其人ノ指
 示スル所ノ人ナ
 キヲ保スルカテ
 而シテ慚愧スル
 以テ寧ロ之レヲ

誤見ニ迷フヲ以テ余ハ直ニ一辨ヲ以テ高梨君以蒙テ
 啓テカソトス高梨君ハ法律ニ缺點アリ裁判ニ錯誤
 ルノ一段既ニ本論旨降テ乞ヘリ唯我々其反對スル
 處ハ君主ヲ特赦ス權ヲ濫用セザルヲ畏ルハ其
 ミ然レトモ斯ク危疑ヲ懷キテ君主ヲ特赦ス權ヲ濫用ス
 ルヲ慮ラハ天下ノ事物ニトシテ危疑セザルヲ得ザル
 ニ至ラズ例モハ君主カ不認可ノ權利ヲ有スルカ如キ
 其濫用ヲ恐ルレシカモ不可得云ハ其ハ其ハ其ハ
 況ハ茲ヤ此ノ特赦ノ權ナルモノハ之ヲ執行シテ害
 ルノ場合ニハ之ヲ用ユルヲ制限シ其特赦狀ニハ内務
 卿若クハ司法卿等ノ名ヲ著シ或ハ君主ガ罪犯ヲ特赦
 スルノ意ヲ說明シテ内閣ノ意見ヲ求ムル者ナレバ其

見外ニ措クノ勝
 レルニ如カス云
 々ト之レ誠ニ屈
 劣ナル論説トイ
 フヘキ哉余ハ余
 々代言人中此ノ
 如キ人アルヲ知
 ラサルナリ若シ
 假リニアリトス
 ルモ日報記者ノ
 論ニ因レハ二
 三ヲ除ケハ云々
 下アリ然ラバ即
 チ余々代言人ハ
 二三ハ除テ皆
 悉ク良民ニ名ヲ
 借リテ人ヲ教唆
 スル上云フニ在
 リ然ラハ若シ百
 ニ一人ノアリア
 ルモ決シテ我レ
 ノ慚愧スル故ナ
 キナリ況ンヤ百

濫用ヲ防グチ得ルヲ難キニアラズ然ラハ則チ反對者
 ノ危懼スルヤ杞憂ナリ之ヲ天下人民ヲシテ彼ノ生疎
 裁判官ノ手ニ冤死セシムル如キ弊害ニ比較セバ其
 勝ル方々ナラスヤ
 高梨哲四郎氏曰甚矣哉本論者ゾ固執ニシテ且其議論ノ
 矛盾スルヤ律ヲ本論者ニ向ハシ特赦ニ濫用ナシ云
 ハ、法律及ヒ裁判ニモ誤謬ナシト云テ可ナル者又
 一步チ進メテ一國人民ガ果シテ此ノ特赦權ヲ君主ニ
 與フルチ好ムヤ否ヲ論ゼシニ假令ハ五十八ノ乗客船
 ガ一島ニ漂着シテ社會ヲ組立ツルトキニ其ノ人衆ハ
 此ノ重大ナル權力ヲ他ノ一人ニ讓與スルチ好ムカ余
 ハ人ノ性トシテ必ズ之ヲ與フコト好マザルチ知ルナ

中ノ一モ其人ナ
 キチヤ訴フベシ
 々々余ハ飽マテ
 訴フルチ望ム
 四十番(石川)曰
 シ余ハ本論者ニ
 賛成ナリ何トナ
 レハ彼文タルヤ
 既ニ高梨君モ演
 説ラレタルカ如
 キ説ニアラスシ
 テ即チ罵詈謔
 ナリ果シテ罵詈
 譏謗トセハ社會
 ニ之レガ害アル
 チ認メ業ニ之レ
 ナシタル者アリ然
 ラハ即チ告訴シ
 テ而シテ之レカ
 適施チ望ム憲ニ
 至當ノ事トス云
 フヘキナリ故ニ

リ然ラハ則チ今ヤ社會ノ人民ハ特赦ノ如キ特別ノ權
 カチ君主ニ與フルチ好マザルヤ明亮法則是レ余カ特
 赦權ヲ君主ニ與フルノ不都合ヲ知テ未ダ其ノ利益ヲ
 ルヲ知ラザル所以ナリ
 草間時福氏曰奇ナル哉高梨君ノ論ヤ君主ニ特赦權ヲ與
 フルチ非トセンカ爲メ強テ人民ノ好ムト好マザル
 チ以テ之ヲ証セントセリ人民ノ好ト不好ハ決テ事物
 ノ道理ト爲ズニ足ラザルナリ如何トナレハ好ム所必
 スシモ利益アルニ非ラス好マザル所必ズシモ害ア
 ルニアラザレバナリ而シテ余ト雖ドモ此權ヲ君主ニ
 與フルモ寸分ノ害ナシト言ハズ只利害相比较シテ其
 利益ノ大ナルチ取ルンニ世ニ法律及ヒ裁判官ノ不完

賛成ヲ表スルコ
此ノ如シ
八番(松尾)余又
賛成ノ一八ナリ
余ハ前ヨリ之レ
ニ付テハ反對論
者ハ一人モアラ
サルヘシト思慮
セシニ圖テサリ
キ數多ノ反對論
者ノ出テントハ
然レモ反對論者
モ亦既ニ其言ノ
罵詈譏誇タル處
ハ知ル處ナラシ
果シテ然ラハ余
々々正直ノ者ニ
シテ彼レハ不正
直ノ者ナリ不正
直者正直者チ
害シタルニ際シ
何ソ之レチ黙々
ニ附スヘケシヤ

全アラシ限リハ君主ニ此權ヲ與フルハ好ムヘカヲサ
ルナリ君主ニ此特赦權ヲ與フルハ害ヲ之レチ與ヘザ
ルカ爲メ社會ニ冤死ノ不幸ヲ生スルシ害ト孰レカ大
ナル余ハ後者ノ害ヲ大ナリトス故ニ特赦權アレンカ十
中八九ハ此冤死ノ不幸ヲ救正スルヲ得ヘシ而ルニ反
對論者ハ此点ニ對シテ一撃ヲ加フルコト徒ラニ濫
用等ヲ以テ駁セシトスルハ所謂螳螂ノ斧ヲ振フテ龍
車ニ向テガ如シ本論ハ決テ動カサルナリ
肥塚龍氏曰予ハ反對論者ナリ本論者并ニ賛成者ハ實ニ
氣ヲ毒トシ心得ナリ本論者ハ法律ハ不完全ナリ云々
固ヨリ社會ガ不完全ナル以上其法律ハ不完全ナリ
ルハ疑ヲ容ルベシ足ラズ然レモ若シ其不完全ナル

反對論者ヨリ論者
ハ實ニ注目スツ
テ猛省スル所ア
レ十五番(大岡)
曰ク本論者並ニ
賛成論者ハ明ニ
罵詈譏誇タル處
ハ知ル處ナラシ
果シテ然ラハ余
々々正直ノ者ニ
シテ彼レハ不正
直ノ者ナリ不正
直者正直者チ
害シタルニ際シ
何ソ之レチ黙々
ニ附スヘケシヤ

點ヲ覺知セバ何ノ其法ニ就テ補正ヲ爲サルヤ然ル
チ改良シ能ハズトシテ之チ拋擲シ君主ノ特赦權ヲ以
テ之チ補ハントスルハ是レ自棄ノ甚タシキ者ナリ又
本論者ハ特赦權ヲ與フルニ制限ヲ立テ内閣ノ同意ナ
ド、云譯ヲ爲スト雖ドモ此ハ本論者ガ辨解ヲ須メズ
何ノ國ニ於テモ少シク人間ラシキ社會ニ於テハ皆ナ
然ラザルハナシ且ツ本論者ニ向テ感心スベキハ特赦
權ヲ君主ニ與フルモ不完全チ免レズトノ一言是レナ
リ然レドモ巧ニモ其間ニ比較チ立テ來テ自説ヲ辨
護セント企テタリ故ニ予モ亦比較上ヨリ一言ヲ呈セ
シニ一人ノ思考ト衆人ノ思考トハ孰レカ正當ナルヤ
少ハ多ニ敵ス可ラザルハ言ヲ要セザルナリ彼ノ裁判

ンヤ彼レノ空々
 弱々タル一説ニ
 付堂々乎トシテ
 之レヲ告訴スル
 ナ爲サンヤ之レ
 ナナス實ニ大人
 氣ナキモ亦太甚
 矣カラスヤ諸君
 乞フ之レヲ考一
 考セシトナ
 九番(田島)前説
 ナ復張シテ止マ
 ス
 會長(林)曰リ論
 議既ニ熟シタル
 ナ覺ニ依テ直チ
 ニ可否決チ取
 ト欲ス
 會長曰日報記者
 ニ向テ談判ヲ開
 クト云ニ同意ナ
 ル者ハ起立アレ
 ト命セリ○起立

所ヲ視ラレヨ始審アリ控訴アリ破毀等アリテ其裁判
 フ爲ス者ナリ而シテ他ノ一方即チ特赦ハ(本論者ハ漠
 然トシテ其方法ヲ云ハザレハ予假ニ其方法ヲ教ヘテ)
 僅々五六名ノ委員アリテ之ヲ 覈スルナルベシト雖
 トモ此委員タル縱令法律ニ達スルノ士ナルモ蓋シ法
 ナ執行スルニ於テハ彼ノ慣手ナル裁判官ニ及バサル
 ヤ明亮ナリ況ヤ五六名ノ委員ノ腦力ハ三四百人ノ腦
 力ニ依テ成リ立チタル法律ニ勝ルノ理アラザルニ於
 テチヤ以上ハ比較上ヨリ論スル者ナリ要スルニ神チ
 ラヌ人間社會ニ於テ完全ヲ望ムハ甚タ難事ナリ且ツ
 ヤ文明ノ國ニ於テハ罪犯ヲ處分スルニハ最モ證據ヲ
 重ンズ故ニ其罪犯ヲ認メラレタル者ト雖ドモ確手タ

スル者過半數○
 依テ之レニ決ス
 四十一番(島)曰
 ク余カ原案タル
 ヤ固ヨリ法庭ニ
 向テ是非ヲ決セ
 ント云フニアレ
 ハ希クハ此決ヲ
 取ラレシトナ望
 ム
 三十五番(植木)
 之レヲ賛成ス
 會長曰ク四十一
 番ノ説實ニ然リ
 依テ亦之レカ決
 ヲ取ラン○法庭
 ニ向テ是非ヲ決
 スルニ賛成ノ方
 ハ起立セヨ○起
 立スル者過半數
 ○依テ之レニ決
 ス
 會長曰ク既ニ法

ル証跡ノ在ル有ルニ非レハ決シテ之ヲ刑罰ニ處スル
 一チ爲サズ其レ然リ此證據法ナル者ハ人間社會ノ進
 歩スルニ從テ益々改良ニ赴ク者ニ決シテ無罪ノ者
 ニ死地ニ陥ラシムル如キトナシ其レ此ノ如ク日新ノ
 法律ニ對シテ神代以降ノ古物即チ君主ノ特赦權ヲ引
 キ來リテ其不完全ヲ救正セントスルトハ抱腹千万ノ
 至リナリ而シテ反對論者ノ内ニ於テ青木君ノ説ハ或
 ハ傍聽者ヲ誑クノ恐レアリ故ニ豫メ之ヲ破碎シ置ク
 ベシ其意ニ以爲ヘテク國事犯罪人ヲ死刑ニ處セザル
 法ノ其國ニ行ハレザル限リハ其罪人ノ數如何ニ多數
 ニ涉ルモ法律上ニ於テハ必ス之ヲ罰セザル可ラス然
 ルニ實際上多數ノ國事犯罪者ヲ死刑ニ處スル如キハ甚

庭ニ向テ訴フル事ハ可決シタルト雖モ之レヲ訴フルニハ必ス其人ナカレバカラス依テ其人ヲ作ルニ付テ討議アルニ付テ望ム

三十五番(植木) 會長ノ命憲然リ依テ余輩ノ意見ヲ吐露セシト欲ス余輩ノ考フル所ニヨレハ會長其人ヲ依頼スルヲ以テ至當ノトナ思慮スルナリ何トナレハ會長ハ代言人ノ頭上ニ關スルヲハ總テ制理セラルハ任ズレハナリ故ニ余ハ會長ニ

タ不都合ノ至リナリ故ニ此ノ如キ場合ニ當テハ國王ノ特赦權ヲ以テ之ヲ放免スルハ最モ適當ヲ得タル者ナリト言フニアリ是等ハ如何ニモ不都合ナルベシ故ニ國事犯者ノ數々百万人ノ多キニ及ビ實際法ヲ執行スル能ハザル時ハ法律上ニ制定スル所ノ方法ニ依テ之ヲ處分セハ君主ガ之ヲ赦免スルモ予ハ特赦ト云ハズレテ法律ナリト云ハントス何ツ君主ヲシテ特赦權ヲ有セシムルヲ要セシヤ

青木匡氏曰反對論者肥塚君ハ長々敷辨論セラレタレドモ其辨論ハ只ニ是レ一片ノ夢ナルノミ蓋シ肥塚君ハ特赦ハ危險ナリ法律ヲ改良スルハ勝レルニ如カス云レリ是レ又不完全ノ辨論ナルヲ免レズ如何トナレ

依頼スルヲ望ム

三十二番(中島) 曰ク余ハ三十五番即チ植木君ノ説ニ大ニ不同意ナリ何トナレハ會長ナル者ハ即チ代言組合ニ付テノ會長ニシテ決シテ此ノ如キ不意ノ事件ニ付テマテノ義務ヲ負フヘキ者ニアラサルナリ尤モ會長ハ何ニモ蚊ニモ總テニ付テ不能ヲ有スル者トモ云フヘカテ

然ラハ則チ此度ノ事件タルヤ輕々タルカ事ニアラサレハ余ハ

ハ人力ニ於テ正理ニ適セスト認ムルノ法アレハ之ヲ改良スルハ固ヨリ當然ノ事コシテ更ニ論者ノ辦ヲ俟タス然レドモ法ハ社會ノ形勢ニ依テ常ニ變遷ヲ來タスモノナレバ數十年前ニ在テ正理ナリト認メタルノ法モ今日ニ至テハ既ニ腐敗ノ徒法トナリ再三再四改良ヲ加フルモ決シテ不完全ヲ免レザルハ自然ノ常ナリ是レ其不完全ヲ救正スル爲メニ特赦ノ權ヲ君主ニ興フルノ必要ナル所以ナリ又肥塚君ハ證據法ノ事ヲ論セラレシガ如何ニ改良シタル證據法ト雖ドモ時トシテ特ム可ラザルコアリ今其一例ヲ示サンニ近頃ノコナリトカ英國ニ於テ十二人ノ陪審ガ事實ノ吟味ヲ爲スニ當リ曾テ罪ヲ犯サザル者ヲ罪アリト決シ裁判

更ニ投票ヲ以テ
 其任ニ適當ノ者
 ナ新選アラシム
 ヲ切望ニ耐ヘサ
 ルナリ故ニ三十
 五番ノ説ヲ駁シ
 余カ一説ヲ對立
 ス三十番(木村)
 曰ク余モ亦中島
 君ノ説ヲ贊成ス
 ヘシ植木君ハ之
 レ會長ノ任ヲリ
 ト論セラル、モ
 之レ決シ然ラサ
 ルナリ之レ今般
 ノ事件タルヤ果
 シテ如何ナル者
 ソヤ則チ兼テ豫
 知スヘカラサル
 者ニシテ所謂ル
 偶然ノコトアル
 シ偶然ノコトハ
 決シテ會長ノ職

官ガ法律ニ從テ之ヲ罰シタル後ニ於テ他ニ眞實ノ罪
 者アルコトヲ發見シタル事アリ是ノ一例ニ依テ考フレ
 ハ証據裁判ト雖トモ時トシテ特ムニ足ラザルコトアリ
 是レ余ガ本論ヲ贊成シテ君主ニ特赦ノ權ヲ與ヘ裁判
 ノ錯誤アリシ場合ニ當テ之ヲ補正セシムルノ必要ア
 リトスル所以ナリ又或ル論者ハ國事犯ヲ特赦スルコ
 トヲ駁シテ曰ク己ニ赦免スベキ程ノ實跡アラバ始メヨ
 リ明文ニ掲ゲテ罪ヲ問ハズシテ可ナリト是レ殆ンド
 法ト特赦トノ區別ヲ辨ゼザルノ説ナリ假ニ論者ノ如
 シ國事犯者ヲ刑法ニ問ハザルコトヲ明文ニ掲ゲ置カバ
 其害ヤ擧ゲテ云フ可ラザルニ至ラン蓋シ國事犯ナル
 者ハ其意思ニ於テハ甚ダ懲諒スベキモ其行爲ニ至テ

務ト云フヘカラ
 ス况ンヤ人々各
 々別腦アリ會長
 ハ會長ノ腦アリ
 之レハ之レノ腦
 アル者ヲ要スル
 譯ナレハ余ハ中
 島君ノ説ニ從テ
 新ニ其才識適當
 ノ者ヲ選舉セン
 一ヲ望ム
 四十一番(島)曰
 シ今般ノ事件タ
 ル固ヨリ重大ナ
 ルコトナレハ只會
 長一人而已ニ委
 スルヲ好トセス
 故ニ余ハ會長ハ
 勿論其任トシテ
 外ニ補助委員十
 八ヲ撰拔センコ
 トヲ望ム
 四十二番(高梨)

ハ政府ニ抵抗シ國約ノ法ヲ破ルノ罪人ナリ是レ裏面
 ニ於テ赦免ヲ加フベキモ表面上罪跡ヲ問ハザルヲ得
 ザルモノユシテ益々特赦ノ必要ヲ見ルベキナリ
 肥塚龍氏曰青木君ハ種々ノ辨ヲ設ケ來リテ自説ヲ粉飾
 スルモ余ハ概シテ卑怯ノ一字ヲ以テ之ヲ評セントス
 其論ニ曰特赦ト法律トハ同視スベカラズ特赦ハ以テ
 法律ノ不完ヲ補フベシト是レ甚ダ實ニ戻ルノ論ナリ
 西教ノ言ニ曰國王ニ反クモ神ニ反ク勿レト之ヲ換言
 スレバ國王ハ國法ニ支配セラル、者ニシテ國法ハ國
 王ニ支配セララル、者ニアラザルノ意ナリ然ルチ青木
 君ハ法ヲ措テ主ニ聽フベシトハ是レ野蠻世界ニ行ハ
 ルベキノ議論ニシテ開明國ニハ絶テ用サレザルモ

曰ク余ハ徹頭徹尾植木君ノ説ヲ賛成ス可ナリ反對論者ハ曰ク之レ偶然ノコトナリ之レ意外ノコトナリ故ニ之ニ是レ會長ノ職務ニアラスト何ソツレ誤説ノ甚シキヤ今日ノ此會タルヤ抑モ何會ナリシヤ即チ東京代官組合會ナルヘシ而シテ其論スル所ノ者ハ何ソヤ即チ日報記者ヲ告訴スル云々ノ論タルヘシ然ラハ則チ之レ會長ノ任タルヤ明々火ヲ觀ルヨリモ尙ホ瞭カナラン

ノナリ必竟スルニ論者ハ國王ヲ以テ神ノ如ク見做シ人民ノ智力ハ法ノ完全ヲ求ム可ザル者ト見做ス者ニシテ余カ以テ卑怯ト爲ス所以ナリ又法ノ不完全ヲ説キ來リテ英國ノ十二人倍審云々ヲ引証セラレシガ是レ固ヨリ十二人ノ陪審トテモ横目豎鼻ノ人間ナレハ時ニ或ハ過失ナシト斷言ス可ラス之レガ爲メ特赦ヲ必要ナリト云ハハ余ハ之ニ反對シテ國王ノ失措ヲ舉グベシ古時英王ガロルドロツセルニ係ル特赦ノ一事是レナリ國王平生ロツセルヲ疾ミシカハ氏ヲ死刑ニ所スルニ際シロセルニ特赦ヲ願フ者アリ王ハ曰彼レ先キニ彈劾ニ遇フタル罪人ハ國王ニ特赦權ヲシト云ヒシコアリトテ特赦ヲ拒ミシト云ヘリ此ノ如キ例

歎何トナレハ尙シ會長ノ任ニ以テ歎愛ニ之レヲ議スルヤ因之觀之正ニ會長其人ノ負擔スヘキノ任タルハ余ハ嗽々此ノ如キ事ヲ辨スルノ違ナキヲ覺ユルナリ反對論者ハ以テ如何トナス三省スル所アレ十六番(田代)曰ク余亦植木君ノ説ヲ賛成スヘシ何トナレハ此件ハ會長ノ職務タル事ニシテ然ラテ又會長ハ余々ガ票撰ニ因リテ

証ハ累々枚擧ニ違アララス今余ハ特赦ヲ廢スヘシト云フモ敢テ法律ニ完全ヲ來タスト云フコアラス唯之レチ一人ニ任スヨリハ數人ニ任スノ安全ニ如カズト云フナリ
草間時福氏曰肥塚君ハ折角駁セラレタルモ憐ムヘシ皆ナ己レノ説ヲ確カメズ却テ本論ノ必要ヲ証スルノ器具トナレリ本論特赦ヲ必要トスルモノ決シテ法律ノ改良ヲ拋棄シ徒ヲニ君主ニ此權ヲ與フトハ云ハザルナリ可及的法律ニ就テ改良ヲ謀ルハ固ヨリ論スルチ俟タズ止ダ十分ノ改良ヲ加フモ法律ハ一般ノ制規ナリ既ニ一般ノ制規トセバ何程完良ナルモノニセヨ何レノ特別場合ニモ之レヲ用ヒテ適當スルヲ得ヘカヲ

舉ケテ然ラハ即
チ此代言人第一
ノ人物ナリ何ソ
此人ニシテ其才
ナシト言ハシヤ
故ニ余ハ植木君
ヲ賛成スル所以
ナリ
九番(田島)曰ク
余ハ素ヨリ植木
君ト同説ニシテ
會長其人ノ負擔
スヘキ任アリト
信スレバ然レハ
會長只一人ニテ
ハ甚タ事務繁忙
ノ至ト推察スレ
ハ余ハ全ク島君
ハ論ニ賛成シテ
會長ノ外ニ補佐
員ヲ議員中ヨリ
八九名投票撰拔

百十八
ザルモノナルハ反對論者ト雖ドモ恐ラク之ヲ知ラン
然ラバ長シヤ今一般ノ制規ナル法律ニ十分ノ改良ヲ
施スモ社會ノ事情日ニ出テ夕ニ變ズ何ゾ一般ノ死法
ヲ守リテ社會日新ノ活狀ニ當テ一々其適當スルヲ保
ツベケンヤ其法ト事トノ適當セザル所ハ冤刑トナリ
酷罰トナリ裁判官ノ專横トナリ以テ社會ノ正理ヲ害
スルニ至ル故ニ縱令法律完良ニ至ルモ猶ホ君主特赦
ノ制ヲ設ケテ余地ヲ存シ正理ヲシテ練々ト社會ニ流
通セシムベキナリ反對論者ノ如キハ窮屈ニ法律ヲ考
ヘ却テ之ヲ以テ正理ノ流通ヲ妨ゲントスル者ナリ又
肥塚君ハ特赦權ハ神代野蠻ノ遺物ナリト云ヘリ是レ
一ヲ知テ未ダ二ヲ知ラザル者ト謂フヘシ何トナレバ

セシコヲ望ム
四十五番(大岡)
曰ク余亦田島君
ト同意見ナリ夫
レ此輩タルヤ實
ニ其勝敗ハ忽チ
余々代言人社會
一級ノ頭上ニ關
係ヲ有スルモノ
ナレハ小事ノ如
クシテ甚タ大事
ト云ハサルヲ得
サルナリ故ニ會
長ノ外ニ幾名カ
ヲ増員アラソク
ヲ望ム
四十番(石川)曰
ク余ハ決シテ會
長之レヲ負擔ス
ルノ義務ナキヲ
信スルナリ故ニ
余ハ會長議員相
混シテ委員三名

百十九
神代野蠻ノ遺物ハ豈管君主特赦ノ制ノミナランヤ現
時各國ニ死刑ヲ存スルガ如キハ最モ野蠻ノ遺物ト云
フヘシ然ルニ此死刑ノ遺物タルヲ答メヌ却テ此死刑
アルガ爲メ其必要ヲ増加スル特赦ノモノ遺物ヲ鳴ラ
スハ不通ノ見解ト謂ハザルヲ得マ反對論者ハ己レノ
議論ニ根據ナキヨリ只君主專斷ノ語ヲ響カセテ聽衆
ノ耳ヲ欺カントスルハ却テ是レ卑怯ナリ而シテ毫モ
裁判官ノ專斷ヲ患ヘザルハ何ゾヤ彼ノ裁判官ガ不完
全ノ法律ニ乘シテ權力ヲ誤用シ無罪ノ民ヲ殺スガ如
キ是レ果シテ患フベカラザルカ君主ノ專斷ハ不可ナ
リ裁判官ノ專斷ハ可ナリトスルハ未ダ專斷ノ惡ムベ
キヲ知ラザル者ナリ夫レ然リ故ニ余ハ特赦ノ法ヲ設

ヲ投票セシメテ
 望ム
 三十五番(植木)
 前説十張
 四十八番(高梨)
 寛藏
 曰ク余情々諸君
 ノ論スル處ヲ聽
 シテ互ニ相偏意
 シテ論スル者ハ
 如シ何トナレハ
 或ハ會長一人ニ
 テ然ルヘシト論
 スル者アリ又ハ
 外ニ八九名ヲ増
 加スヘシト云フ
 者アリテ決シテ
 其中央則チ適當
 ナリ論スル者アラ
 サレハナリ故ニ
 余ハ其中ヲ取リ
 外ニ補佐委員ヲ
 二三名投票セシ

ケテ正理ヲ補充シ此害ヲ救正セントスルナリ
 田口卯吉氏曰本論者ハ淺薄ヲ免レズ其肥塚君ニ辨明
 スルノ旨ニ曰法ハ精密ニ改良スルヲ要ス唯夫レ不完
 全ヲ免レズ故ニ特赦ヲ以テ之ヲ補充スト彼ノ法ナル
 者ハ國會ニ於テ制定スル正當ノ規律ナリ而シテ他ニ
 特赦ナル者ヲ置テ不正當ナル法律ヲ曲ゲントハ何事
 ヲ法既ニ殺スベシト命ズルニ特赦コレヲ助クルト云
 ハハ是レ取りモ直サズ法ヲ破ル者ナリ今我々ガ國會
 ナ企望スルハ不正當ナル法律ヲ制定セシテ欲スル
 ニアラズシテ何ゾヤ然ルニ其國會ガ制定セタル正當
 ノ法ヲ君主ガ氣隨ニ破ルハ蓋シ反對論者ト雖ドモ好
 ム所ニアラザルベシ尤モ此法ノ缺點ヲ補フニハ危險

ト望ム夫此レ
 事タルヤ小事ハ
 或ハ小事ナルカ
 如シト雖モ委員
 其人ノ失策ハ余
 々一般ニ關スル
 所ノ者タリ然ラ
 ハ何ソ會長一人
 ニ委スルコトヲ得
 ン去レハトテ之
 レニ八九名ノ補
 佐ヲ要スル程ニ
 モアラズ故ニ余
 ハ前説チ主張ス
 ル所以ナリ
 四十二番(高梨)
 前説會長ハ自然
 之レヲ負擔スル
 ハ其職務タルコ
 ト再論セリ
 四十一番(島)前
 説主張
 四十番(石川)再

ナル特赦ヲ俟タズシテ他ニ適當ナル方法ヲ求ムベキ
 ナリ
 高梨哲四郎氏曰余ハ簡短ナル辨論ヲ下シテ本論者ニ自
 殺ヲ勸メント欲ス草間君ハ法律ハ一般ノ制規ニシテ
 如何ナル特別ノ場合ニモ適用ス可ラズト云ヒ獨リ君
 主ニノミ其裁制ヲ委テ君主ハ恰モ人間ニアラザルカ
 如ク陳セラレタリ然レドモ一般ニ適用スルヤ否ノ如
 キハ法律上ニ止ルノ議論ニシテ此特赦ニハ殆ンド關
 係セズト云フモ可ナリ如何トナレハ特赦ナル者ハ其
 境界甚ダ狭クシテ到底法律ノ不完ヲ補充スルニ足ラ
 ザルナリ次ニ青木君ハ十二人ノ陪審官云々ト説カレ
 シモ大岡政談等ヲ繕フ時ハ此ノ如キ例頗ル多シ而シ

ヒ預定スヘカ
 サル偶然ノ事
 ハ決シテ會長
 職務ニアラサ
 ヲ主張ス
 三十二番(中島)
 又前説ヲ再論
 會長(林)曰ク
 既ニ熟シタリ
 第一説(植木)ノ
 番(植木)ノ説即
 チ會長ニ委任
 ルニ同意ノ方
 起立アレ○起立
 スル者
 二十七人
 第二号(中島)ノ
 番(中島)ノ説即
 チ會長議員相混
 シテ新委員ヲ
 票スルニ賛成
 者ハ起立アレ○

テ最初或者ノ誣告ヲ採用シテ陪審官ガ無罪ノ人ヲ罪
 アリト決スルヤ必ズ多少ノ証據アリテ斯ク處斷セシ
 モノナルベシ故ニ其後ニ至テ更ニ又別途ノ証據出テ
 來リテ前裁決ノ罪ヲ致ス時ハ是又更ニ取戻シテ裁判
 スルコト得ベシ是ヲ以テ本論者ノ論旨タルヤ既ニ自
 滅シタルヲ徴スベキナリ

沼間守一氏曰本論者ハ既ニ我黨反對論者ノ爲メニ論撃
 シ尽サレシカ如クナレドモ余ガ又一辨ノ勞ヲ厭ハズ
 シテ本論ヲ駁撃スル所以ノ者ハ蓋シ歐米ノ碩儒ニテ
 モ尙ホ此議論ニ就テハ迷夢ヲ懷ク者少ナカラザレバ
 我喫鳴社諸君ガ疑ヒ居ラル、ハ怪シムニ足ラザレド
 モ其關係スル所頗ル大ナル者アルヲ以テ也凡ソ事ヲ

起立スル者
 十八人
 第三号(島)ノ説即
 議長ハ當然其任
 トノ外ニ補佐員
 ヲ投票スルニ賛
 成スル者起立ア
 レ○起立スル者
 七人
 會長曰ク第一説
 ハ多數ニシテ且
 過半数ナルハ之
 レニ決ス
 十二番(小川)曰
 シ余ハ民事ノ刑
 事ニ及ハサルノ
 動議ヲ發スヘシ
 四十五番(大岡)
 曰ク既ニ會長ノ
 任ト定リタル以
 上ハ之レ皆十會

論ズルコトハ宜シク先ヅ言辭ヲ究ムルヲ必要トス而シ
 テ此言辭ハ動モスレバ事實ト懸隔スルコト少ナカラズ
 近頃新聞上ニ散見スル所ニテモ人ニ勉勵ヲ勸ムルニ
 斃而後止ト云ヒ又商人ガ近時無暗ニ商權々々ト唱道
 スルガ如キ皆ナ孰レモ其事實ニ懸隔スル者ナリ試ニ
 其言辭ヲ推究スル時ハ斃字權字ハ全ク漠然意味ナキ
 嘆語ニ過ギザルヲ知ラン情此言辭ハ全ク嘆語ニ過ギ
 ザレバ之ヲ除クヲ得ルトセバ之レト共ニ其議論モ亦
 消滅シ去ルノ外ナカルベシ今本論者ガ頻リニ唱フル
 法ノ不完全ト云フモ亦此類タリ抑モ法ノ不完全トハ
 何ゾヤ缺ケアルト云フノ義ナルカ果シテ然ラバ何人
 ガ之ヲ不完全ナリト云フ乎一國ノ政事家ガ國會ノ議

長ノ權内ニアル
ト存スルハ十二
番ノ説ハ無用ナ
ルヘシト考ル
四十二番(高梨)
余モ亦大岡君ノ
説ニ賛成スヘシ
會長曰少小川君
ノ説一人ノ賛成
者ナケレハ大岡
君ノ説ニ成スヘ
シ
右ニテ嶋君ノ建
議全ク討議シ畢
ル

附録終

場ニテ議決シタル法律ヲ指シテ不完全トセバ之ヲ不
完全トスル者コソ却テ不完全ナルニ非ズヤ然ラハ本
論者ガ不完全ト云フハ是レ全ク一個ノ空言タルノミ
又裁判ニ錯誤アルト云フハ裁判官ガ惡意ヲ以テ法ヲ枉
ゲタルヲ云フカ左スレバ其裁判ハ効力ヲ有セザルナ
リ其裁判ニ不當アルヲ云フカ此ハ國會ヲ以テ最上裁
判所ト爲シ之ニ控訴スルヲ許スノ制度トセバ裁判ノ
錯誤ハ患フルニ足ラザルナリ又諸君ガ刑法ハ重大ナ
リト論セラレ、モ成程死罪ノ如キ終身懲役ノ如キハ
重大ナランモ廿日ヤ三十日ノ輕懲役ニ至テハ彼ノ民
事ニ於テ數万圓ヲ損失スル者ニ比セバ却テ劣ルヲ
見ル然ラハ一二ノ場合ニ適セヌチ口實トシテ國會ノ

定メタル法律ヲ不完全トスルハ反テ諸君ノ見識ニ不
完全アルヲ証スベキナリ又草間君ニハ法ハ一般ニ普
及スベカラズト爲スモ若シ一二ノ事件アリテ其法律
部内ニ入ラザル時ハ如何シテ之ヲ處理スル乎此ハ彼
ノ特赦ヲ特ムヲ要セズ彼ノ英國ニ於ケルガ如ク國會
ニ任カセテ之ヲ處分セバ可ナリ然ルニ本論者ハ患フ
ルニ足ラザル者ヲ憂ヒ以テ彼ノ特赦權ヲ君主ニ與フ
ルノ恐ルベキヲ知ラザルハ何事ツヤ
議長波多野傳三郎氏曰決テ取ラン反對論ニ賛成ハ起立
起立スル者九人本論ニ同意ハ起立起立スル者九人反
對ト同數ナリ於是議長ハ反對論ヲ正當ト認メ本論ノ
取トナレリ

○第十(政府ガ貧民ヲ救助スルヲ可トスルヤ否ヤ)

國友社討論

發論者末廣重恭氏曰ク貧民ヲ救助スルノ利益ハ已ニ業
ニ朝野新聞紙ニ掲ケル貧民救助論第七篇ト同一ナル
ヲ以テ今茲ニ之ヲ略ス

奥宮健之氏本論ニ反對シテ曰ク末廣論者ハ大ニ貧民救
助ヲ可トセラレ之ヲ主張シテ我東京府會カ上野教育
所ヲ廢セントセシテ非難セリ然レモ吾輩ハ之ヲ贊成
スル能ハサルノミナラス反シテ一々之ヲ駁撃シ其頭
腦ヲ銷セル迷雲ヲ一掃シ去ラントス論者ヨ論者ハ曰
ク罪アルノ懲役人ヲ養フテ却テ不幸ナル貧人ヲ顧ミ
サルハ抑モ政府カ其職掌ヲ誤ルモノナリト何ソ其レ

然ラン罪人ヲ獄ニ繋キ之ヲ養フハ社會ノ害惡ヲ防シ
カ爲メノミ貧人ヲ救フハ貧人一己ノ爲メニシテ社會
一般ノ爲メニ非ラス何ソ彼ノ罪アリ害アルカ爲メニ
獄ニ繋ナカレタル惡ムベキ懲役人ト比較スベケンヤ
又論者ハ不幸ナル貧人或ハ生活ノ依頼ナキ孤獨癡疾
者ヲ救助セザレハ社會ニ貧人ヲ増加シ將タ此貧人ハ
社會ニ害惡ヲ加フベシト言ハレタリ然レモ貧人ヲ増
加スルノ原因ハ之ヲ救ハザルカ爲メニ非スノ却テ之
ヲ救フテ一般ノ懈怠ヲ惹キ起スニ出ツ試ニ古來ノ歷
史ヲ觀下シ來レヨ貧人ヲ救フカ爲メニ社會ニ貧人ヲ
減シタル實驗アルカ論者ハ又不適當ナル醫師ノ喻ヲ
以テセリ曰ク茲ニ危篤ノ病者アリテ其命旦夕ヲ待タ

今此病者カ醫師ニ請フニ治療ノ事ヲ以テセンニ醫師ハ己レノ義務コアラスト言テ之レヲ顧ミサルヲ得ルカト嗚呼是レ何等ノ喩ソヤ病者ノ醫師ニ於ケルヤ之ニ治療ヲ依頼シ後ヲ始メテ醫師ハ之レニ對スル道德上ノ責任ヲ生スルナリ豈ニ政府ノ貧民ニ對スル法律上ノ事ト同視スヘケンヤ故ニ政府カ我レヨリ進ンテ之ヲ救フハ職掌ヲ踰越スルナリ將タ政府ハ之ヲ救ハサルヲ得サルノ義務ナシ夫レ少數人民ヲ救フカ爲メニ多數人民ニ税金ヲ賦課スルハ是レ一ノ貧人ヲ救ハントシ許多ノ貧人ヲ増殖スルナリ不公不平此ヨリ甚シキハナシ夫レ大ノ小ヲ壓シ強ノ弱ヲ制スルハ自然ノ勢ナリ今貧人ヲ以テ富有ト並ヒ立ント欲スルハ

自然ニ逆フナリ社會ニ不平均アルトテ人爲ヲ以テ之ヲ矯正スヘカラス論者ハ貧人ヲ救ハサルヲ以テ不深切ナリト謂フカ是レ決シテ然ラス貧人ヲ戒シムルニ貧窮ハ懈怠ノ報酬ナリト言フヲ以テスレハ是レ貧人ニ對スル莫大ノ深切ナリ吾輩ハ醫師ノ喩ヲ以テ反テ論者ヲ難セン今藪醫先生アリ病者ヲ治スルカ爲メニ害毒アル藥劑ヲ服セシメ之カ爲メニ死ニ至ラシムル事アラハ論者ハ此醫師ヲ目シテ適當ナル義務ヲ尽セリト言フカ至竟政府カ教育所ヲ立テ、貧人ヲ救フハ其職務ヲ越エシ者ナリ社會則チ政府ハ貧人ヲ救フノ義務ナキナリ

大石正己氏曰ク世ニハ不深切ナル人モアルモノカナ其

僻モ此論者カ事物ノ道理ヲ知ラザルコソ笑止ナレ與
 宮論者ハ人類ヲ以テ毛蟲一般ノ動物ト同一視スルカ
 何ソ其言ノ謬レルヤ人類カ社會ニ生育スル目的ハ果
 ヲ如何ソヤ彼ノ毛蟲ノ如ク強大者ハ弱小者ヲ壓制ス
 ルノ如キニアラス必スヤ強者ハ弱者ヲ憫ンテ之ヲ扶
 ケ大者ハ小者ヲ愛シテ之レヲ救ヒ相共ニ社會ニ生立
 シ幸福ヲ同ウスルコソ適當ナル目的ト云フヘケレ論
 者ハ小數人民ノ爲メニ多數人民カ税金ヲ負荷スヘカ
 ラスト云ヘリ然ラハ即チ論者ニ問ハン少數人民ノ權
 利ヲ保護スル爲メニ國稅ヲ以テ成立スル彼ノ諸裁判
 所ノ如キ僅小ノ罪犯人又ハ暴戾人ヲ逮捕スルカ爲メ
 ニ國稅ト地方稅トヲ以テ設立セル警察事務ノ如キ皆

ナ是レ政府カ適當ナル範圍ヲ脱却シタルモノナルカ
 吾輩ハ裁判所及ヒ警察署ヲ以テ適當ナル權限ヲ越エ
 タリト稱スルノ論者ハ未ダ曾テ聞カサルナリ論者又
 曰ク社會即チ政府ハ貧人ヲ救フ義務ナシト既ニ人類
 カ社會ニ生立スルハ幸福ヲ同ウスルヲ以テ目的トナ
 セハ不幸者ヲ濟フテ與ニ快樂ヲ受クルハ是レチ義務
 ト云ハスト何ソヤ論者ハ之レチ世ノ慈仁者ニ任カス
 ヘシト謂ハンカ果ソ然ラハ貧人ヲ救助スルノ不均
 ナルコソ貧人ヲ増加スルノ一大原因トナル有名ナル
 ミル氏ノ説ク所チ見ヨ救助チ慈仁者ニ任カスノ害ヲ
 歴舉セリ今ヤ教育所ヲ設クルハ貧人ヲ減少スルノ目
 的ナルニモ拘ハラヌ却テ益ス入院者ヲ増加シ貧源チ

斷絶スル能ハサル者ハ是レ他ナシ其方法ノ過テルカ
爲メナリ論者ハ之ヲ是レ慮ハス方法ノ惡シキヲ以テ
併セテ貴重ナル目的ヲ廢セントスルハ道理ヲ知ラサ
ル者ト謂フベシ

青木匡氏曰ク東京府會ノ議論ノ盛旺ナリシハ今年度ヨ
リ甚タシキハナシ而シテ事ヲ論スルノ劇切ナルハ上野
教育所ヲ廢置スルノ議ニ若クハナシ蓋シ該論ハ社友
肥塚龍氏カ詳カニ之レヲ論シタリシヲ以テ吾輩ハ今
之レヲ假用シ且ツ吾輩ノ意見ヲ附シテ以テ大ニ本論
者ヲ排撃セシ本論者ハ義務ト云フヲ知ラサルモノ
ナリ蓋シ義務ニ道德上ノ義務ト法律上ノ義務トアリ
論者カ貧人ヲ救助スルヲ社會相互ノ義務ト云フハ道

徳上ノ事ナリ豈ニ法律上ノ事ニ屬センヤ論者ハ權利
ト義務ト互ニ相連帶シテ須臾モ離レサル性質ヲ有ス
ルヲ知ルナラン然ラハ社會即チ政府カ貧人ヲ救助
スルヲ以テ義務ナリトセハ貧人ハ政府ニ向テ救助ヲ
受クルノ權利アルカ貧人ニ斯クノ如キ權利ヲ有セサ
ルヲ論者ト雖也之ヲ知ルナラン既ニ之レヲ知ルト
セハ政府ニ又此ノ義務アラサルヤ明々白々ナリトス
論者ハ彼ノ高梨氏カ曾テ原告タル資格ヲ以テ被告ナ
ル日報社ノ代言人トナリシヲ知ルナラン到底高梨
氏ハ名譽回復ヲ希望シタル原告ノ一人ニテアリナカ
ラ雖然其志ヲ一變シテ同輩ト法庭ノ間ニ見ル事ハ或
ハ道德上ニ就イテ之ヲ咎ムル者アルヘシト雖也法律

上之レヲ禁スルモノニアラス以テ法律ト道德ノ同シ
 カラサルヲ見ルヘシ故ニ吾輩ハ貧民救助ハ政府カ法
 律上ノ義務ニアラサルヲ主張ス果メ本論者ノ説ノ如
 シナレハ終ニ政府カ干涉ハ馴致シテ或ハ一家ノ内政
 ヲ指揮シ或ハ父子兄弟ノ間ヲ處スルニ至ルヘシ之レ
 ヲ要スルニ道德ノ事ハ政府カ直接ノ職務ニアラス
 高橋基一氏曰ク貧民救助論ハ本論者已ニ之ヲ論シタリ
 シヲ以テ吾輩ハ蛇足ヲ畫クヲ欲セサレトモ今少シク其
 意ヲ述フヘシ論者ニシテ貧民救助ヲ政府ニ任スヘキ
 ガ將タ世間ノ慈仁者ニ委スヘキカト云フニ説ノ當否
 ヲ知ラント欲セハ先ツ二者ノ便否ヲ計較セヨ論者ハ
 貧民ト云フ區域ヲ疑フト雖モ是レ甚タ分チ易キ者也

病者体格不具者老耄人孀婦孤獨兩親ナキ小兒ニシテ生
 活ノ依頼ナク之ヲ放棄スレハ直チニ餓死ニ就ク者等
 即チ是レナリ其他四体堅固ニシテ勞動ニ差問ヘ無キ者
 ノ如キハ與カル所ニアラス若シ之ヲ慈仁者ニ任セハ
 勢過不及アリ若シ過分ニ救助スレハ其弊懈怠ノ僥倖
 者ヲ生シ營業ヲ止メテ貧民ト爲ラン若シ救助不足ナ
 レハ野ニ餓死ヲ見シ政府ニテ之ヲ引受クルルハ過不
 及ノ害無シ是レ便利也然ルニ反對論者ハ自然ニ任セ
 ヲト云フ是レ多クノ貧人ヲ造出スルニ非サレハ餓死
 ヲ生セシメントスルナリ畢竟人類ト禽獸トチ同一視
 スルノ過チナリト云ベシ

佐伯剛平氏曰ク反對論者ノ口實トスル所ハ救助ノ事ハ

法律上ノ義務ニアラスト云フコアリ夫レ法律ノ目的ハ吾人ニ幸福ヲ與フルニ在リ幸福トハ吾人カ愉快ニ生活スルノ謂ヒナリ今途ニ棄兒ノ悲號スルヲ聞クモ飢者ノ街頭ニ倒レテ死ニ瀕スルヲ見ルモ毫モ哀憐惻隱ノ念慮ヲ起サ、ル者天下幾人カアル斯ル不幸者ヲ救助シ極濟スルハ人ノ最モ愉快トスル所ナリ己ニ愉快ナリ幸福ナリトセハ法律ニ於テ彼此ニ幸福愉快ヲ取ラシメンコ何ソ之レヲ職掌ニ越ユルト謂フヘケンヤ且ツ道德上ノ義務モ之レヲ移シテ法律上ノ義務トナスヘシ將タ貧人ヲ救テ害ヲ未萌ニ防クハ各人ノ爲メニ最モ要用ナルコニアラスヤ如何々々

馬場辰猪氏曰ク貧人ヲ救助スルハ社會ノ義務ナリト假

定スルモ政府ニ依頼スルハ不可ナリ蓋シ貧民救助ハ國家改進ノ度ニ從ハサル可ラス今我カ日本ノ現況ヲ觀察セヨ之ヲ政府ニ委セスノ可ナルノ程度ナク何トナレハ世ニ慈仁者多シ政府カ之ヲ救ハサルモ貧人餓死ニ至ラサレハナリ

林包明氏曰ク論者ヨ道德ト法律トヲ混一視スル勿レ論者カ不幸ナル貧人ヲ救フノ義務アリト爲スハ道德ノ事ナリ罪人ヲ養フハ社會ノ爲メ己ムヲ得サルニ出ツ即チ法律ノ事ナリ然ルニ論者ハ法律ト道德ノ區別ヲ知ラス罪人ト貧人トヲ比較シ來ルハ前後矛盾ノ甚シキモノナリ目下府下ニ貧窮者ノ多キ凡ソ幾許ソヤ而シ極貧者ヲ救フカ爲メニ此許多ナル貧民ノ膏血ヲ絞

ルハ吾輩ノ最不愉快トスル所ナリ
 發論者末廣氏答辨シテ曰ク反對論者ハ義務ナル文字ヲ
 如何ニ解シ爲スヤ義務ナル者ハ定則ニアラス單ニ之
 ナ言ヘハ厄介ト云フ意義ナリ然ルニ反對論者ハ之ヲ
 六カシク述ヘ立テタリ夫レ義務ハ厄介ナリ損失ナリ
 然リト雖モ社會ノ公益ニ關スルハ吾人ニ於テ其ノ
 厄介ヲ引キ受ケサルヘカラス反對論者ハ交モ出テタ
 レルニ其ノ説ヲ約スレハ三目ニ過キス第一救助ノ害第
 二法律ト道德トノ混同第三日本ハ改進セリト云フニ
 アリ吾輩ハ一々之レヲ辨解シテ以テ反對論者ノ迷蒙
 ナ啓キ併セテ府民ノ不幸ヲ救フ義務アルヲ示スヘシ
 ト是ニ於テ英國教育所ノ沿革ヲ舉ケ昔時ハ救助法ニ

二法アリ一ハ教育所ヲ立テ之ヲ使役シ一ハ家ニ在ッ
 テ救助ヲ受ク往年政府ニ於テ法ヲ定メ第二法ヲ廢シ
 テ第一法ヲ取リシヨリ貧民ノ教育ヲ受クル者過半ヲ
 減セシ例ヲ舉ケ更ニ貧民救助ヲ慈仁者ニ任カスノ害
 アルヲ示シ又教育所ハ社會最下等ノ生活ヲ以テ給與
 ノ本位ヲ定メ僅カニ飢寒ヲ免カレシムルヲ以テ之カ
 度トナシ力役勞勵ノ其志願ハ夫ノ禁獄懲役ト相距ル
 遠カラサラシメハ之カ爲メニ貧民ヲ増加スルノ憂ヘ
 ナカカヘキヲ説キ細カニ街頭貧民ノ情態ヲ描出シ其
 憫ムヘキノ狀ヲ示シ且ツ(青木氏)ヲ駁スルニ法律ト道
 徳トノ區別ハ時節ト場合ニ因テ變更スルヲ以テシ又
 少數人民ト雖モ多數人民ノ之ヲ救ヒ之ヲ助クルノ義

務アルヲ述ヘ又前論ヲ反覆ノ反對論者ノ主張スル所
 ハ千年若シハ万年ノ後ニ在ル道德世界ニ非サレハ行
 フヘカラサルヲ擧ク(馬場氏)ヲ駁スルニ世ニ餓死者十
 キハ教育所アルニ基クノ理由ヲ以テシ最後ニ救助ヲ
 行フニハ其方法ノ改良ニ注意スヘキヲ以テセリ
 議長西村玄道氏決ヲ聽衆ニ取ル本論ヲ賛成スルモノ多
 數ニ付本論ニ可決ス

○第十一(國事犯人ヲ死刑ニ處スルノ可否)

共誠會討論

大岡育造氏曰ク茲ニ掲クル一題ハ高梨哲四郎君ノ原案
 ニ係ル者ナレトモ今日同君要事アル趣ニテ出席アラス
 故ニ余輩之レガ代理ヲ務ムベシ然シ余輩ガ訥辨ナル

固ヨリ雄辨高梨君ノ意ヲ諸君ニ傳達シ能ハザレハ宜
 シク諷怨アラソクテ望ム扱テ之ヲ論辨セシニハ先ツ
 國事犯ハ如何ナル者ナルヤヲ研窮スルヲ要ス此ヲ研
 窮セシニハ先ツ犯ノ種別ヲ説カザルベカラズ夫レ犯
 ト云ヘハ盜賊ヲナスモ國法ヲ犯スナリ牆陰ニ放尿ス
 ルモ亦タ國法ヲ犯スナリ而シテ此ノ國事犯ニ至テモ
 復タ之レ均シク國法ヲ犯ス者ナリ然レトモ唯ダ此國事
 犯ヤ尋常犯ノ比ニアラズ已レガ思想ノ現在政府ノ主
 義ニ反對スルヨリ熱心以テ其事ヲ執リ飽マデ政治ノ
 改良ヲ計畫シ衆多人民ノ幸福ヲ欲望スルヨリ其所爲
 會マ政府ノ嫌忌ニ觸ル、者ナリ此レ他人ノ財産ヲ奪
 フ者トハ同日ノ論ニアラズ且ツ夫レ國事犯ノ起ル必

大ヤ之ガ源因ト爲ルベキ者アリ政治ノ完美ニシテ善
 シ民心ニ適當スルノ邦國ニ於テハ決シテ國事犯ノ患
 アルコナシ只其レ政治弊害多ク漸ク民憲ニ背馳スル
 ニ及ンデハ忽チ各所ニ蟻集蜂合シテ黨ヲ結び徒チ樹
 テ叫奔狂走以テ其ノ政府ヲ顛覆シ其ノ弊害ヲ鋤去セ
 シコヲ勉ムルニ至ルナリ此レ則チ國事犯ノ源因ハ弊
 政ニ在ル所以ニシテ之ヲ詳言セバ弊政自カラ國事犯
 チ引起ス者ニシテ國事犯人ノ與リ知ル所ニアラザル
 ナリ試ニ一國政事家ノ形狀ヲ視ヨ所謂勝ては官軍負
 色バ賊徒ノ状態アルニ非ズヤ其ノ兩黨並ビ起テ政事
 チ爭奪スルニ當テヤ勝利ヲ獲ルモノハ錦繡ヲ衣シ騶
 馬ニ縶シ失敗スル者ハ即チ此ノ國事犯ト惡視セラレ

ハニ至ラン然ラバ則チ國事犯ナル者ハ運命未ダ至ラ
 ズ禍機早ク迫リテ其ノ結果常ニ目的ト相支吾スル者
 ニ過ギズシテ之レガ意想ヲ討究スルルキハ寧ロ眞正ナ
 ルモ決シテ邪惡ノ分子ヲ含有セザルナリ或ハ尙ホ且
 ツ曰ク國事犯ノ國家ニ損害ヲ被ムラシムルヤ實ニ甚
 タシ是之ヲ罰スル嚴重ニセザルベカラザル所以ナリ
 ト如斯論者ハ理ヲ求ムル實ニ粗畧ナルモノト言フベ
 シ今ソレ(中畧)新政ヲ施カント欲セハ此ノ間多少ノ損
 害アルハ數ノ免レ難キ處ニシテ毫モ疑ヲ容レザルナリ
 之ヲ例センニ一指チ病ム者全身ノ健康ヲ保タンガ爲
 メニハ之ヲ切斷セザルベカラス既ニ之ヲ裁斷スルルキ
 ハ隨テ其ノ疵痕ヲ留メザルチ得ザルベシ余輩故ニ曰

シ國事犯ハ惡意ナシ又タ社會ヲ害スルハ弊政ノ招ク
 所コソ國事犯ノ知ル處ニアラズ其ノ之ヲ處スルニ死
 刑ヲ以テスベカラザル明且ツ亮ナリト
 飯塚銀彌氏曰ク余輩ハ本論ニ反對ナリ此ノ國事犯人ノ
 懲諒スベキハ實ニ本論者ノ言ノ如シ然レモ國內ヲ騷
 擾シ慘憺ナル禍害ヲ與フル者ハ未ダ國事犯ヨリ甚ダ
 シキハナシ故ニ之ヲ處斷スルニ宜シク至當ノ刑罰ヲ
 以テセザルベカラズ而シテ刑罰ノ最モ嚴且重ナルハ
 死刑ナリ其レ己ニ慘憺ナル禍害ヲ社會ニ被ムラシム
 ル大罪ヲ犯スモノ此ノ嚴且重ナル死刑ニ處ラル、ハ
 則チ至當ノ法ト云フベキナリ又タ本論者ハ曰ク國事
 犯ハ惡事ニアラズト夫レ惡事ト善事トハ如何ナル点

ヨリ辨別シ去ル乎之レ畢竟社會ヲ利益スルト損害ス
 ルトニ依ラズンハ在ラス果シテ然ル乎國事犯ナル者
 ハ前述スル如ク社會ニ荼毒ヲ流スモノナリ其ノ惡事
 ニシテ善事ニアラザルヤ瞭然火ヲ賭ルガ如シ本論者
 最末ノ言ニ勝てバ官軍負ヒバ賊ト余輩ハ去レバコ
 ソ益々務メテ國事犯ハ嚴罰ニ處セザルベカラズト云
 ハントス如何トナレハ凡ソ人畏懼スル處アリテ而シ
 テ後チ戒慎スル處アリ然ルチ今假令國事ヲ犯スモ嚴
 罰ノ畏レナク万一ニ僥倖セハ所謂官軍的コシテ駟馬
 ニ跨リ綾羅ヲ纏フノ快樂ヲ受クル如キコアラハ天下
 何人カ滔々相ヒ率キテ國事犯人トナラザル者アラシ
 ヤ

木村福次郎氏曰ク原案者ハ既ニ能ク詳細ヲ悉クサレタ
 レモ余ハ尙ホ其端緒ヲ承紹シテ少シク之ヲ擴充セシ
 ト欲スルナリ抑モ死刑ハ如何ナル者ゾト云フニ苟モ
 正當ニ法理ヲ講明スルノ人ハ一般ノ刑罰ヨリ取り除
 カノコヲ熱望スル處ニシテ己ニ西洋ノ如キハ其議論
 大ニ勢力ヲ占有スルト聞ケリ況ヤ國事犯ナル者ハ現
 在政府ト所見ヲ異ニシ利益ヲ同セザルヨリ起ル者ニ
 ノ畢竟愛國ノ至情ニ發生スト云フモ決シテ過言ニア
 ラズ此ノ如キ人ハ若シ其志望ヲ達シ政堂ニ立テ樞機
 ヲ運轉スルニ至ラハ必ズ勵精シテ社會ノ利益ヲ求ム
 ルヤ疑ヲ容レザルナリ然ラ一朝事ノ破レニ乘シテ其
 身ヲ殺サハ遂ニ愛國者ハ跡ヲ絶テ暴政ノ橫肆スルヤ

モ計ラレズ之レ獨リ國事犯人ノ不幸ノミニアラヌ抑
 モ亦タ社會一般ノ不幸ト云フベシ而シテ反對論者ハ
 社會ヲ紊亂スルノ痕跡ヲ絶タンガ爲メ之ヲ嚴罰ニ處
 スベシト此レ實ニ思ハザルノ甚タシキナリ彼ノ國事
 犯人ノ如ハ兵備ノ嚴格ナルヲモ畏避セズ一身ヲ擧ゲ
 テ犠牲ニ供シ以テ其ノ素望ヲ達セシト欲スル熱心ナ
 レバ何ゾ鼎鑊ノ酷刑ヲ憚カリテ咨跽スルコトアラソ共
 ノ痕跡ヲ絶ント欲スルノ酷刑ハ却テ彼ニ激動ヲ與フ
 ルノ媒助タルヘキノミ且ソレ法律ハ改良ヲ加フル毎
 ニ漸々輕減ニ赴クハ法理ノ元則ナリ然ラ何ヲ苦デカ
 實情ノ愛スベキ國事犯ニ向テ殊更ニ酷刑ノ極タル死
 罪ヲ充用スルコトナス哉

山中道正氏曰ク反對者ノ主意ヲ摠括シテ云フキハ國事
 犯人ヲ死刑ニ處セズンバ其ノ黨益々滋ゲシト余ハ反
 シテ云ハントス國事犯ヲ峻罰ニ處セバ其類愈々増加
 スルベシト視ラレヨ國事犯人ノ尤モ多キハ如何ナル
 時代ニテアリシ乎將タ又々如何ナル制度ノ下ニアリ
 シ乎諸君ハ必ス記憶セラル、ナラン我が國十有余年
 徳川家ノ威權未タ墮落セサリシ中勤王攘夷ヲ口實ト
 スル浪士輩カ四方ニ起テ顛覆ヲ企ルヤ幕府ハ峻刑ヲ
 以テ此輩ヲ待チ之ガ爲メ慷慨悲壯ノ士ガ斷頭場裏ノ
 生草ヲ肥ス者日ニ幾人ナルヲ知ラズ然レモ此等憂世
 ノ士ハ慘刑ノ爲メニ其勇氣ヲ阻壓セラレズ逮捕愈々
 急ニシテ其黨類愈々殖シ遂ニハ幕府ヲ顛覆シテ明治

ノ新政府ヲ組織セシニアラズヤ又々現時魯國虛無黨
 ノ如キモ壓抑ヲ受クル甚ダシク隨テ其ノ黨ノ勢モ亦
 タ實ニ意外ノ猛烈ヲ顯ハシ今ニ於テハ殆ント其底止
 スル所ヲ知ラザルモノ、如シ因此觀之峻刑酷罰ノ國
 事犯ヲ止ムベカラザルヤ明亮ナリ而シテ此刑法ナル
 モノハ單ニ惡意ヲ罰スルナリ國事犯既ニ惡意ニアラ
 ズンバ刑ヲ施スノ目的ニ於ケルモ業己ニ消滅シ去レ
 リト言ハザルヲ得ズ且ツ又々法ニ於テ未遂已遂トチ
 區別シテ其罪ヲ斷ズルハ已遂コソ問フベケレ然ル
 ニ已遂ナレバ政府トナリ未遂ナレバ賊徒トナリテ死
 罪ニ坐セラル、平實ニ法理ニ乖離スル太甚ダシキ者
 ト云フベキナリ

志摩萬次郎氏曰ク余ハ試ニ反對ノ地位ニ立チテ本論ヲ
 駁撃セントス諸君ハ一國ノ道理ハ果シテ何クニ在ル
 ト思惟セラル、ヤ其政府ヲ措テハ蓋シ他ニ一國ノ道
 理ト稱スベキ者ハアラザルベシ何トナレハ政府ナル
 モノハ國民多數輿論ノ湊合スル所ナレバナリ然ルニ
 彼ノ國事犯ナル者ハ此政府ニ抵抗スル者ナリ則チ一
 國ノ道理ニ抵抗スルモノナリ何ツ之ヲ認メテ善事ナ
 リ惡意ニアラズト做スコトヲ得ンヤ而シテ其社會ヲ紊
 亂スルコトハ既ニ飯塚君モ言ハル、如ク實ニ大ニシ
 テ其害タルヤ決シテ通常犯ノ比ニアラズ抑モ刑法ノ
 主タリ目的タルヤ社會ノ害惡ヲ除去スルニ在リ是ヲ
 以テ國事犯罪ノ如キ假令惡弊キモ害ノ大ナルト相比

較スルキハ毫モ宥恕スベキ理アルヲ發見セザルナリ
 是レ嚴罰ニ處シテ不可ナキ所以ナリ又タ一步ヲ進メ
 テ實際上ヨリ論辨セシニ其道理ノ正當ニシテ本論者
 ノ唱道スル意思ノ忠實ナル國事犯ハ決シテ成功セザ
 ルコトナシ彼ノ北米聯邦ガ英國ニ反スルガ如キ是ナリ
 而シテ江藤ノ如キ西郷ノ如ク一敗地ニ塗レテ復タ爲
 スベカラザル者ハ畢竟其道理ノ正當ナラズ世人ノ屬
 望スル所ニアラザルヲ以テナリ諸君中或ハ西郷ガ成
 功シタランニハ必ズ良政ヲ施スナランナド妄想ヲ懷
 カル、方ナキニシモ非ザルベケレトモ若シ彼ノ西郷ガ
 其目的ヲ達セバ其ノ施爲スル所遙ニ諸君ノ豫期ニ反
 シ其ノ慣手ナル武斷政治ヲ執ルヤ疑ナシ以上論述ス

ル如クナルヲ以テ國事犯ヲ死刑ニ處スルモ更ニ非理不正ナルヲ見ザルナリ又タ山中君ニハ未遂已遂ノ辨ヲ設ケテレシモ此レ實ニ了解ニ苦ムナリ何ヲ以テ此ノ未已ノ標準ヲ立テシヤ彼ノ國事犯西郷ノ如キモ兵ヲ繰出シ田原坂上ニ陣スルニ至テハ之レ已ニ已遂ナリ何ゾ其目的ヲ達セザル間ハ未遂ナリト見做スヲ得ンヤ

田嶋鹿之助氏曰ク本論ハ殆ンド全勝ヲ一場ニ制セシ如クナレトモ余輩ハ衆諸君ニ同シテ之ヲ贊成スルヲ能ハズ其ノ本論者ニ論據ナキヲ以テナリ原案者ハ彼ノ俗謠ニ所謂勝てバ官軍負けバ賊よノ例ヲ引証シ來タリテ謀々國事犯人ニ惡意ナキヲ辨シ之レヲ死刑ニ處ス

ル非ナサルヲ主張セテレタリ去レド未ダ其贊成者中ニ國事犯人ヲ無罪トナスベシト説ク者アルヲ聞カズ此レ原案者ト雖モ既ニ國事犯ガ社會ノ公安ヲ害シ秩序ヲ紊乱スルノ罪人タルヲ了解シ居ラル、ニ甫ルナリ既ニ犯人タルニ相違ナキカ其ノ罪跡ノ重大ナルニ至ラバ之ヲ死刑ニ處スルハ蓋シ復タ己ムヲ得ザルニアラズヤ而シテ原論者ハ罪跡アルモ惡意ナシト云ヘド余ハ甚ダ疑ハザルヲ得ズ成程壓制國ノ人民ガ自苗ヲ恢復センガ爲メカ或ハ國會開設ノ爲ニスル如キハ其思想ヤ愛スベシ其哀情ヤ哀ムベキガ如キモ他之ニ類セザル者極メテ多シ又勝てバ官軍負けバ賊トハ一概ニ論ズ可ラズ如何トナレバ其敗勝ハ事ノ善惡ニ

關セサルヲ以テナリ然レモ其勝利ヲ占ムルハ多クハ當時ノ民意ニ適スルモノニシテ其ノ敗走スル者ハ興望ニ戻ルモノ、如シ而シ他人ヲ害セバトテ必ズシモ罰ヲ被ムルトニハアテズ世間暴殺ニ類スル事柄ニシテ其ノ罪ヲ受ケザルモノアリ例ヲ舉ゲテ之ヲ証センニ英國ノ碩儒ベンザム氏ガ海上破船ノ災難ニ罹リ甲者ガ浮板ニ攀チテ此ノ難ヲ避ケントスルキ乙者其ノ浮板ヲ奪ヒ去テ甲者ノ死ヲ致スモ法律ハ之ヲ罰スベカラズト論シタル場合ノ如キ即チ之ナリ此他ナシ甲者ヲ倒ズンバ乙者ガ生命ヲ保スベカラザルヲ以テナリ今國事犯ノ如キ其意或ハ全ク邪惡ナラザルモ果シテ前例ノ如キ取リ除キ以テ推スベキカ余輩ハ斷シテ

其然ラザルヲ知ルナリ況ンヤ此ノ嚴罰ナクンバ國事ヲ犯スモノ踵相接シテ爲メニ社會ニ流毒スル甚少ニアラザルナリ

堀口昇氏曰ク本論者ハ甚ダ道理ニ違フ者ナリ其言ニ曰ク國事犯ハ善意ヨリ起ル故ニ之ヲ嚴罰ニ處スルハ非ナリト而シテ此レヲ贊成スル者モ亦タ大概如此意ニ外ナラズ今假リニ此等ノ論士ヲ集メテ法律ヲ制定セシメハ其ノ情狀ヲ適用シテ制法部内ニ繰込ミ之レハ親父ノ爲メニナリトテ輕重ヲ定ムルニ至ラソ凡ソ法ニ輕重ノ差アルハ其害惡ノ多少ニ係ルモノナリ而シテ彼ノ情狀ナル者ハ只ダ法官ガ犯罪ヲ處斷スルニ際シテ其ノ參酌ニ供スルノ具ナル而已然ルヲ本論者ハ

之ヲ察知セズ其參酌ノ具ニ過ギザル情狀ヲ以テ直チニ制法ノ主義ニ代用セントスルハ誠ニ標準ヲ誤ル甚クダシキ者ナリト云フベシ次ニ木村君ハ愛國ノ赤心ヨリ起ル國事犯ヲ嚴罰ニ處スルキハ社會ニ愛國者ヲ絶ツニ至ラント論ゼラルモ思ヘバ其ノ隣席ナル贊成者ハ之レヲ嚴刑ニ處スレバ却テ國事犯ノ増加ヲ招カント説キ互ニ同士打ヲナサレタリ此ノ兩個ヲ合シテ其中ヲ取テハ取モ直サズ空虚トナリテ我が反對説ハ烟散霧消ニ歸シ去ラン此レ其ノ原據ナキヲ証スルニ足ルナリ余輩故ニ曰ク國事犯ノ懲諒スベキハ只ダ些少ノ精狀アルノミ而シテ其情狀ナル者ハ單ニ法ヲ參酌スルノ具ニ過ギズ而シテ田園ヲ荒シ生民ヲ害スル

國事犯人之レヲ死刑ニ處スル何ノ道理ニ乖クノ事ア
ランヤ

黒岩大氏曰ク余ハ大岡君ノ本論ヲ贊スル者ナリ其故二アリ第一ハ之ヲ罰スル太嚴ナレバ其黨類ノ増殖ヲ來ス恐アリ其二ハ善人ヲ殺スナリ凡ソ人ノ常情ハ最モ感激シ易キ者ナリ去レバコソ彼ノ島田一郎ガ如キモ死シテ一片ノ墓碣ヲ留ムレバコソ人々ハ香花ヲ手向テ其ノ雄志ヲ哀ムナリ若シ彼ヲシテ今日ニ生存セシメナハ誰カ之レヲ慕ヒ之ヲ愛スル者アラシヤ然ラハ則チ其ノ同志タリ黨與タル者ガ峻刑ニ觸レ酷罰ニ罹ルヲ視バ其ノ感激スル幾十倍ナルヲ知ルベカラザルナリ(以上第一)又マ現在ノ政府ハ此レ前政府ノ國事犯

7600

1

36055

百五十八

ナリ目今ノ國事犯ハ是レ來世ノ政府(中略)唯各其ノ信
 憑スル所ニ據テ其政府ヲ組織セント欲スルナリ豈ニ
 懲罰ノ之レニ加フヘキ者アラシヤ此ヲ之レ察セズシ
 テ猥リニ死刑ヲ行ハハ世ノ英雄ト呼ヒ豪傑ト稱スル
 志士ハ悉ク獄裡ノ鬼トナラザルヲ得ザルベシ(以上第
 二)

議長曰ク決テ聽衆ニ請フ國事犯人ヲ死刑ニ處スルニ同
 意ヲ表スル方々ハ起立セラレヨ起立スル者僅カニ七八
 名又ク曰ク更ニ本論ニ賛成ノ方々ニ請フト是レ未ダ
 場柏手喝采演堂爲メニ震フ

日本演說討論方法討論之部終



明治十五年三月廿日御届
 同十五年三月廿五日出版

定價金九拾錢

編纂者

茨城縣平民
 木瀧清類

出版者

東京府平民
 芝愛宕下町二丁目四番地
 山中喜太郎
 京橋區銀座四丁目三番地

發賣者

芝區三島町十番地
 山中市兵衛
 京橋區銀座二丁目九番地
 山中孝之助

東京書林

北畠 田佐 兵衛 稻田 源吉 兵衛 同 牧野 吉兵衛 水野 慶次 兵衛 東野 龜次 兵衛 江島 喜兵衛 小澤 新兵衛 北川 治兵衛 石川 勘右衛門 太田 勘右衛門 青山 清吉 福山 仙藏 金田 花堂 佐介 稻田 彌政 兵衛 內田 彌兵衛 小坂 彌兵衛 柳川 梅次郎

東京書林

木村 文三郎 別所 藤平 荒川 藤兵衛 內藤 泰治 金村 港 岡村 庄 鶴屋 喜右衛門 松田 幸三 覺張 榮三 出雲 寺萬治 吉川 篤半 穴山 篤太 中村 熊治 牧野 善兵衛 嚴川 善兵衛 平川 吉兵衛 磯部 太郎兵衛 石塚 彌兵衛 深野 彌兵衛

發賣所

同 同 同 同 同 同

東京銀座四丁目

博聞社

同日本橋通り三丁目

丸屋善七社

同芝罘岩下町

郁文堂

同三拾間堀三丁目

稻田佐吉堂

同南鍋町一丁目

兔屋誠社

同木挽町一丁目

萬字堂

同銀座三丁目

開新社

各府縣發賣書林

西京 全
大坂 全
尾州名古屋 全
全
美濃大垣 全
參州岡崎 全
駿州靜岡 全
豆州肥田村 全
三嶋 全
下田 全
蝶ヶ野 全
相州小田原 全

田中治兵衛
藤井孫兵衛
前川善七兵衛
前川源七郎
岡島真七郎
川瀨代助
萬屋東平
小栗太郎兵衛
岡安慶助
本屋文吉
浪花屋市造
吉見義次
柳島宇吉
堀屋又三郎
平野屋久七衛
九屋喜兵衛
米屋忠兵衛

全 小田原
全 橫須賀
全 藤澤
全 伊勢原
全 甲州山梨
全 柳町
全 八日町
全 上野原
全 武州橫濱
全 熊谷
全 鴻ノ巢
全 上總佐野町
全 東金
全 下總佐原
全 千葉
全 野州足利
全 栃木

大島治郎兵衛
竹川新四郎
川上九兵衛
山田淺次郎
内藤傳右衛門
徵明古堂
五明堂
富田秀實
吉川伊兵衛
松枝悅三郎
長島爲一
小松屋長七郎
能勢嘉左衛門
正文堂利兵衛
藤屋銳次郎
和洋商社
叶屋儀右衛門

全 上三川
全 宇都宮
全 高崎
全 前橋
全 太田
常州水戸
全 下館
全 龍ヶ崎
信州長野 全
全 松本
全 稻荷山
全 長野
全 松本

小林八郎
萩原藤雄
佐藤靜太郎
田中正太郎
竹内藤吉
文心堂源作
黑崎長三郎
長岡波太郎
川又銀三郎
須藤市左衛門
八幡屋幸助
岡野昌次郎
西澤喜太郎
田中彌兵衛
水琴堂爲吉
田中清左衛門
岩下伴五郎
藤松屋損十郎
精華堂八十兵衛

全 上田
全 白田
全 高遠
全 小諸
全 濃州岐阜
全 加州金澤
全 越中富山
全 越前福井
全 越後葛塚
全 長岡
全 加茂
全 長岡
全 新潟

飯島喜兵衛
高見屋甚左衛門
井出孫一
矢島金八
相場七左衛門
三浦源介
近岡屋甚平
大橋甚吾
守川吉兵衛
森下元次郎
三條屋七十郎
鳥屋十郎
上田屋治八郎
中村屋作平郎
番村吉次郎
松田吉周
伊勢屋甚
堀屋富吉
林富吉

設樂勝美編纂

改正 增補 官民必携

明治十五年二月改正

洋綴美本

全壹册

定價金壹圓五十錢

右ハ響ニ世人ノ喝采ヲ得テ盛大ノ賣額ニ至リシ舊官民必携ヲ改正増補シタルモノニシテ凡ソ官院省局府縣廳等ノ布告布達規則條例願屆諸式ノ細ニ至ル迄一トシテ洩スル所ナシ殊ニ新舊法令ノ沿革ナニ比例シテ參考ニ便ナラシメ其大部ノ布告類刑法ノ如キハ別ニ卷末ニ記載シタルモノニテ官吏人民ヲ諭ゼズ一度之ヲ手ニ播ケハ拾ルヲ能クサル重寶ノ書ナレバ請フ陸續愛顧ヲ賜ヘ

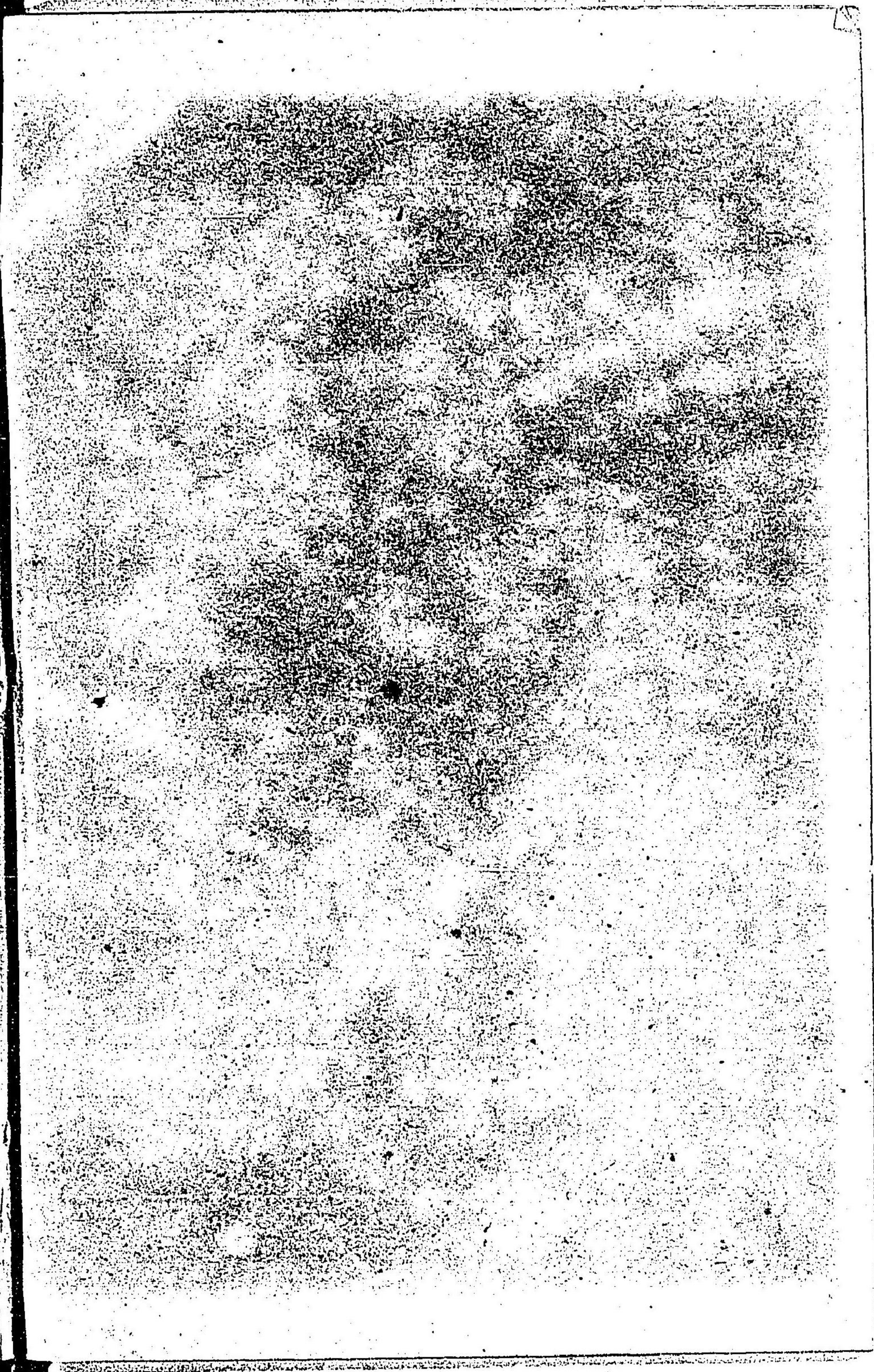
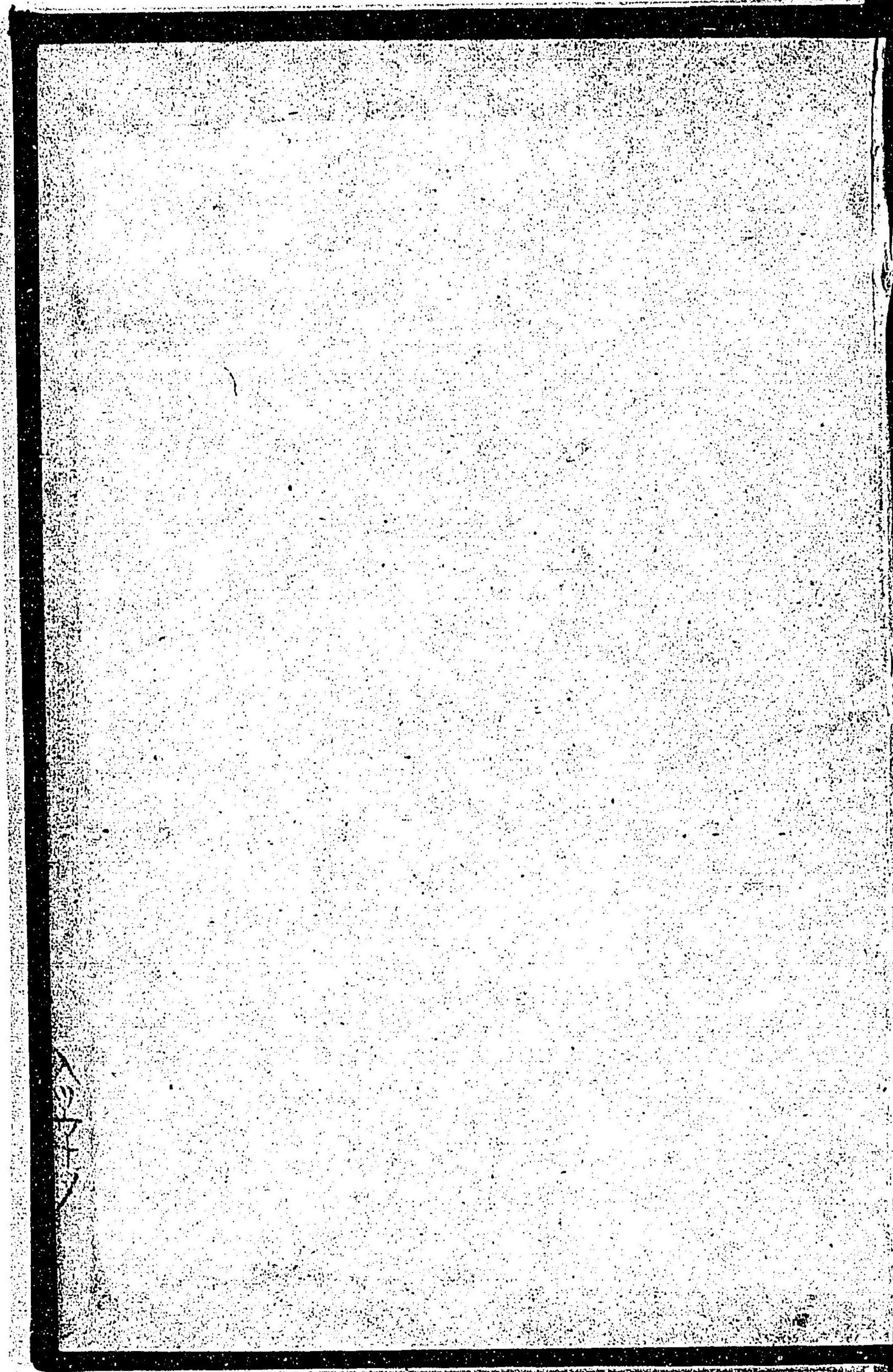
明治振起編

西洋仕立全一册 定價金六拾錢

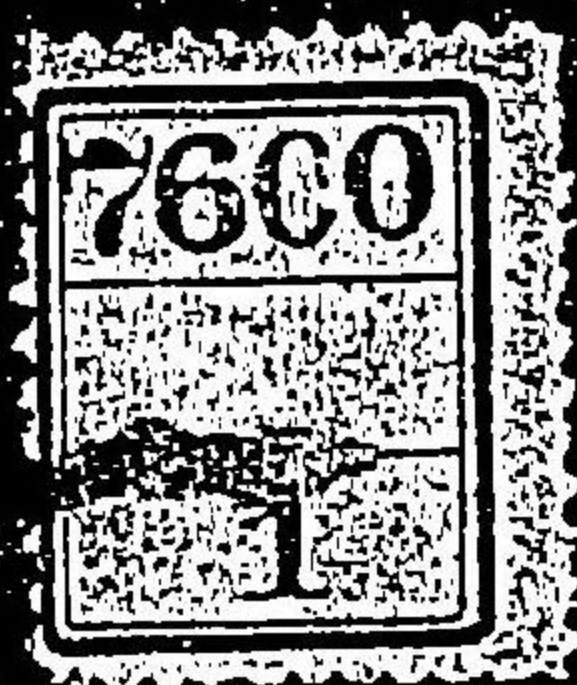
三宅虎太郎君ハ右書中我法律ニ抵觸シタル廉アリテ爰ニ禁錮罰金ノ處刑ヲ受ラレシ處ニ世間往々該書ノ發賣ヲモ併セ禁シラレタリト傳フル者アルヤニテ其眞僞ヲ弊舖ニ質サレテ諸君頻リナリト雖モ右ハ誤リノ流説ニテ君ハ前ノ書ヲ編纂出版シタル所政府ノ問フ所トナリ本年一月廿六日東京輕罪裁判所ニテ輕禁錮一ヶ月罰金三百圓ノ處刑ヲ受ケ既ニ二月廿五日ヲ以テ刑期滿チ出獄相成今日ハ自由ノ身トナラレタリ而シテ今ニ官ヨリハ發兌禁止杯ノ御沙汰會テ無之ナリ尤モ從來出版ノ分ハ最早各地方又ハ府下書林等ニ散布シ盡シテ僅カニ殘本アルニ過ギザレハ其儘トシ跡ハ斯ク嚴刑ヲ蒙リシ書ニ付謹テ出版者自テ絶版ニ歸スルヤノ赴ニ付必ズ其傳聞ノ誤リニ相違ナシ今弊舖ハ此書ニ付テハ素ヨリ情ヲ知ラザル者ナレド君ノ書籍賣弘ヲナス因ト諸君ノ質疑有ルニ因テ君ノ無事出獄ト世間流説ノ誤リトヲ併セ茲ニ告グ

書肆

柳心堂 東京銀座四丁目 喜太郎



1948
1949
1950
1951
1952
1953
1954
1955
1956
1957
1958
1959
1960
1961
1962
1963
1964
1965
1966
1967
1968
1969
1970
1971
1972
1973
1974
1975
1976
1977
1978
1979
1980
1981
1982
1983
1984
1985
1986
1987
1988
1989
1990
1991
1992
1993
1994
1995
1996
1997
1998
1999
2000
2001
2002
2003
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017
2018
2019
2020
2021
2022
2023
2024
2025



076794-000-0

特70-393

日本演説討論方法

木滝 清類 / 編

M15.3

DAB-0152



